

令和7年度
男女共同参画と多様な性についての
市民アンケート調査
－調査結果報告書－

令和8年（2026年）4月
横 須 賀 市

目次

1. 調査目的および調査概要等	1
(1)調査目的	
(2)調査概要	
(3)その他	
2. アンケート結果のまとめ	2
3. 集計結果	5
3-0 属性	
(1)性別【F1】	
(2)年齢【F2】	
(3)働き方等【F3】	
(4)結婚有無【F4】	
(5)中学生以下の子の有無【F5】	
(6)介護の必要な家族の有無【F5】	
3-1 用語や制度の認知度について	7
用語や制度等の認知度【問1】	
3-2 男女共同参画（社会）に関する考え方について	17
(1)男女の地位の平等感【問2】	
(2)「男女共同参画社会」実現のための一番の課題【問3】	
3-3 生活の中での男女共同参画について	25
(1)男女のありようについて【問4】	
(2)家事分担について【問5】	
3-4 女性の職業生活における活躍の推進について	35
(1)女性が職業を持つことについて【問6】	
(2)女性が長く働き続けるために必要なこと【問7】	
(3)リーダーや役員への女性の参画について【問8】	
3-5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	40
(1)国や市役所等の公的な取り組みとして重要なこと【問9】	
(2)育児休業・介護休業の取得の有無【問10】	

3-6	男性の育児や介護の参画について・・・・・・・・・・・・・・・・	42
	(1)男性が育児や介護のための休業を取ることにについて【問 11】	
	(2)育児休業、介護休業を取得する男性が女性に比べ少ないことや期間が短いことについて【問 12】	
	(3)男性が家庭生活や地域活動に積極参加するために必要なこと【問 13】	
3-7	健康課題について・・・・・・・・・・・・・・・・	47
	(1)女性の健康課題についての職場での配慮【問 14】	
	(2)子宮がん検診、乳がん検診の受診有無【問 15】	
3-8	市の相談窓口について・・・・・・・・・・・・・・・・	50
	市の相談窓口の認知度【問 16】	
3-9	性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント等）について・・・・・・・・	56
	(1)「人権が侵害されている」と感じるものについて【問 17】	
	(2)セクシュアル・ハラスメントを受けたことの有無【問 18】	
	(3)セクシュアル・ハラスメントを見聞きしたことの有無【問 19】	
	(4)セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要な取り組み【問 20】	
	(5)DV について相談できる窓口の認知度【問 21】	
	(6)DV に対する対策や支援として重要な取り組み【問 22】	
3-10	多様な性・性的マイノリティ（LBGTQ+）について・・・・・・・・	62
	(1)性的指向や性自認についての悩みの有無【問 23】	
	(2)性的指向や性自認について相談を受けたことの有無【問 24】	
	(3)身の回りの性的マイノリティ（LBGTQ+）当事者の有無【問 25】	
	(4)性的マイノリティ（LBGTQ+）当事者への市役所が取り組むべき支援【問 26】	
3-11	横須賀市が進める取り組みについて・・・・・・・・	65
	男女共同参画社会、多様な性が尊重される社会の実現に向けて、横須賀市が特に重点をおいて取り組むべき事項【問 27】	
3-12	アンケート全般について・・・・・・・・	67
	その他、ご意見等（自由記入）【問 28】	

1. 調査目的および調査概要等

(1) 調査目的

次期「横須賀市男女共同参画プラン」の策定にあたり、現行のプランの推進状況を評価するとともに、次期プラン策定の基礎データとし、現状を把握するため、実施する。

(2) 調査概要

1) 調査実施時期 令和7年8月12日～9月25日

2) 調査対象 令和7年6月末日現在の横須賀市住民15歳以上79歳以下の男女各1,000人、計2,000人を無作為に抽出

3) 配布・回収

・配布：郵送

・回収：紙の調査票による回収もしくはインターネット（電子申請システム）による回収

・回収件数（率）731件（36.6%）（前回（令和3年度45.6%））

うち、紙での回収 439件

インターネットでの回収 292件

(3) その他

・調査の企画・分析は、人権・ダイバーシティ推進課で実施

・基数となるべき実数は、各設問に対する有効回答者数である。

・なお結果数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、計と内訳の合計が必ずしも一致しない。また、複数回答の設問では、割合の合計が100.0%を超える。

2. アンケート結果のまとめ

2-1. 用語や制度の認知度（問1）

○認知度が高い用語

- ・ジェンダー（内容も含めて知っている：68.8%）
- ・SDGs（内容も含めて知っている：62.8%）
- ・LGBTQ+（内容も含めて知っている：53.8%）

○認知度が低い用語・制度

- ・SOGI（内容も含めて知っている：5.5%、聞いたこともない：78.2%）
- ・アウティング（内容も含めて知っている：13.5%、聞いたこともない：72.1%）
- ・ジェンダー・ギャップ指数（内容も含めて知っている：18.4%、聞いたこともない：41.7%）
- ・パートナーシップ宣誓証明制度（内容も含めて知っている：29.5%、聞いたこともない：33.7%）

2-2. 男女共同参画（社会）に関する考え方（問2～）

○男性の方が優遇されていると感じる分野

- ・「政治の場」で男性が優遇されていると回答した割合が最も高く77.0%（「男性の方が優遇」35.7%+「どちらかといえば男性が優遇」41.3%）
- ・「社会全体」では68.9%（17.4%+51.5%）が男性優遇と回答。
- ・「職場で」では49.5%（12.9%+36.6%）、「家庭生活」では45.2%（12.1%+33.1%）が男性優遇と回答。

○平等であると感じる分野

- ・「学校教育の場」（教育を受ける機会も含めて）では60.7%が「平等である」と回答し、最も高い割合を示した。

○男女共同参画社会の実現に向けて、最も重要な課題（上位）

- ・「性別による固定的な役割分担の考え方の解消」：27.8%
- ・「仕事と家庭の両立支援を進める」：26.7%

2-3. 生活の中での男女共同参画（問4～）

- ・「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである」に対し、69.6%（どちらかといえば反対34.7%+反対34.9%）が反対。
（令和3年度：82.1%が反対 そう思わない51.8%、どちらかといえばそう思わない30.3%）
- ・「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである」に対し、58.4%（どちらかといえば反対27.6%+反対30.8%）が反対。

2-4. 女性活躍推進（問6～）

○女性が職業を持つことについての考え

- ・「生涯にわたり、職業をもち続けるのがよい」という回答が最も多く49.2%。
- ・次いで「子どもが生まれたら仕事を辞め、子どもが成長した後再び職業をもつのがよい」が37.7%。
- ・女性が職業を持たない方がよいという意見が0.1%

- 女性が長く働き続けるために特に重要だと思うこと（上位）
 - ・「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務等）」：20.8%
 - ・「育児・介護休業制度の充実」：19.2%
 - ・「男女間の賃金・昇進等の格差解消」：38.4%

2-5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（問9～）

- 仕事と生活を両立できるようにするための公的な取り組みとして重要なこと（上位）
 - ・「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」：28.9%
 - ・「両立支援の制度強化」：28.7%
 - ・「社会全体に対する意識づくり」：17.2%

2-6. 男性の育児や介護の参画（問11～）

- 男性が育児休業や介護休業を「積極的に取るべき」：61.7%
- 男性の育児・介護休暇取得への高い賛成
 - ・男性が育児や介護のために休暇を取ることにについて、95.6%が賛成。（積極的に取るべき61.7%+どちらかといえば、取る方がよい33.9%）
- 男性が育児・介護休業を取らない主な要因（上位）
 - ・職場の理解が得られないから：19.8%
 - ・人手不足で代替りの人がいないから：16.2%
 - ・休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから：14.9%

2-7. 健康課題（問14～）

- 女性の健康課題に対する取り組みで、特に重要だと思う配慮・支援（上位）
 - ・「社員全体の理解」：20.0%
 - ・「出産・子育てと仕事の両立支援」：18.8%
 - ・「上司の理解」：13.9%

2-8. 市の相談支援窓口について（問16～）

- 市の相談事業に関する認知度（内容も含めて知っている+聞いたことはある）
 - ・「市民相談室」の認知度：71.2%
 - ・「女性のためのDV相談」の認知度：52.0%
 - ・「ぽっとかん（地域の総合窓口相談）」：43.9%
 - ・「よこすかLGBTs相談」：29.4%
 - ・「デュオよこすか『女性のための相談室』」：26.9%

2-9. 性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント）（問17～）

- セクシュアル・ハラスメントの経験
 - ・職場や学校、地域などでセクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した人：22.6%
- セクシュアル・ハラスメントの見聞き
 - ・身の回りでセクシュアル・ハラスメントの場면을「見たり、被害を聞いたりしたこと

がある」：41.1%

○DV相談機関の認知度

- ・「警察」が最もよく知られており、82.2%が知っている。
- ・「市役所」：32.9%
- ・「配偶者暴力相談支援センター」の認知度：13.4%
- ・「相談できる機関を知らない」：11.5%

2-10. 多様な性・性的マイノリティ（LGBTQ+）（問 23～）

○自身の性的指向・性自認に関する悩み

- ・「性的指向に悩んだことがある」：2.6%、「性自認に悩んだことがある」：1.8%

○性的指向・性自認に関する相談を受けた経験

- ・身の回り的人から「相談を受けたことがある」人は10.4%。

○身近なLGBTQ+当事者の存在

- ・「友人や知人にいる」が最も多く16.7%。
- ・「家族や親族にいる」は1.9%、「学校や職場にいる」は3.6%。
- ・「周囲にはいない（知らない）」と回答した人が70.4%

2-11. 横須賀市が進める取り組み（問 27）

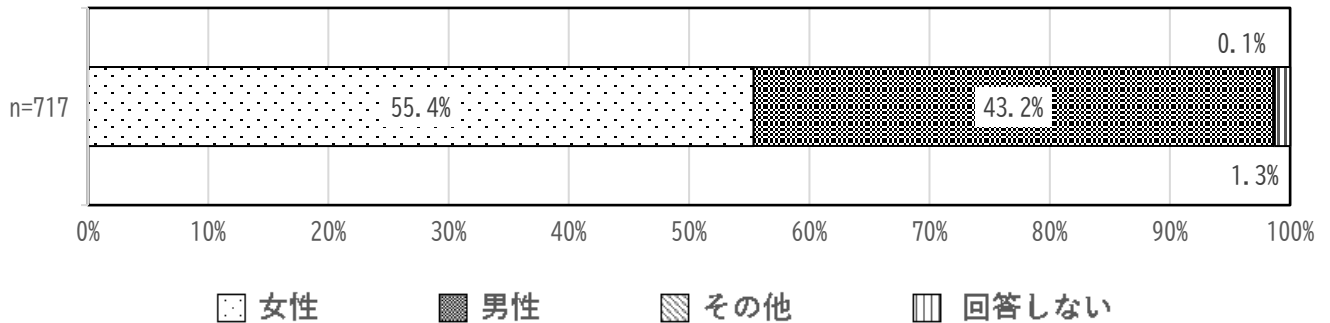
- ・多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援：50.7%
- ・子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）：45.6%
- ・出産や子育てで離職した女性の再就職支援：33.0%

3. 集計結果

3-0 属性

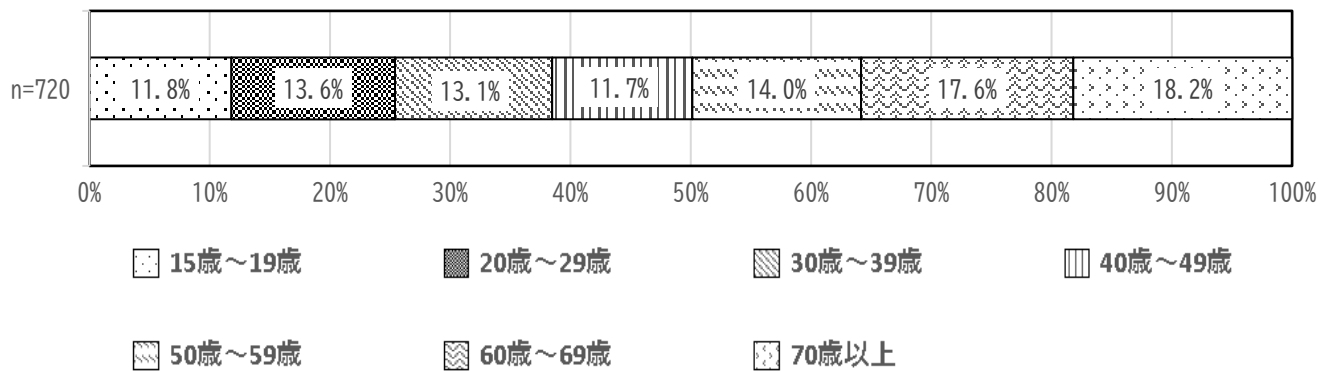
(1) 性別 【F1】

図 3-0-1



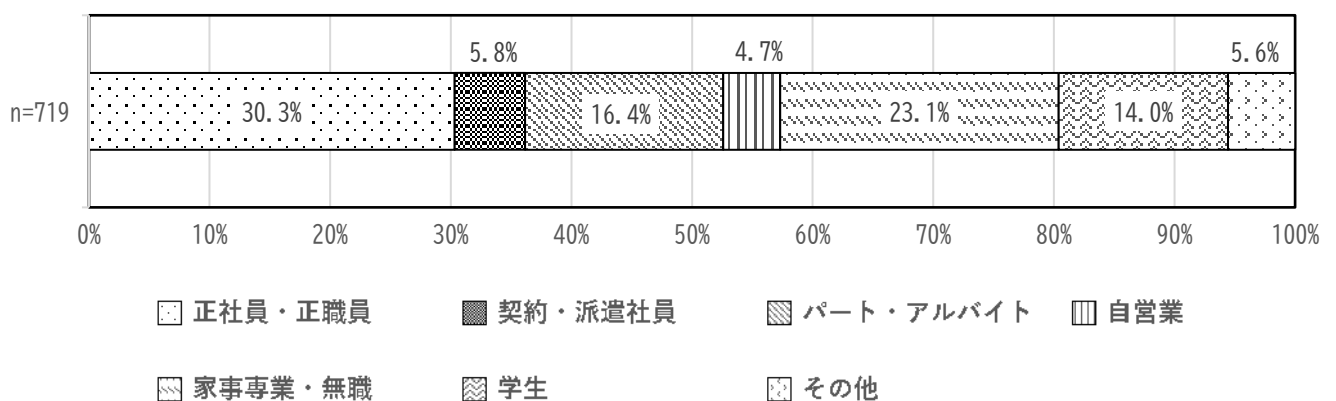
(2) 年齢 【F2】

図 3-0-2



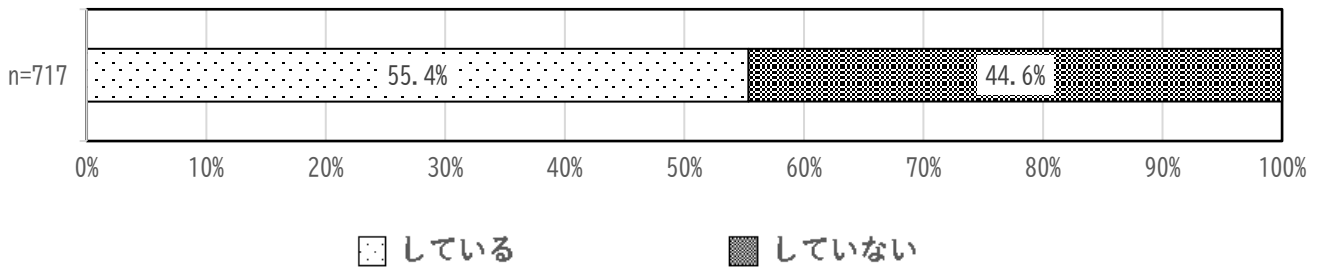
(3) 働き方等 【F3】

図 3-0-3

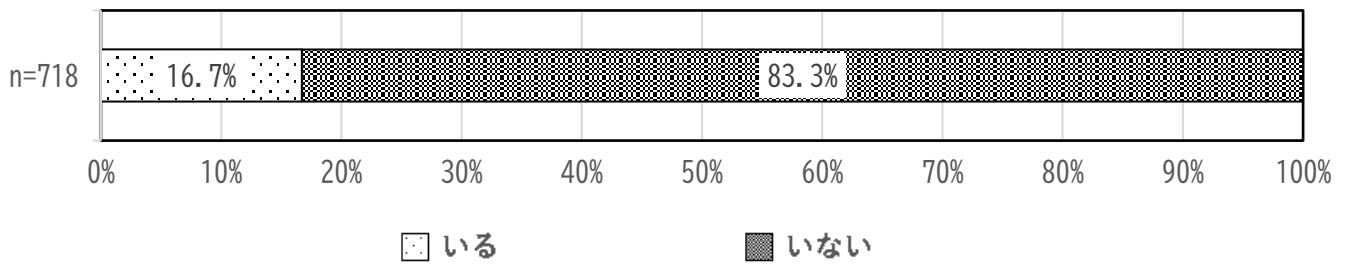


(4) 結婚有無【F4】

図 3-0-4

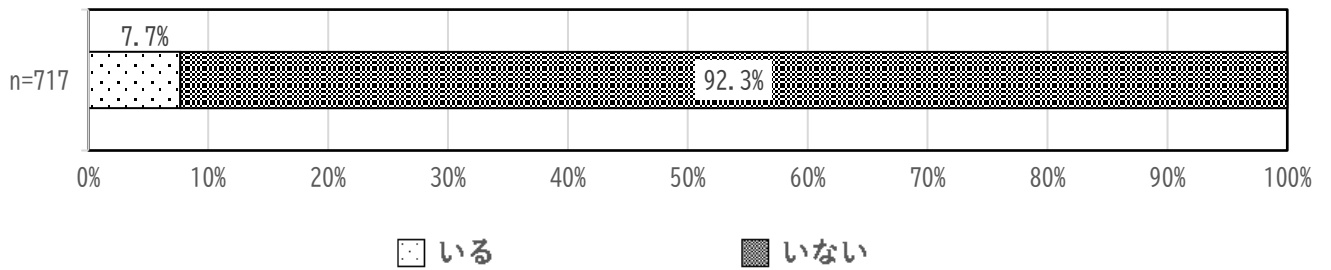


(5) 中学生以下の子の有無【F5】



(6) 介護の必要な家族の有無【F6】

図 3-0-6

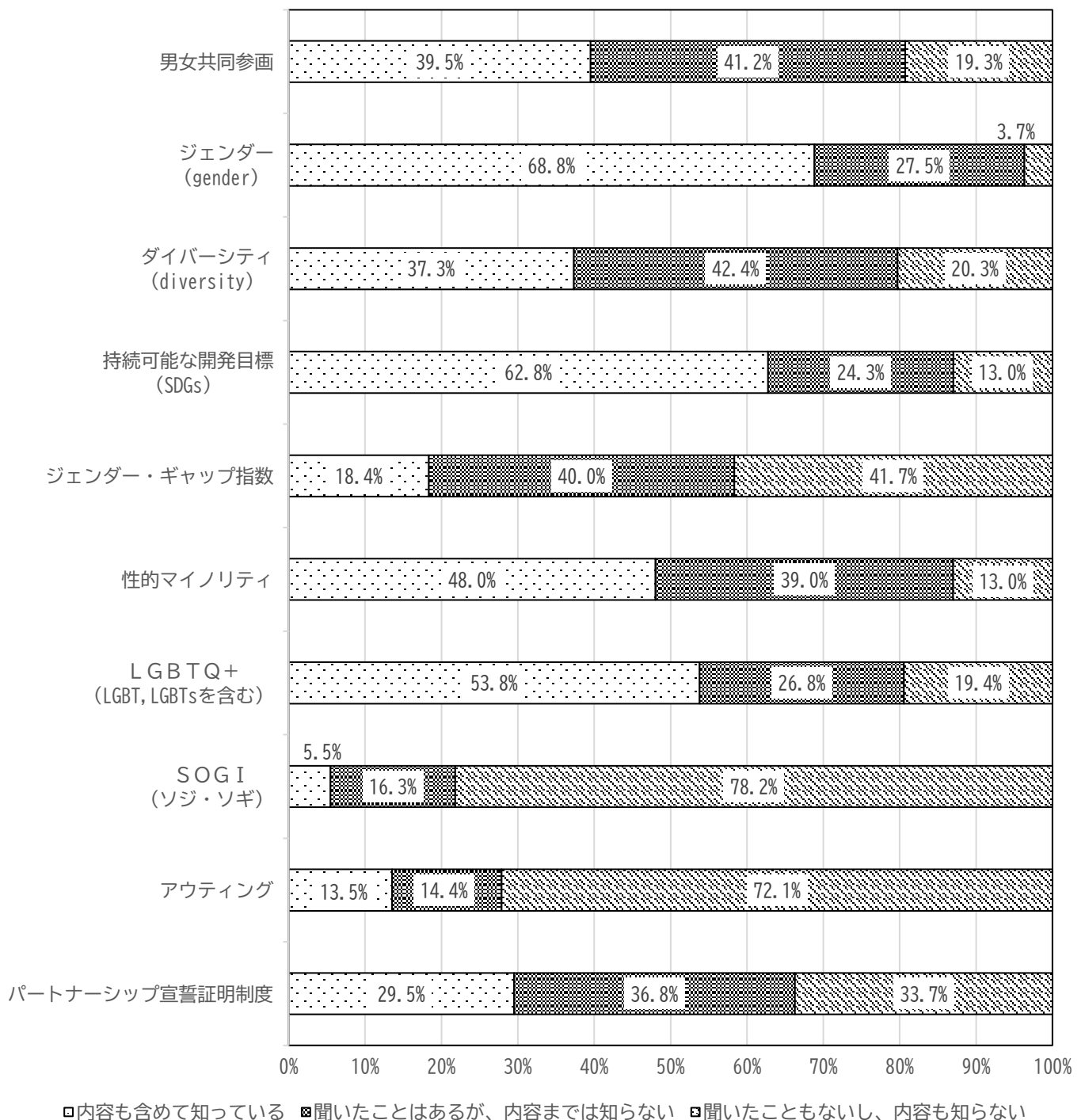


3-1 用語や制度の認知度について

問1 あなたは、次の①～⑩に掲げる用語や制度等を知っていますか。

男女共同参画、ジェンダー、ダイバーシティ、SDGs、性的マイノリティ、LGBTQ+は、「内容も含めて知っている」と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」を合わせた認知度が高かった。一方、SOGI やアウティングは、認知度が低かった。

図 3-1-1



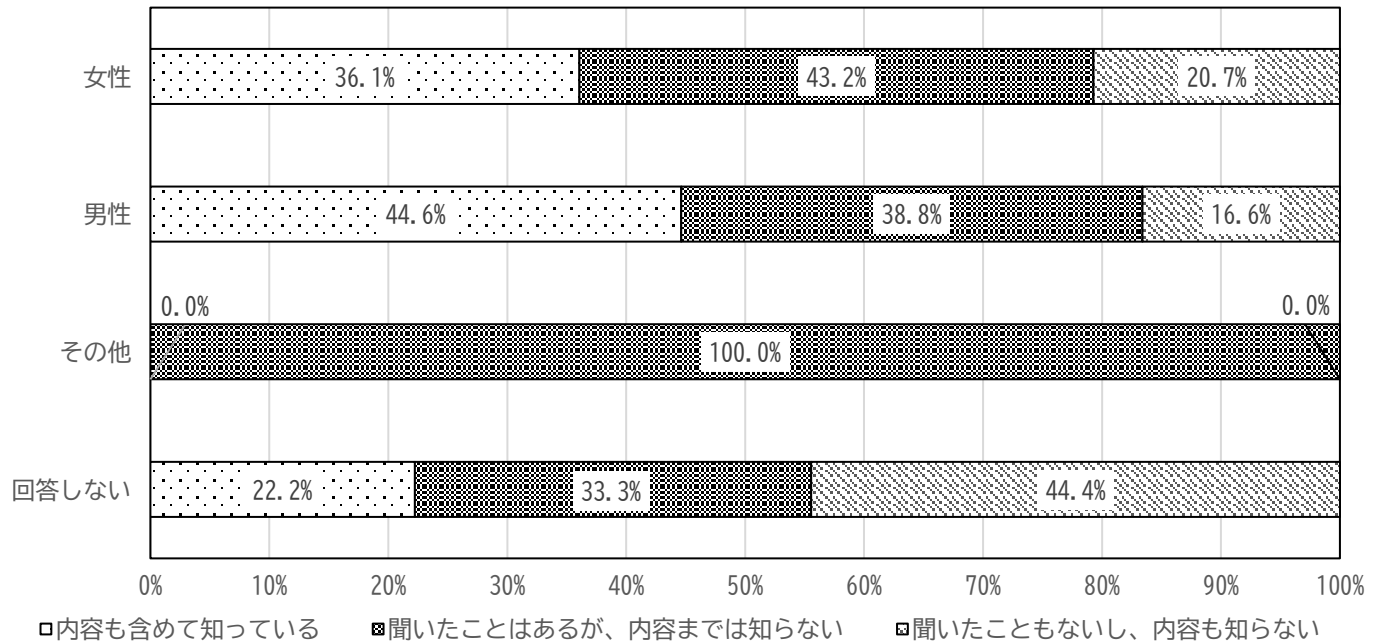
■属性別の特徴

①男女共同参画について

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

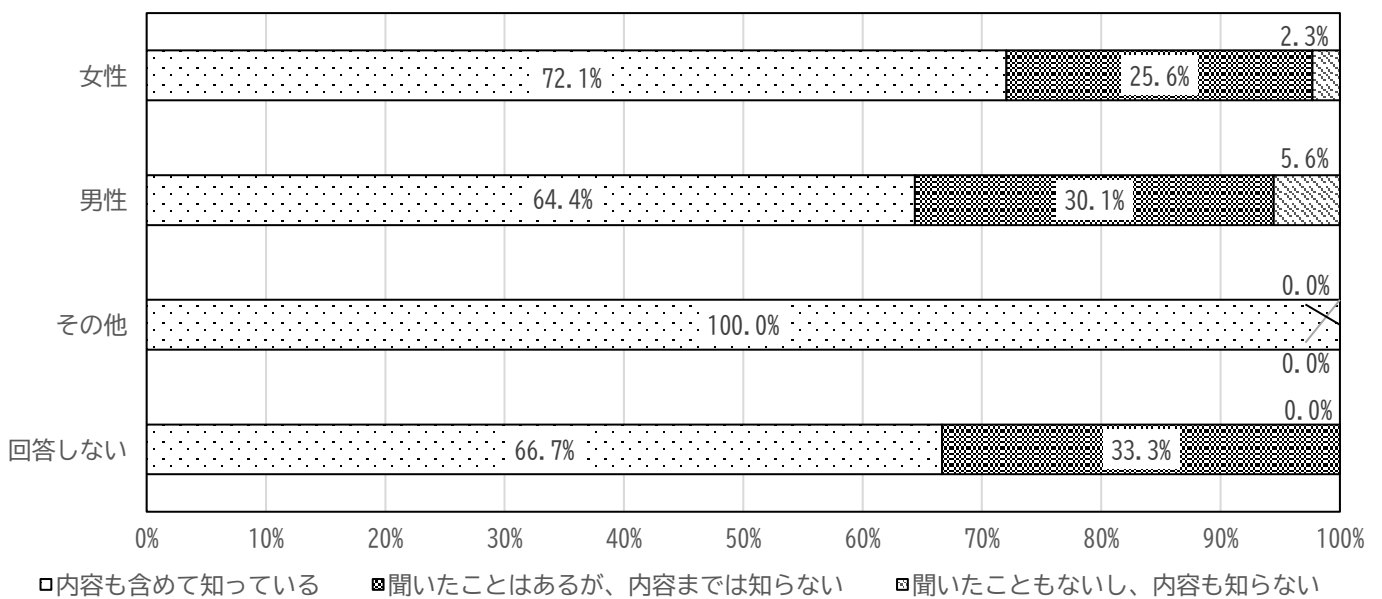
図.3-1-1-1①



②ジェンダーについて

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

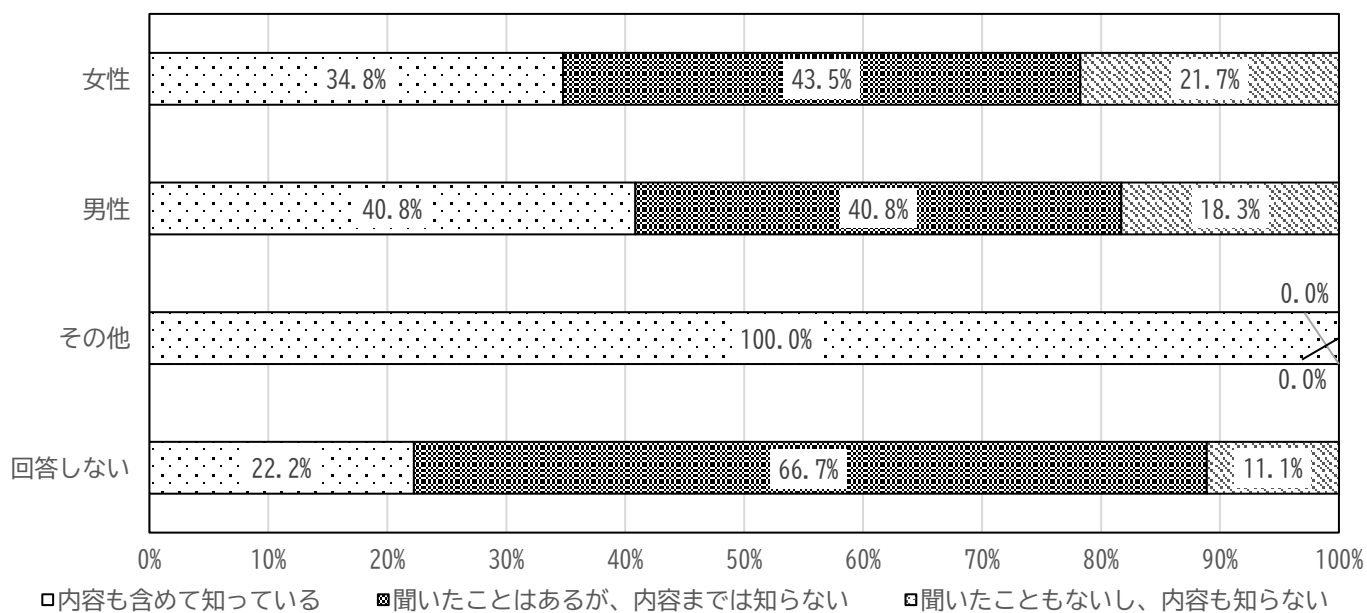


③ダイバーシティについて

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1③

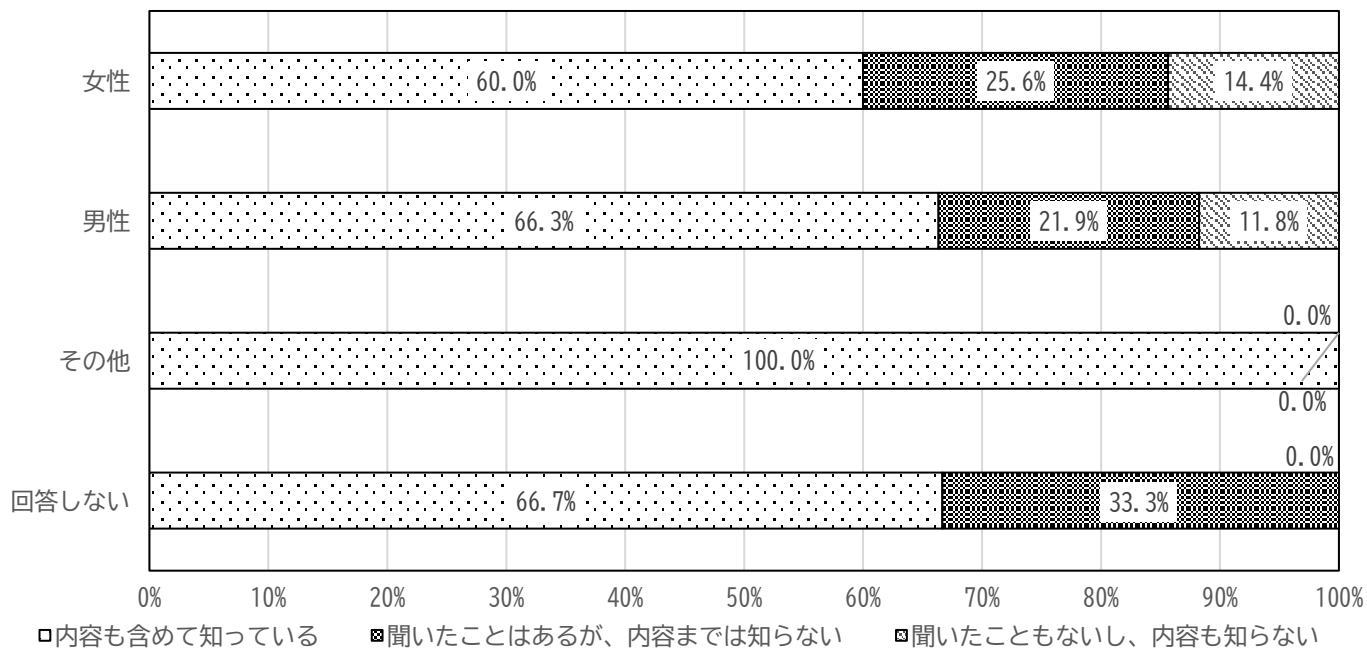


④持続可能な開発目標(SDGs)について

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1④

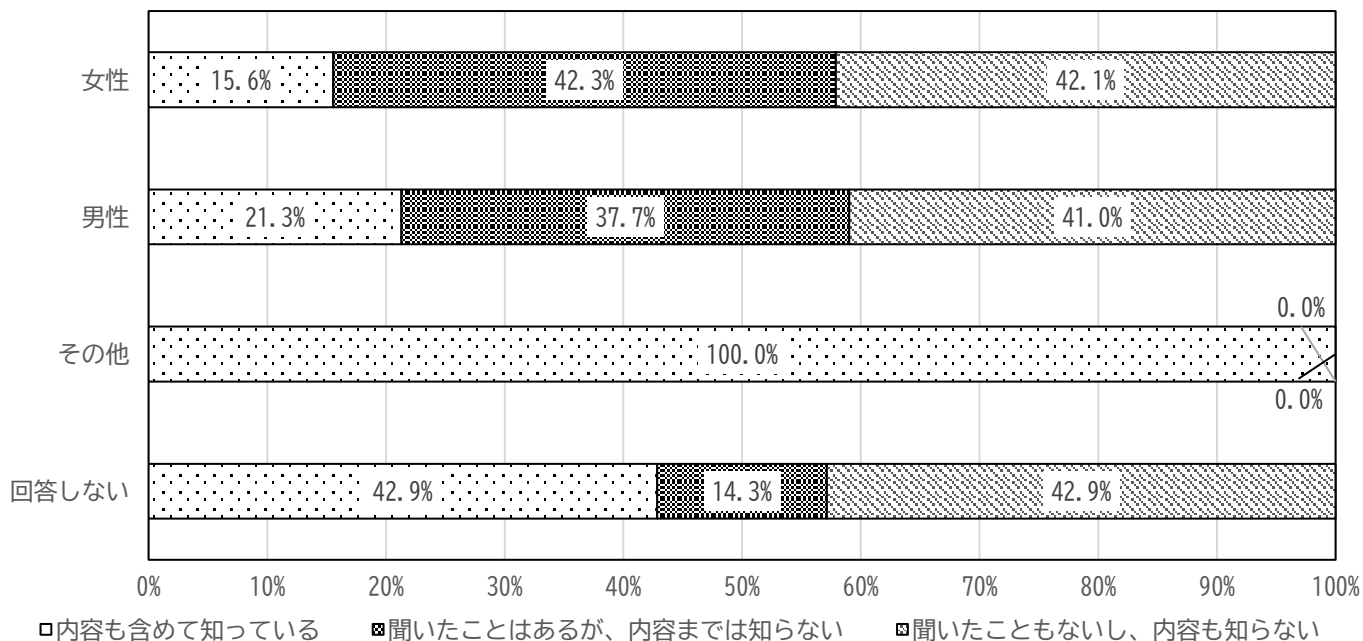


⑤ジェンダー・ギャップ指数について

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1⑤

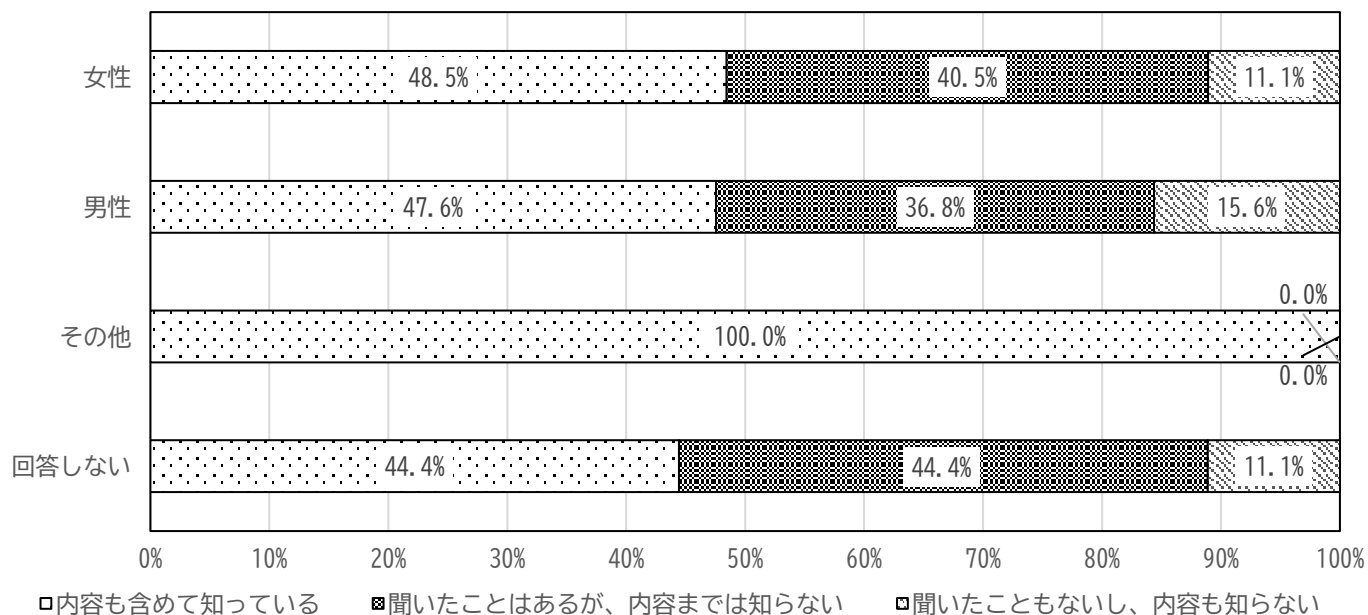


⑥性的マイノリティについて

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1⑥

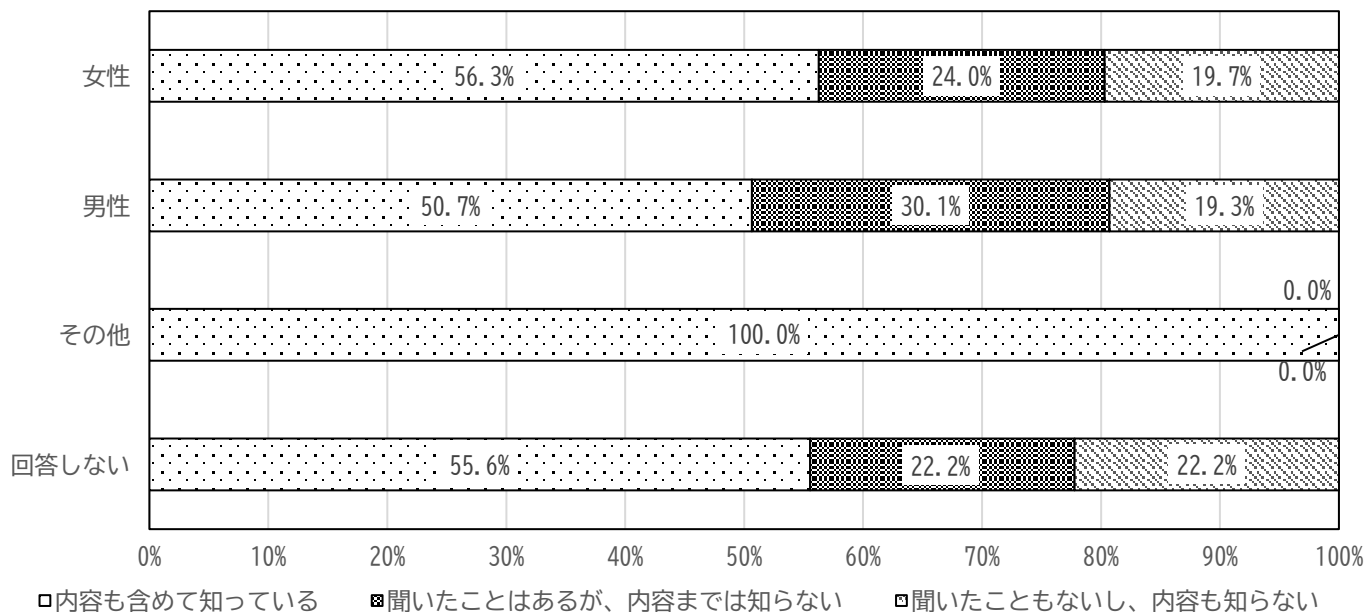


⑦LGBTQ+(LGBT,LGBTs を含む)について

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1⑦

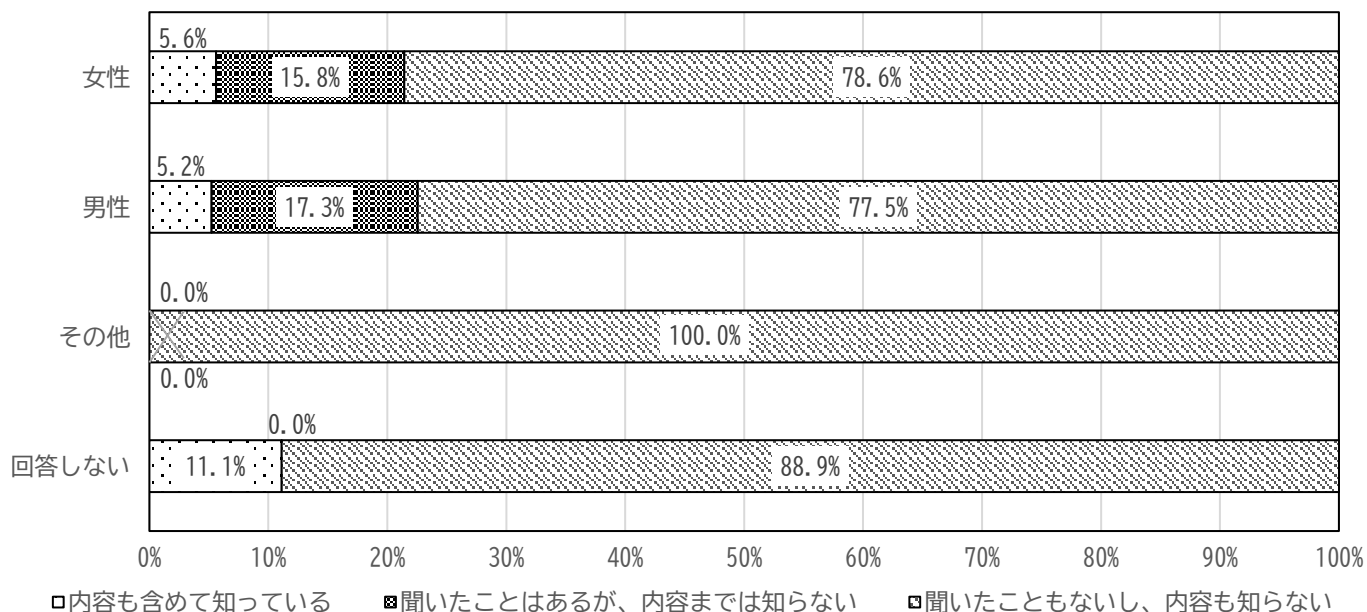


⑧SOGI(ソジ・ソギ)について

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1⑧

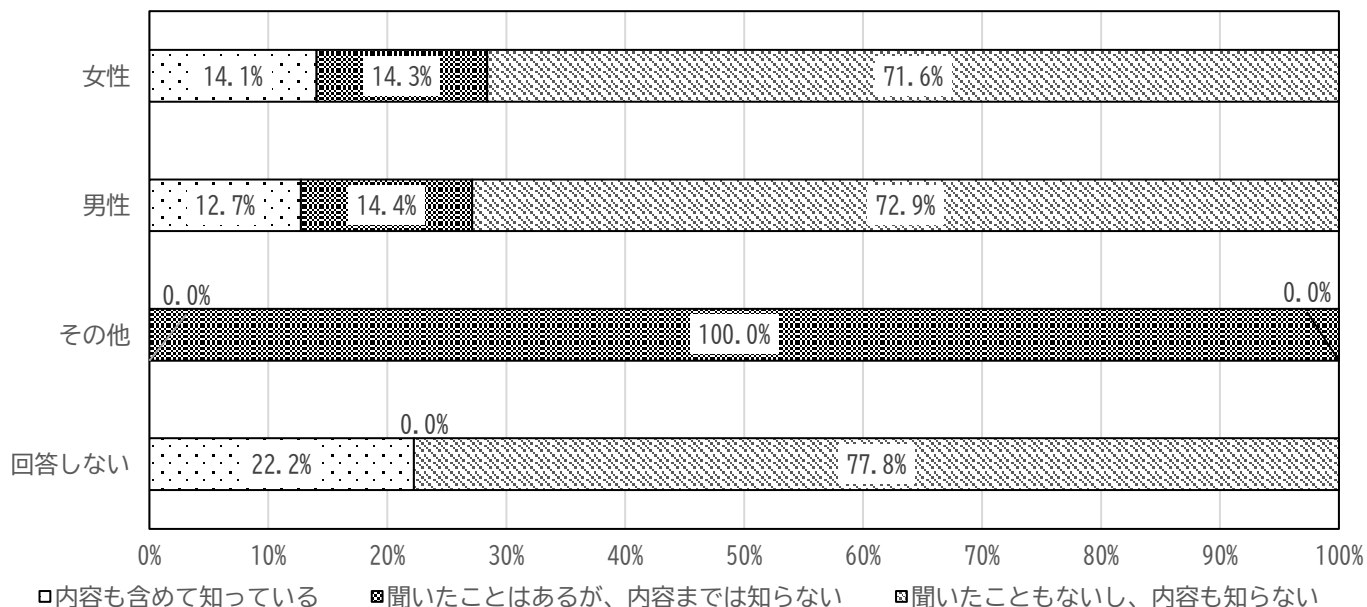


⑨アウトティングについて

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。年齢別では、「内容も含めて知っている」のは、女性では20代と40代が高く、男性は10代が高い。

F1.性別

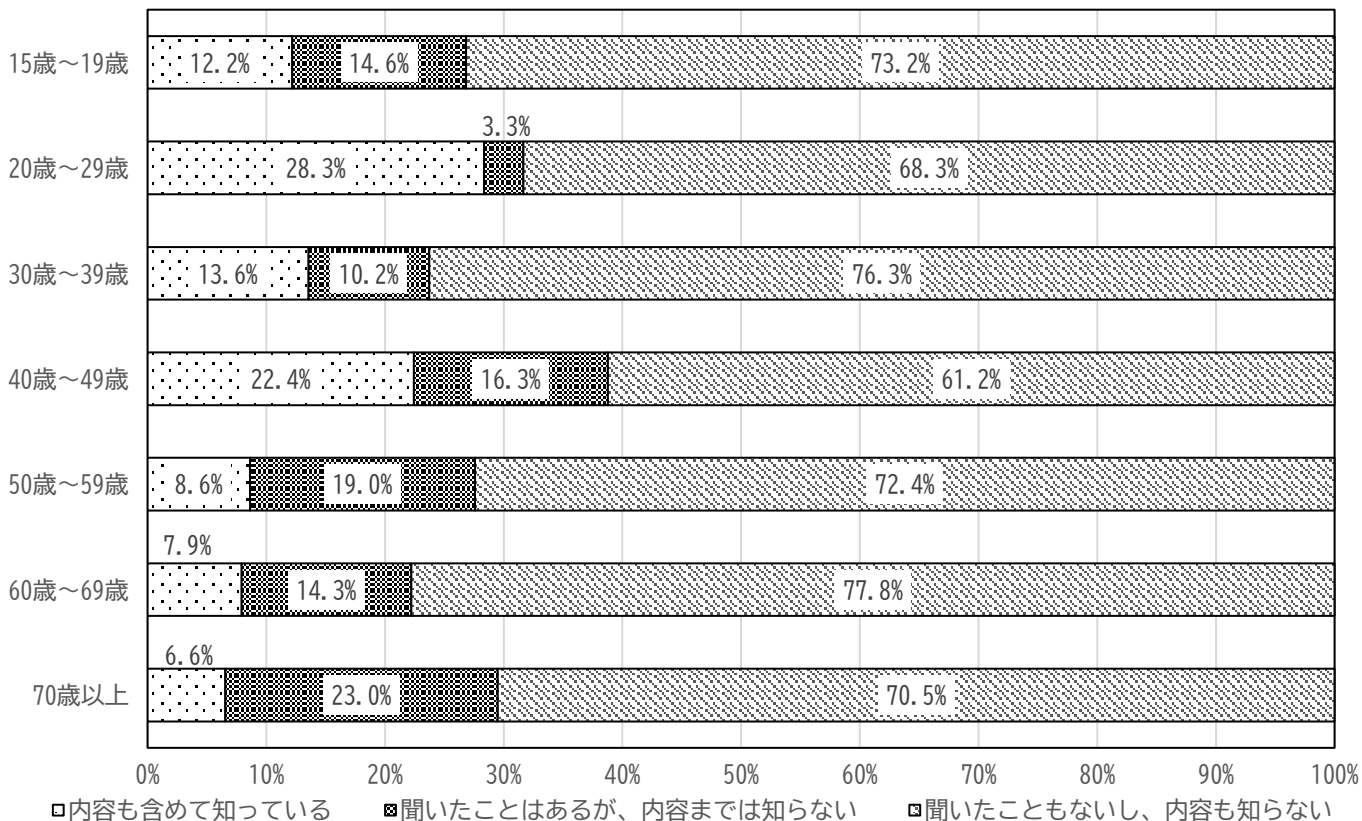
図. 3-1-1-1⑨



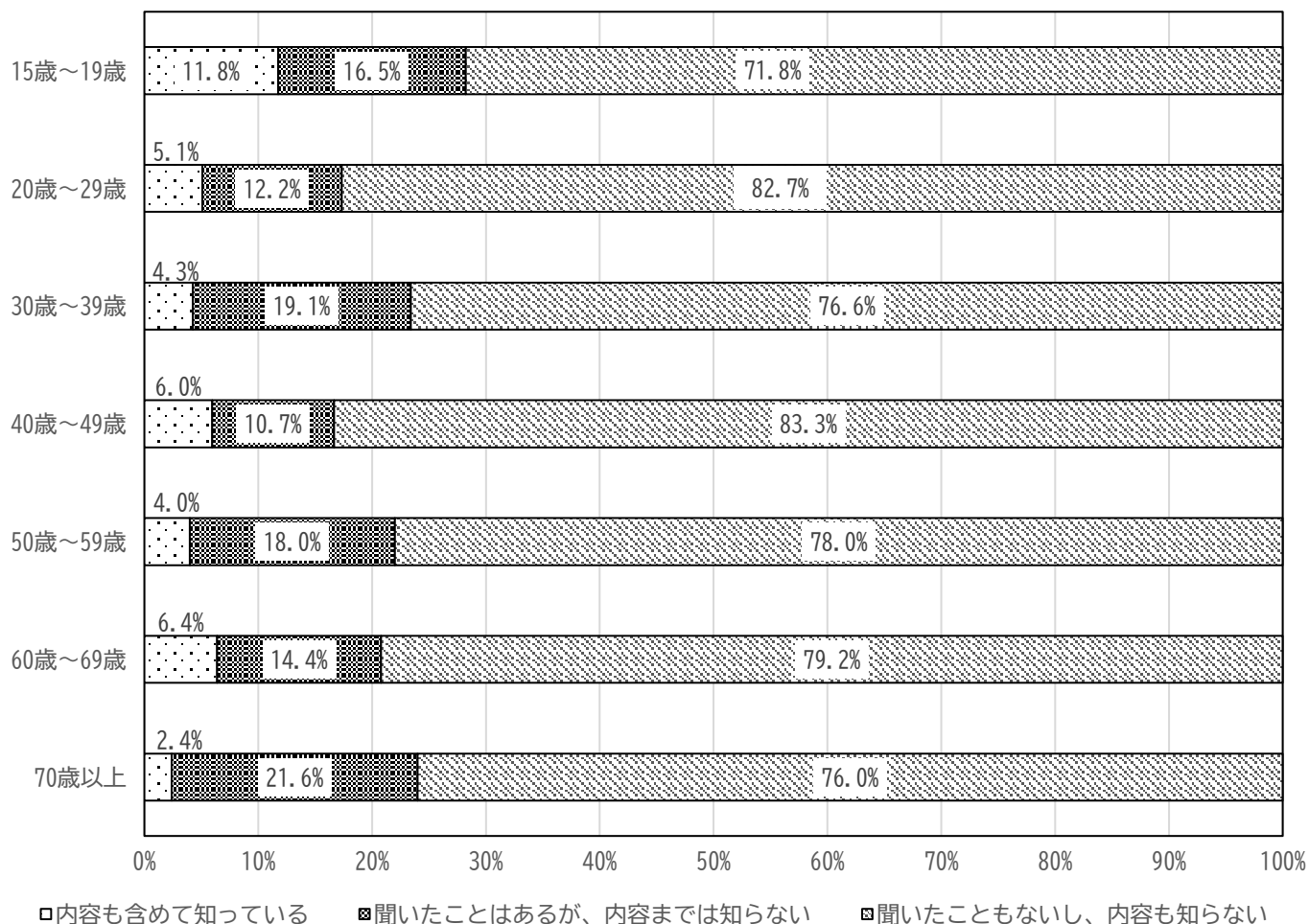
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-1-1-1×2⑨

【女性】



【男性】

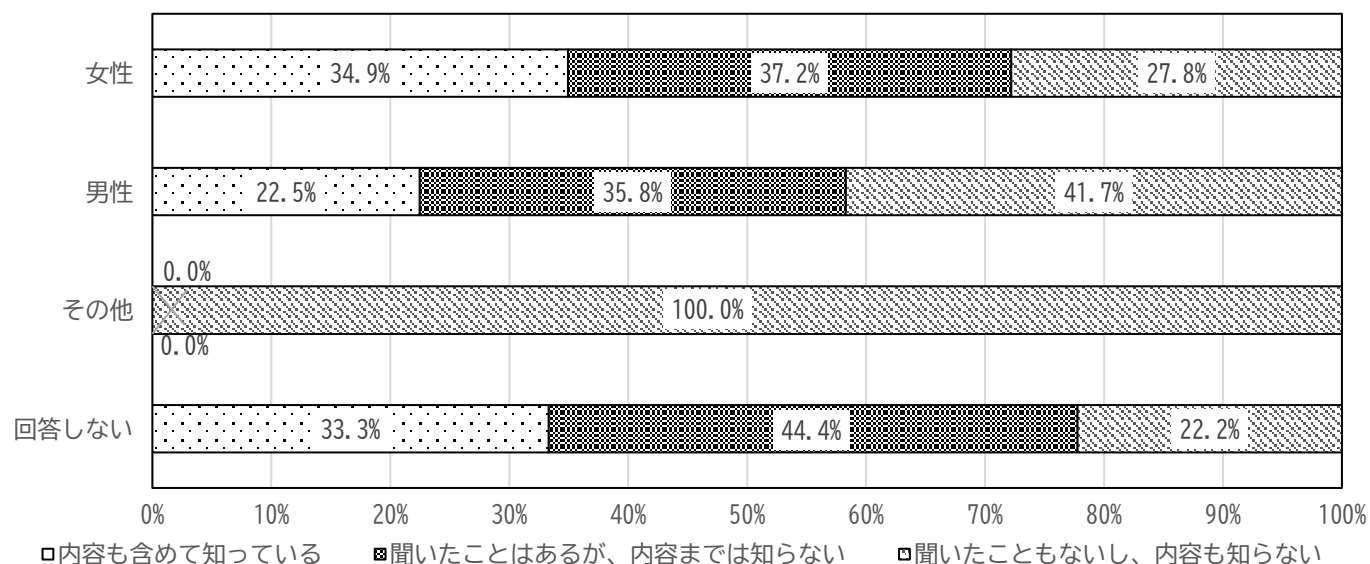


⑩パートナーシップ宣誓証明制度について

男女別でみると、認知度は女性の方が高い。年齢別にみると、女性では30代が高く、男性では40代が高い。

F1.性別

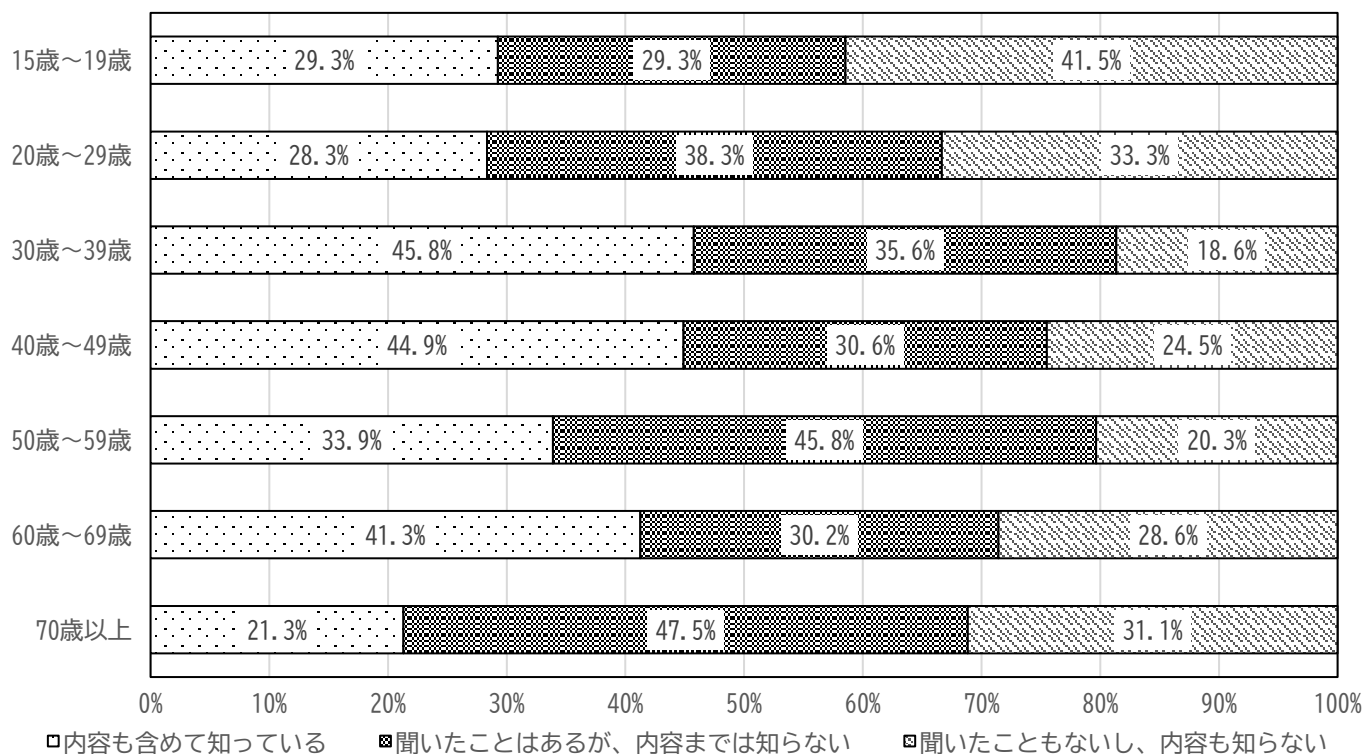
図. 3-1-1-1⑩



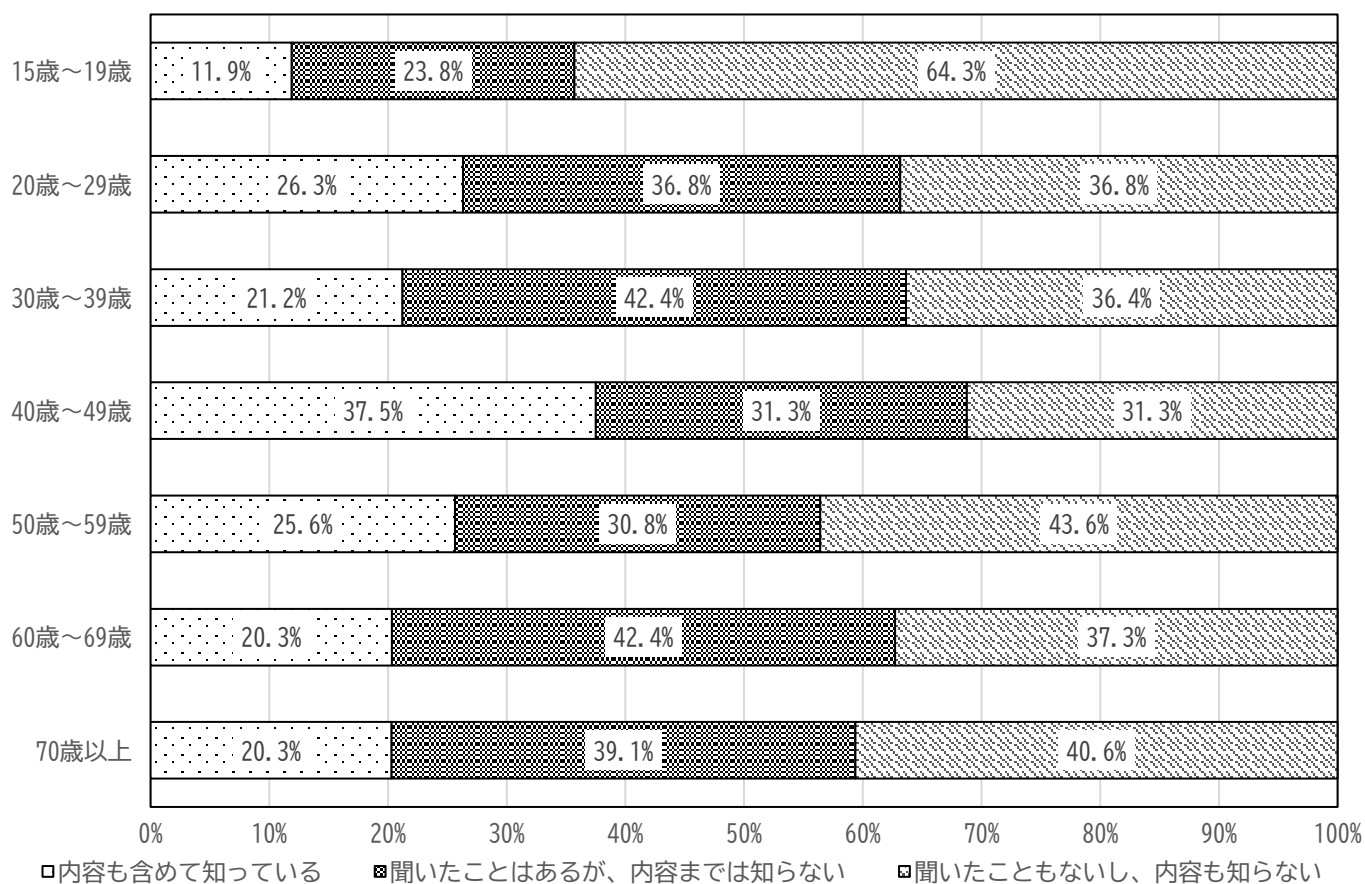
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-1-1-1×2⑩

【女性】



【男性】



■経年比較

男女共同参画				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	39.5%	80.7%	49.9%	80.5%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	41.2%		30.6%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	19.3%	19.3%	19.5%	19.5%

ジェンダー				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	68.8%	96.3%	63.0%	90.0%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	27.5%		27.0%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	19.3%	3.7%	10.0%	10.0%

ダイバーシティ				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	37.3%	79.7%	29.5%	70.5%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	42.4%		41.0%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	20.3%	20.3%	29.5%	29.5%

SDGs				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	62.8%	87.1%	44.4%	69.7%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	24.3%		25.3%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	13.0%	13.0%	30.4%	30.4%

ジェンダーギャップ指数				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	18.4%	58.4%	13.0%	45.7%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	40.0%		32.7%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	41.7%	41.7%	54.4%	54.4%

性的マイノリティ				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	48.0%	87.0%	56.9%	88.3%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	39.0%		31.4%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	13.0%	13.0%	11.8%	11.8%

LGBT, LGBTQ, LGBTQ+				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	53.8%	80.6%	62.2%	85.2%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	26.8%		23.0%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	19.4%	19.4%	14.8%	14.8%

SOGI				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	5.5%	21.8%	7.2%	29.9%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	16.3%		22.7%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	78.2%	78.2%	70.1%	70.1%

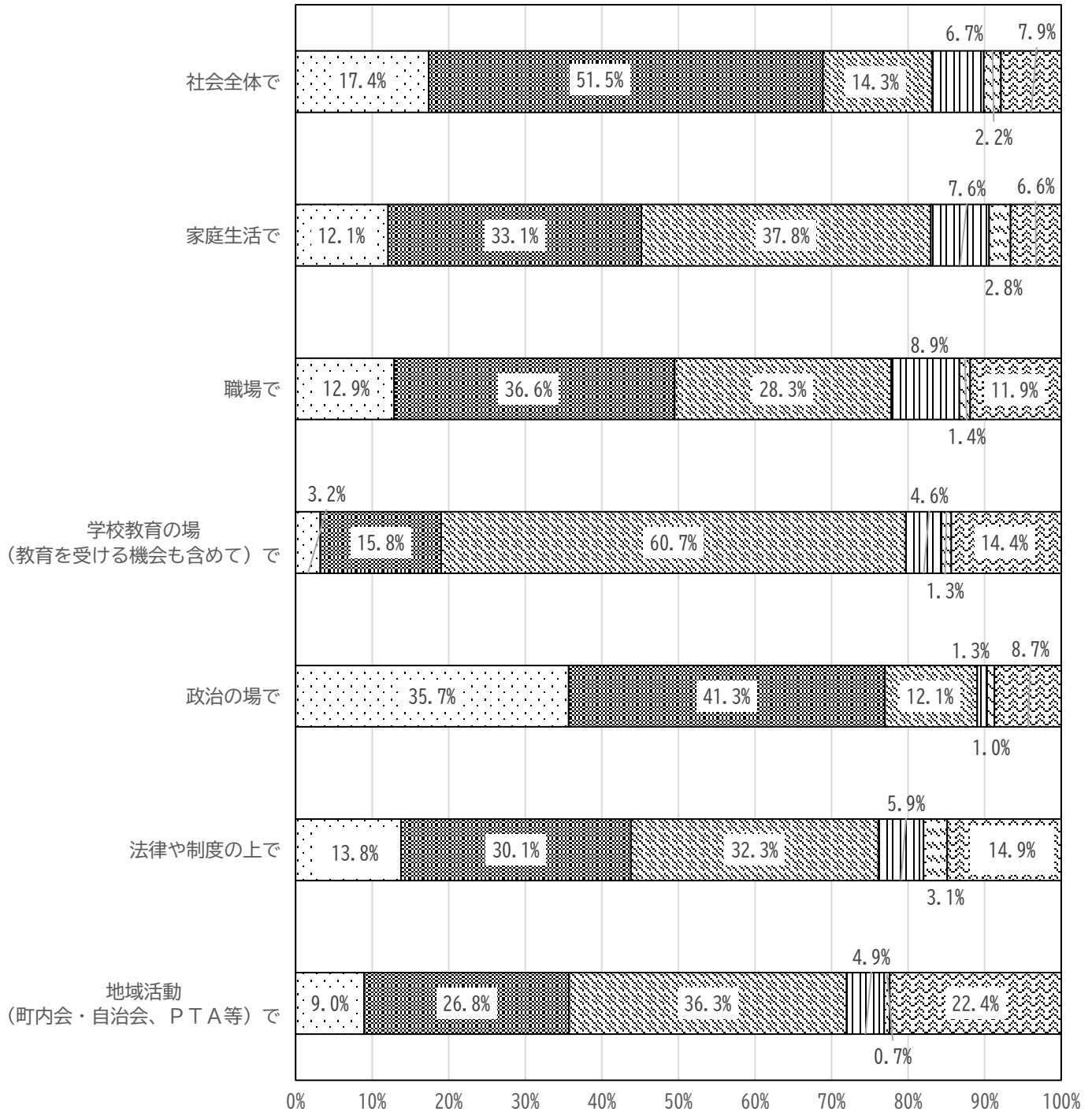
パートナーシップ宣誓証明制度				
選択肢	R7		R3	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	29.5%	66.3%	38.1%	79.0%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	36.8%		40.9%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	33.7%	33.7%	20.9%	20.9%

3-2 男女共同参画（社会）に関する考え方について

問2 あなたは、次の①～⑦の各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

「平等」は「学校教育の場」の割合が最も高く、「男性の方が優遇」は「政治の場」が最も割合が高い。「女性の方が優遇」は全ての項目で低い。

図 3-2-2



- 男性の方が優遇されている
- 平等である
- 女性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

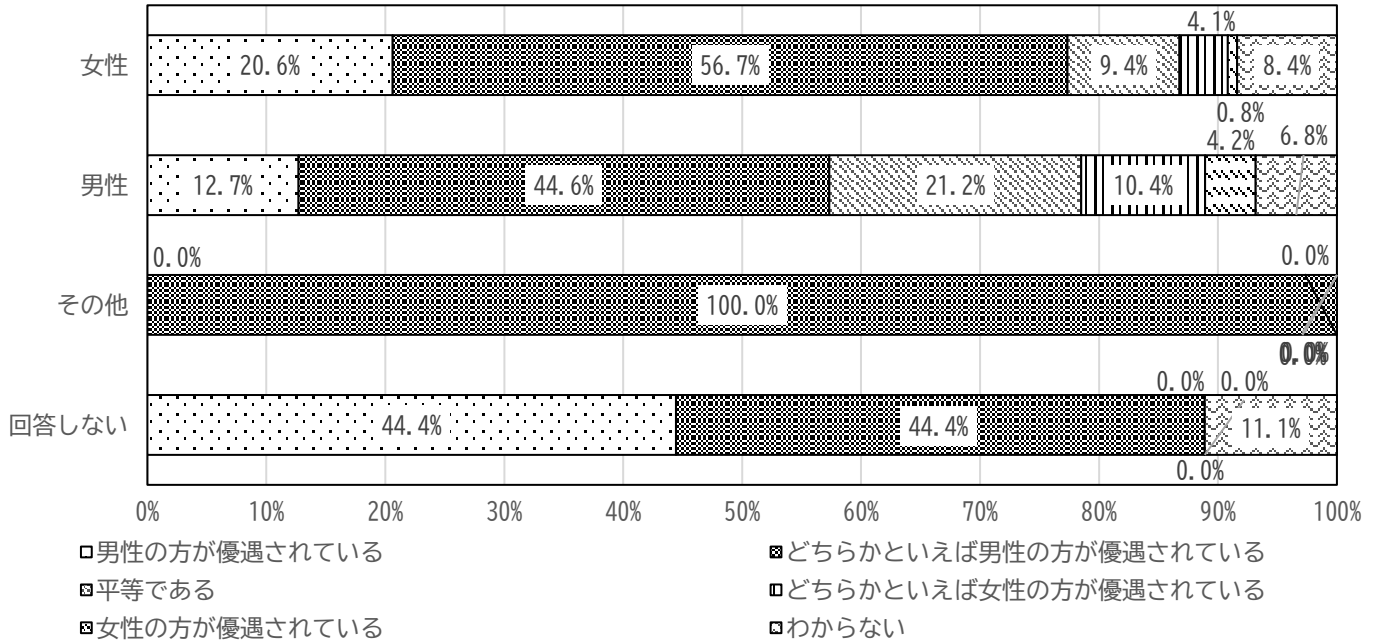
■属性別の特徴

①社会全体で

男女別、年齢別でみると、各層とも「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、年代が高いほど「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多い。男女を比較すると「男性優遇」と回答した割合は女性の方が高い。

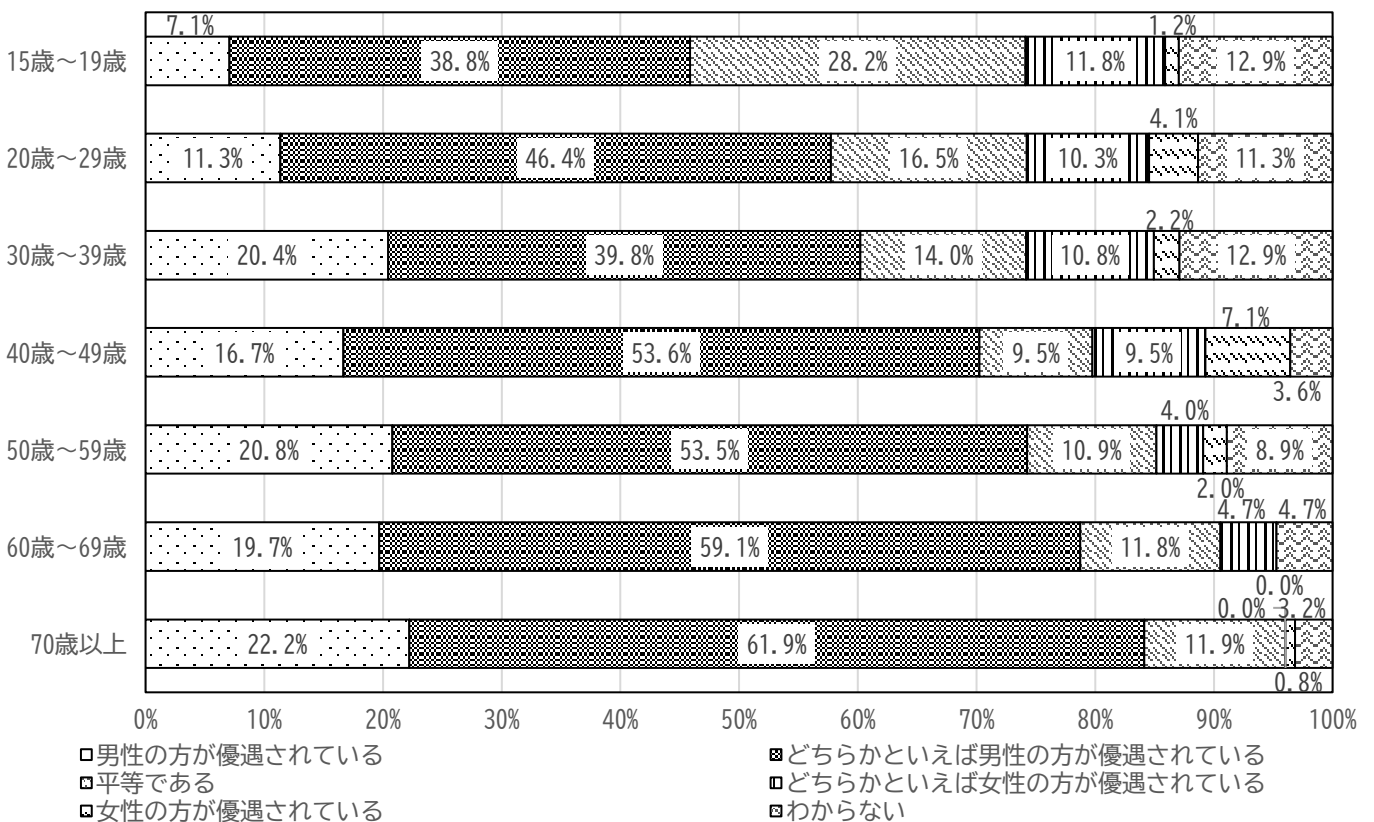
F1.性別

図. 3-2-2-1①



F2.年齢別

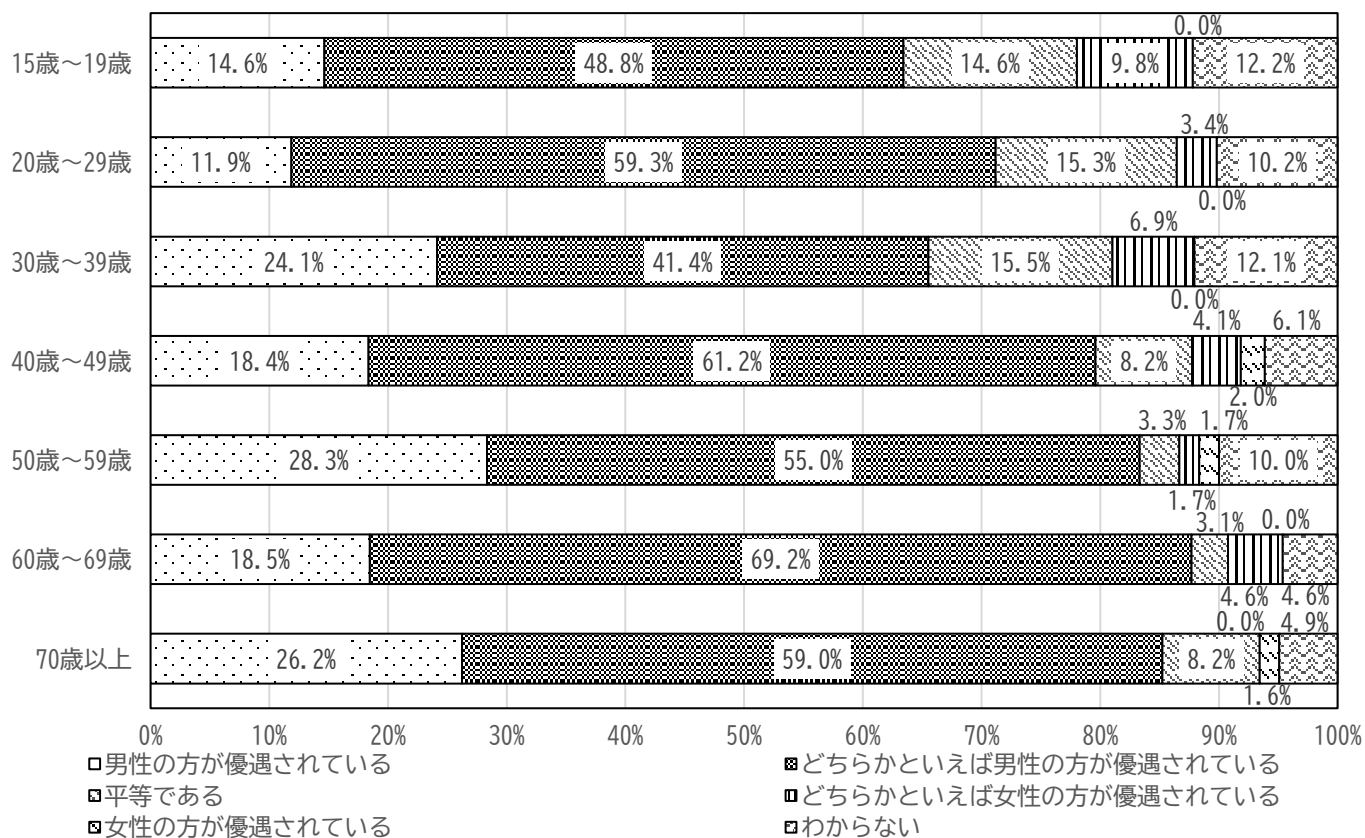
図. 3-2-2-2①



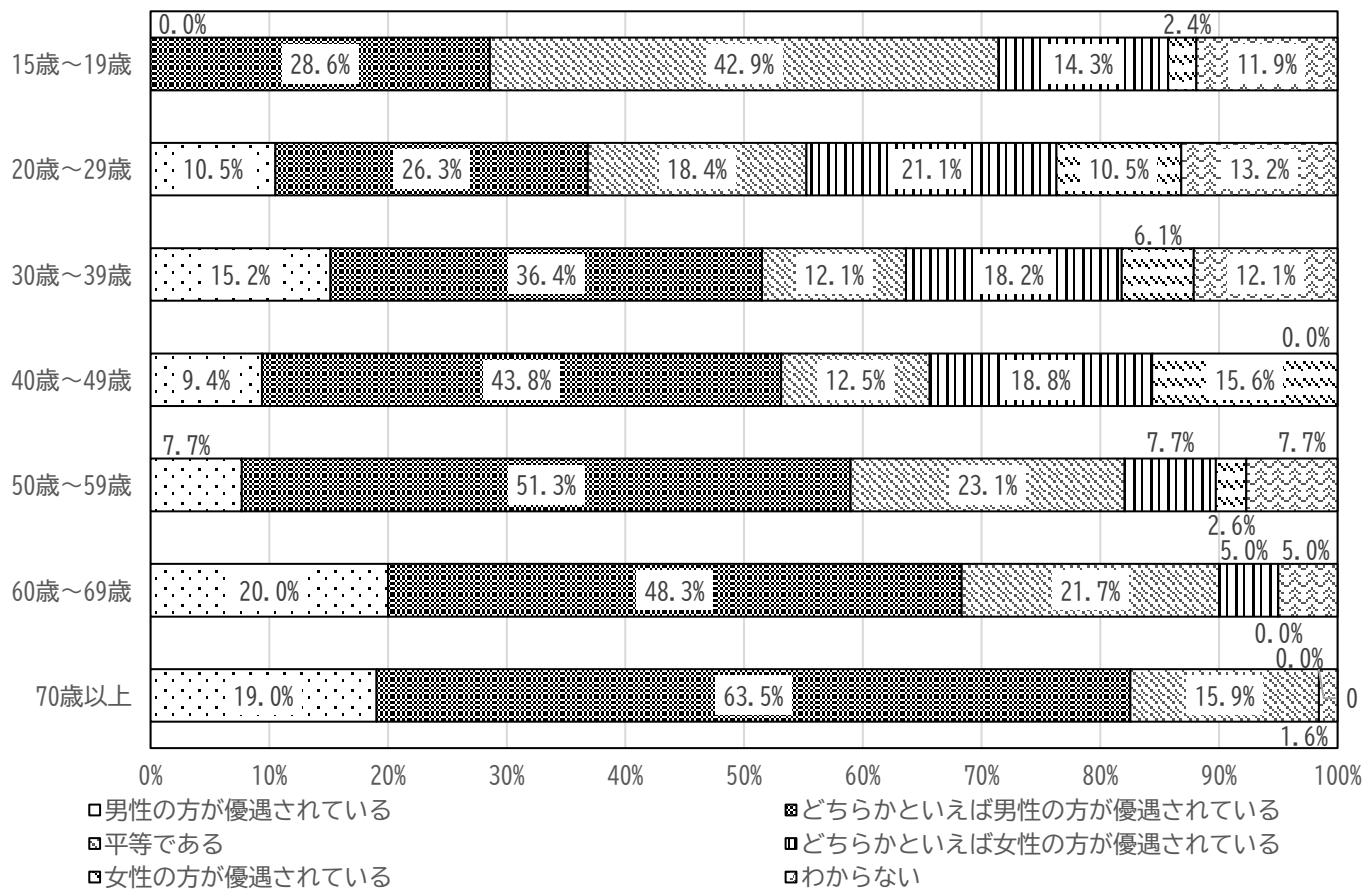
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-2-2-1×2①

【女性】



【男性】



■「社会全体で」の経年比較（参考。前回と設問と選択肢が異なる。）

【令和3年度 横須賀市男女共同参画と多様な性についてのアンケート調査】

問2：わが国では、以下の各場面で、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思いますか。

①社会全般の風潮

選択肢	割合	
そう思う	6.1%	36.1%
どちらかといえばそう思う	30.0%	
どちらかといえばそう思わない	45.3%	63.9%
そう思わない	18.6%	

【参考】令和6年度実施 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

(2) 社会全体における男女の地位の平等感

問2 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

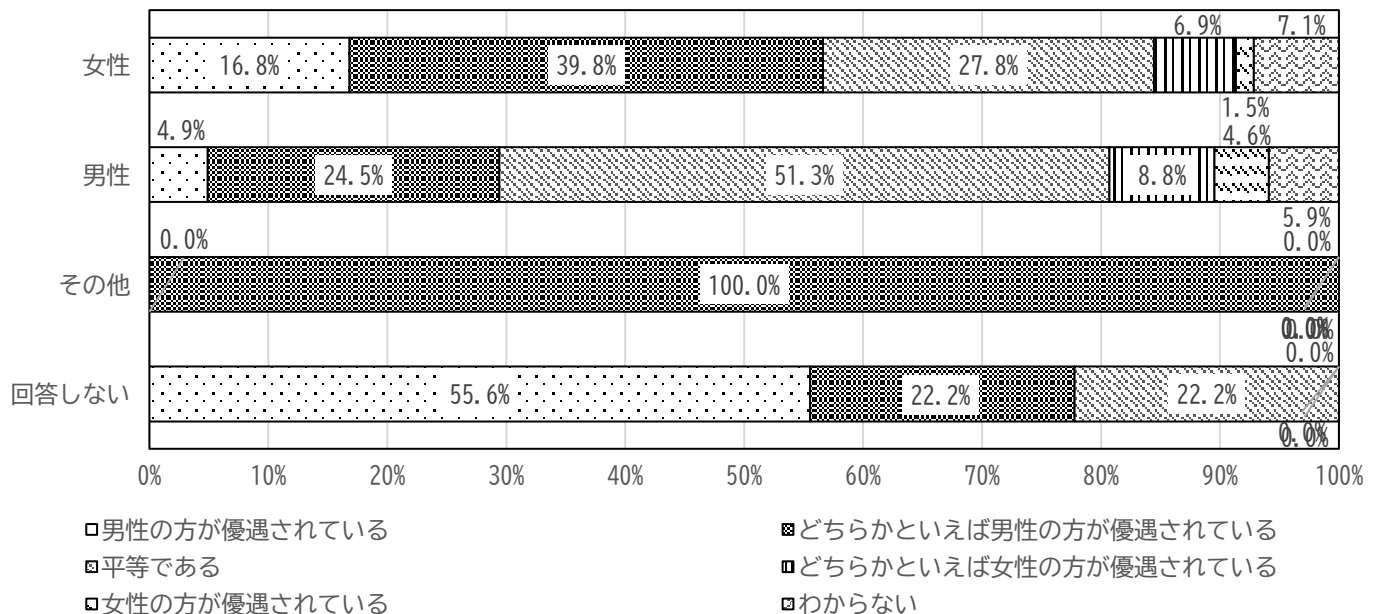
	令和4年11月		令和6年9月
<u>男性の方が優遇されている</u> (小計)	78.8%	→	74.7% ↓
・男性の方が非常に優遇されている	14.0%	→	11.9% ↓
・どちらかといえば男性の方が優遇されている	64.7%	→	62.8%
<u>平等</u>	14.7%	→	16.7% ↑
<u>女性の方が優遇されている</u> (小計)	4.8%	→	6.8% ↑
・どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.2%	→	6.1% ↑
・女性の方が非常に優遇されている	0.6%	→	0.7%

②家庭生活で

男女別で見ると、女性の方が「男性優遇」が高く、大きな差が見られる。

F1.性別

図. 3-2-2-1②

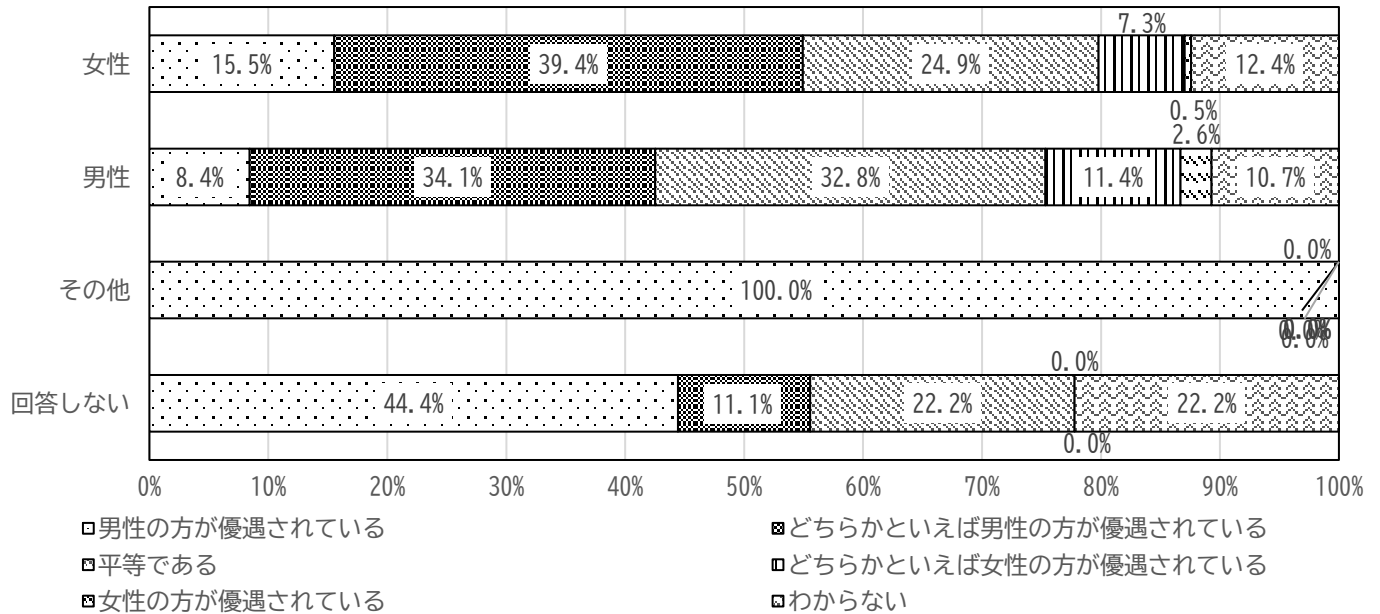


③職場で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

図. 3-2-2-1③

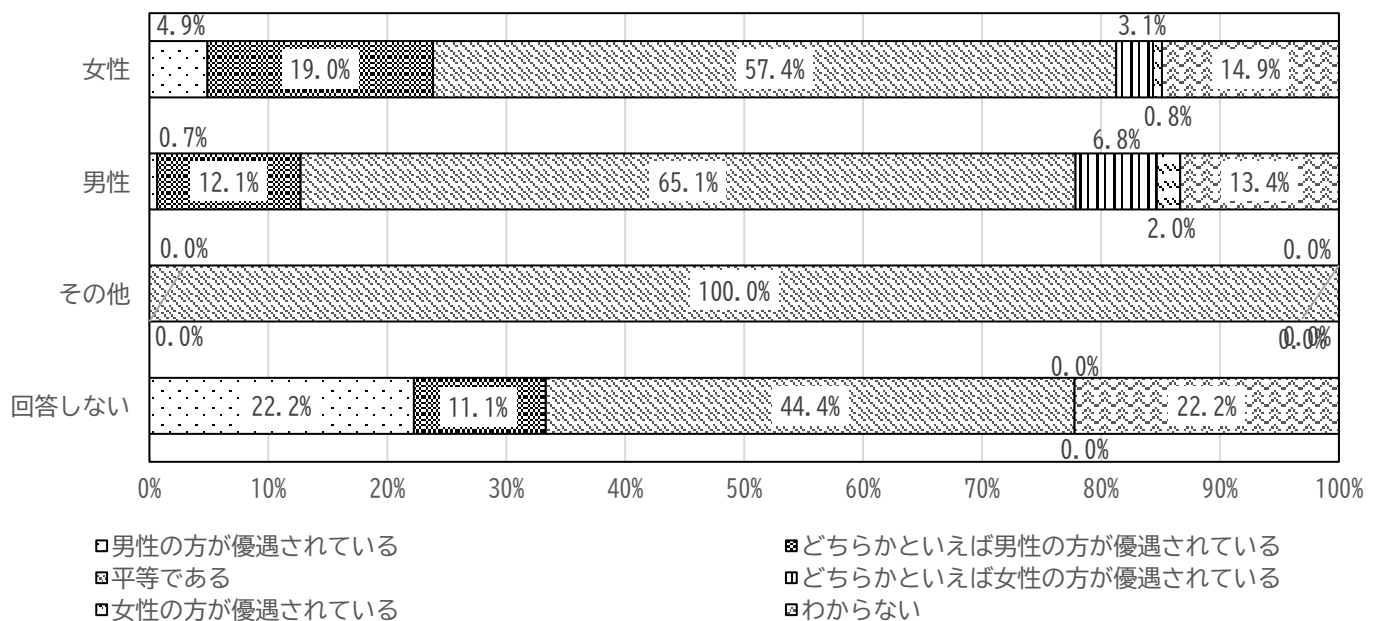


④学校教育の場で

男女別でみると、男女とも「平等」の割合が最も高い。

F1.性別

図. 3-2-2-1④

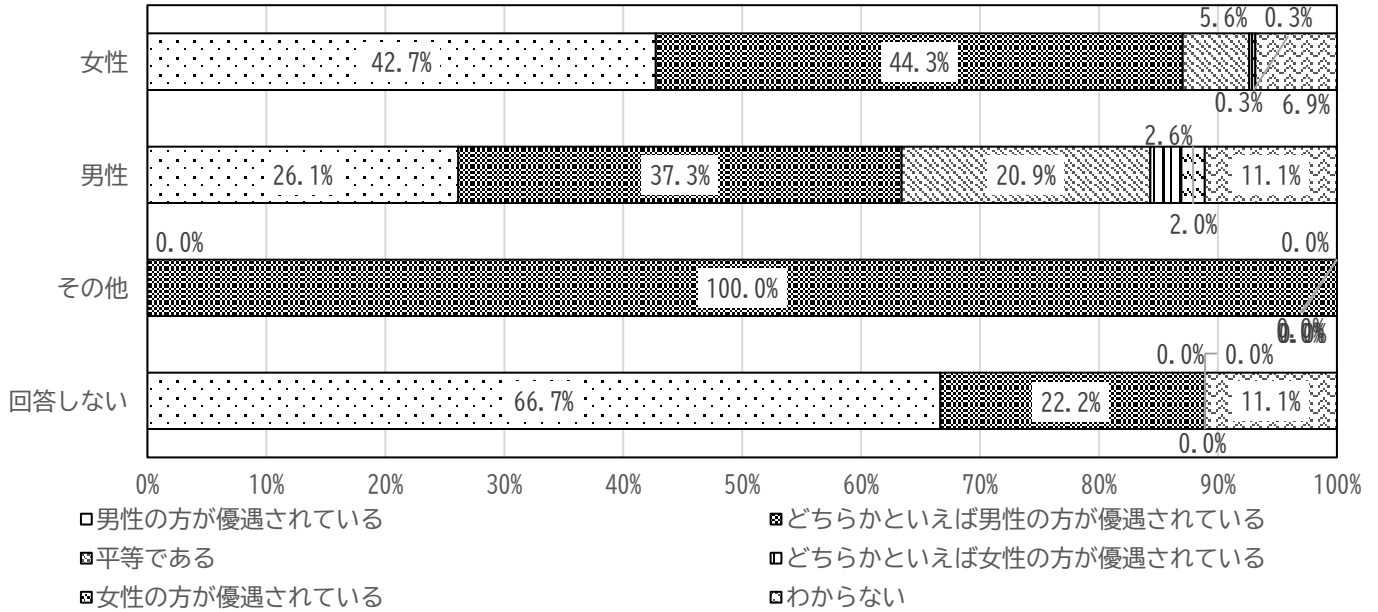


⑤政治の場で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

図.3-2-2-1⑤

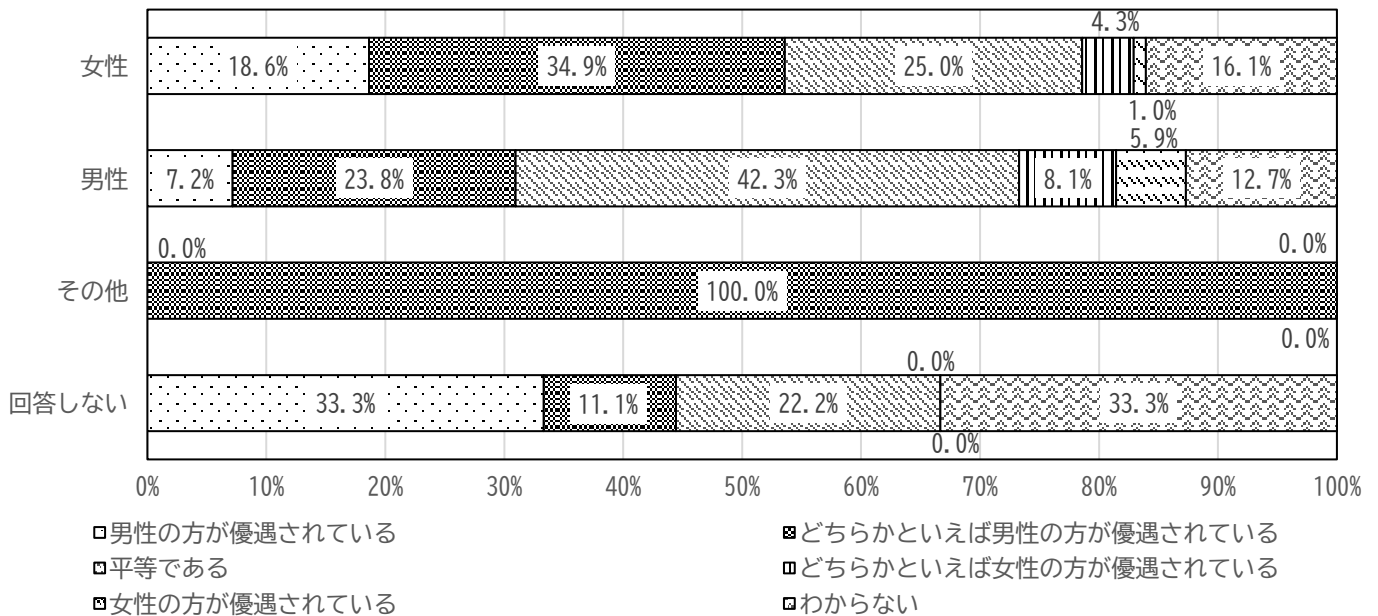


⑥法律や制度の上で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

図.3-2-2-1⑥

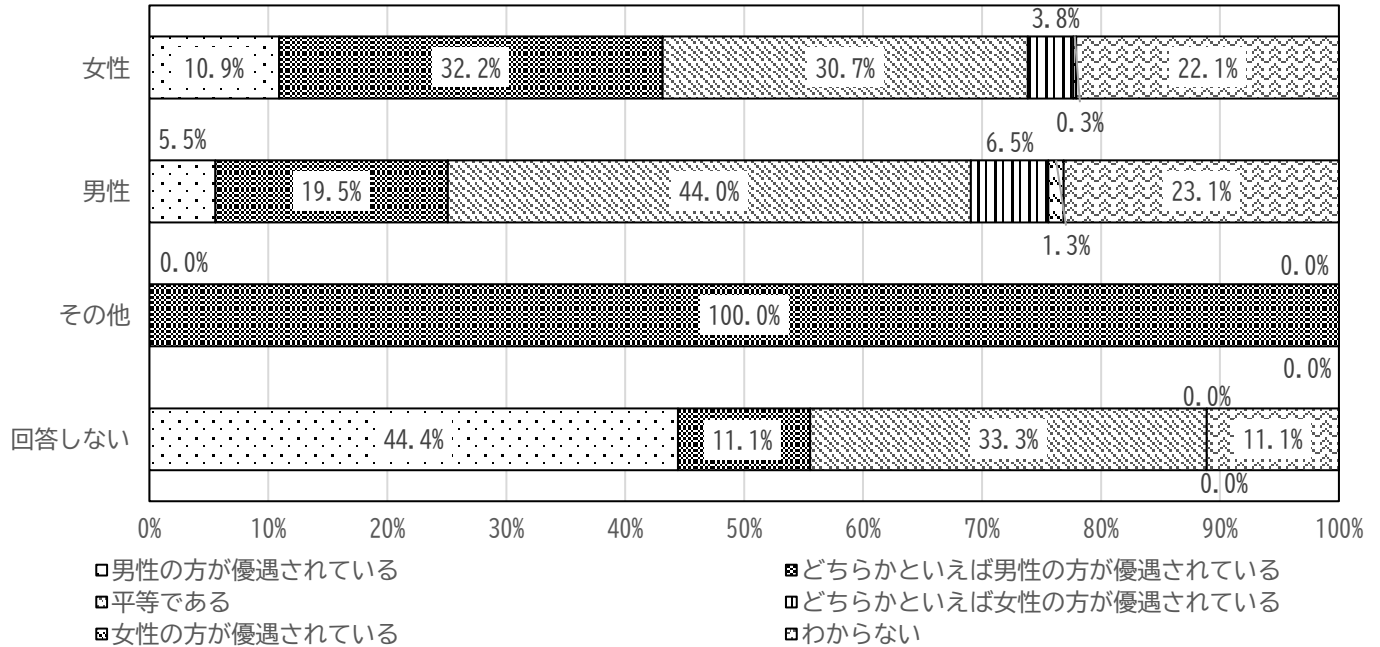


⑦地域活動で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

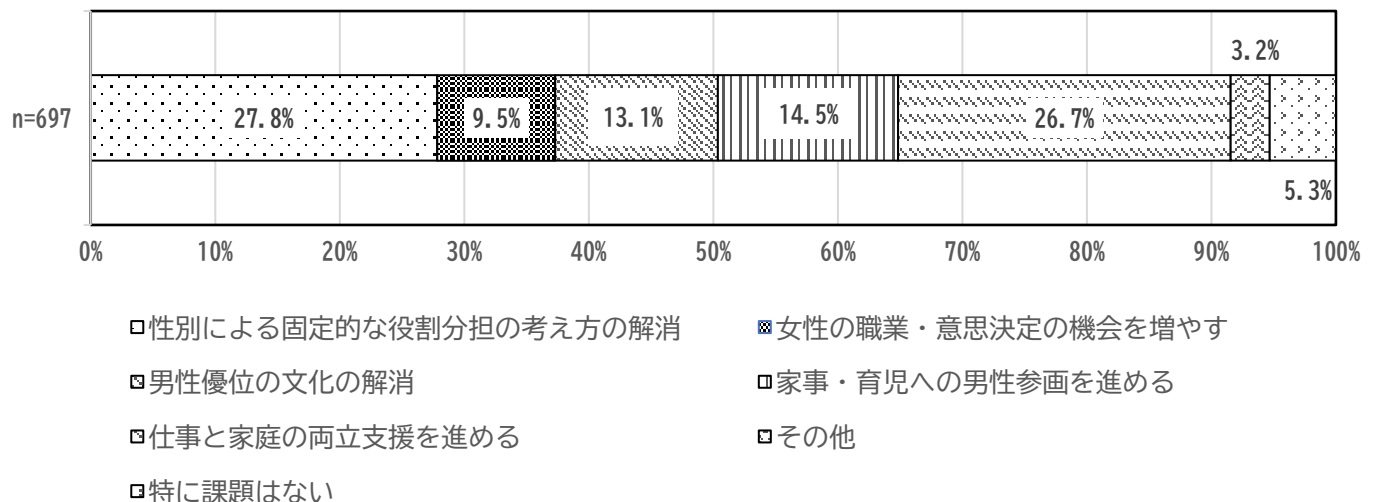
図. 3-2-2-1⑦



問3 男女共同参画社会の実現に向けて、あなたが考える1番の課題は何ですか。

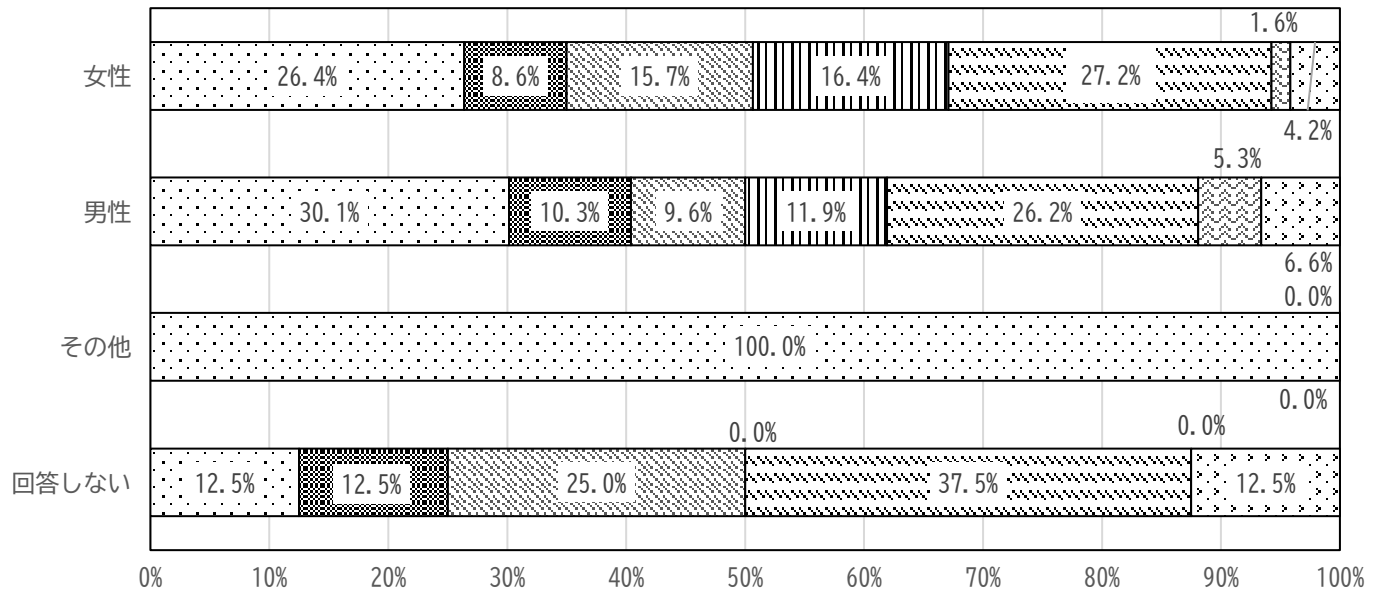
「性別による固定的な役割分担の考え方の解消」の割合が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援を進める」が高い。男女別でみると、女性は「仕事と家庭の両立支援を進める」が最も高く、男性は「性別による固定的な役割分担の考え方の解消平等」が最も高い。

図 3-2-3



F1.性別

図. 3-2-3-1



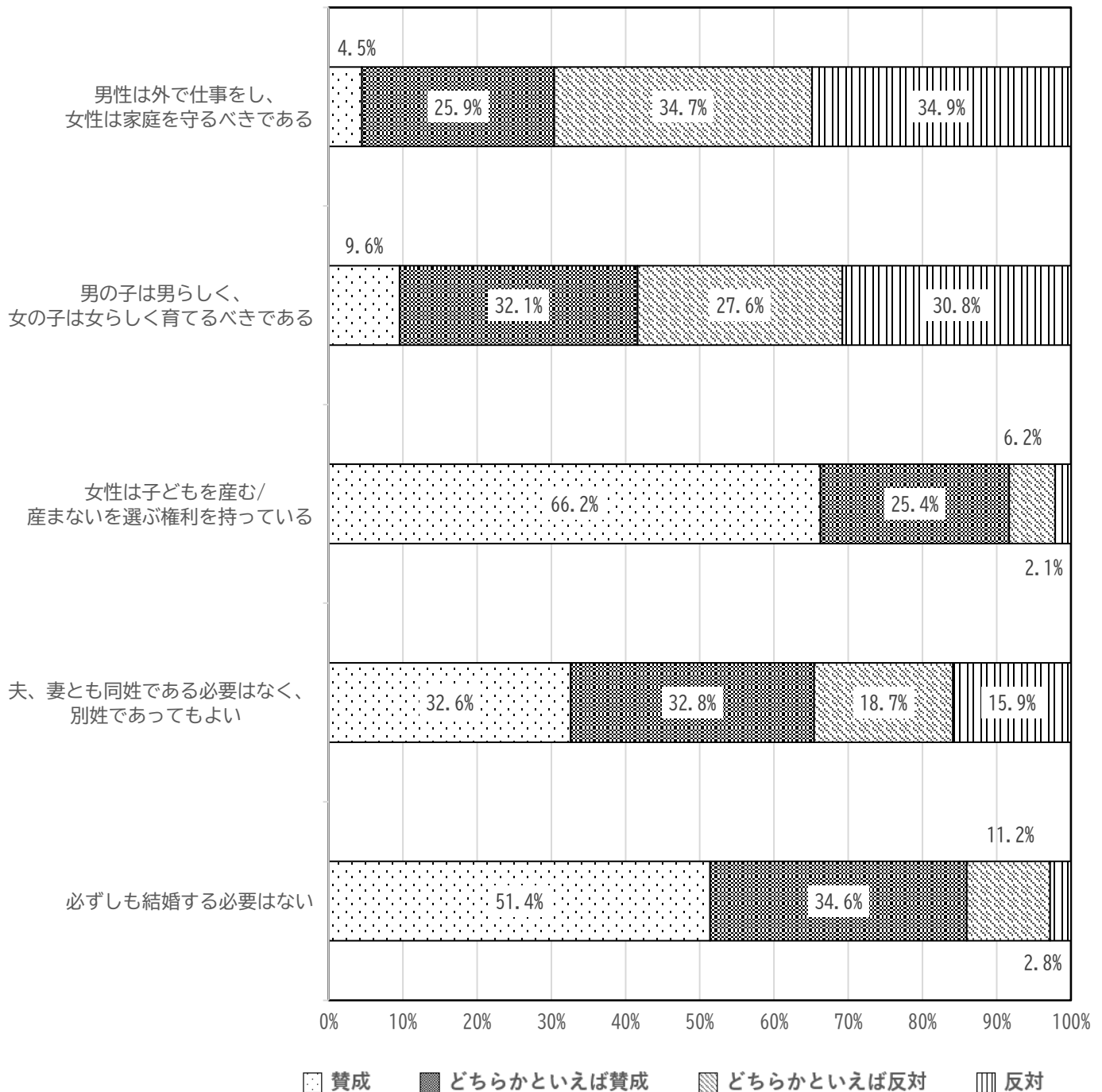
- 性別による固定的な役割分担の考え方の解消
- ▣女性優位の文化の解消
- 仕事と家庭の両立支援を進める
- 特に課題はない
- 女性の職業・意思決定の機会を増やす
- 家事・育児への男性参画を進める
- ▣その他

3-3 生活の中での男女共同参画について

問4 あなたは、次の①～⑤の意見について、どのように思いますか。

「男性は外で仕事、女性は家庭を守る」「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は「反対」の割合が高く、「女性は子どもを産む、産まないを選ぶ権利を持っている」「同姓である必要はなく、別姓であってもよい」「必ずしも結婚する必要はない」は「賛成」の割合が高い。

図 3-3-4



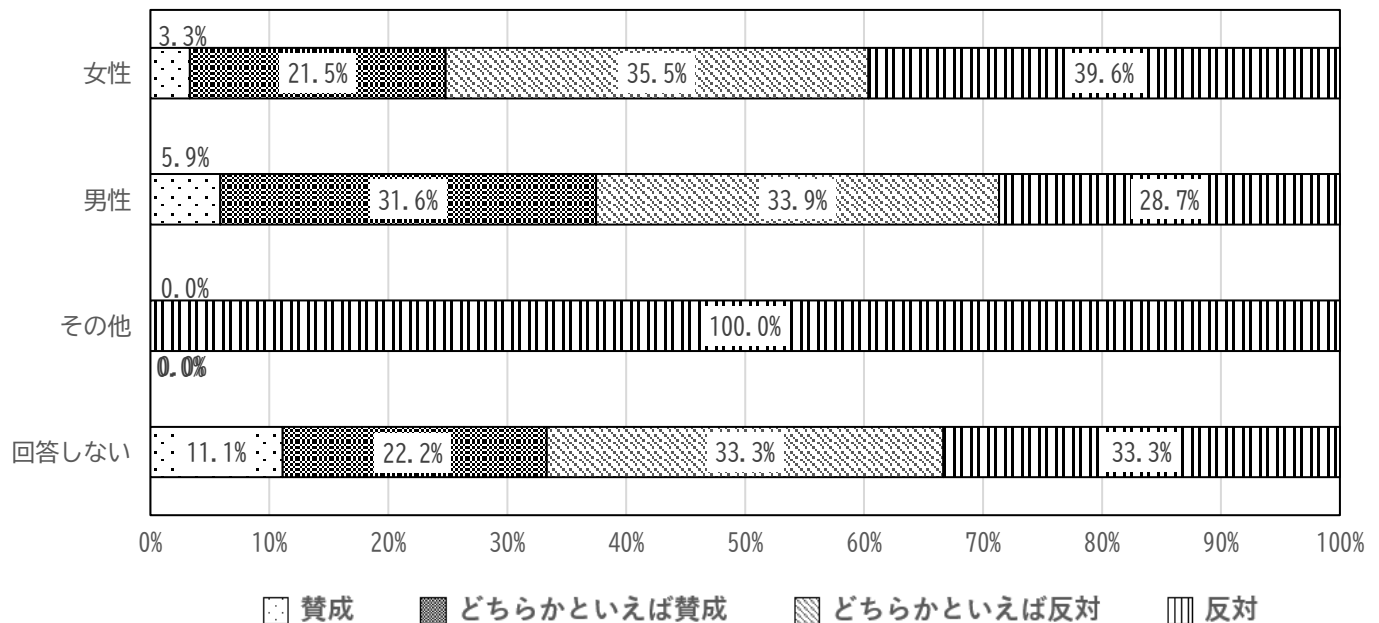
■属性別の特徴

①「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである」について

男女別でみると、女性の方が「反対」が多く、大きな差が見られる。年齢別でみると10代の「反対」が最も多い。

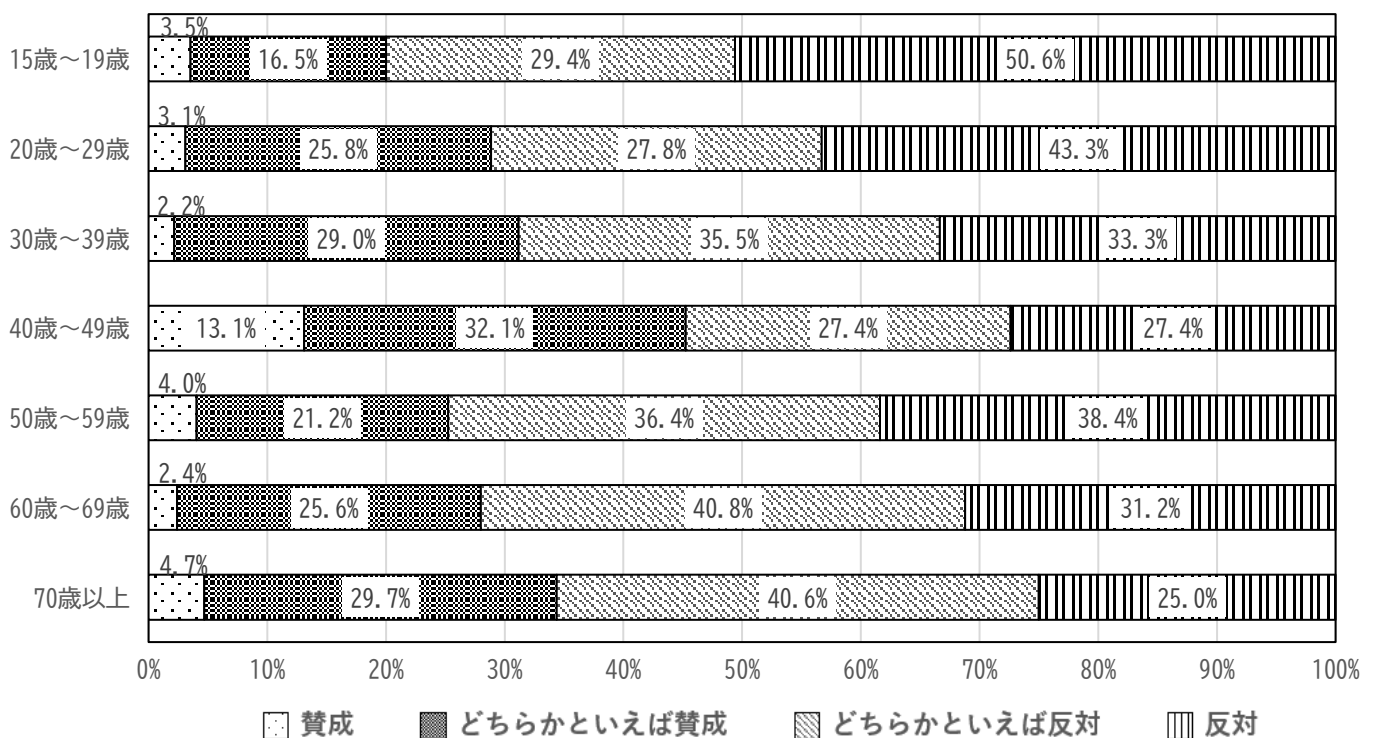
F1.性別

図. 3-3-4-1①



F2.年齢別

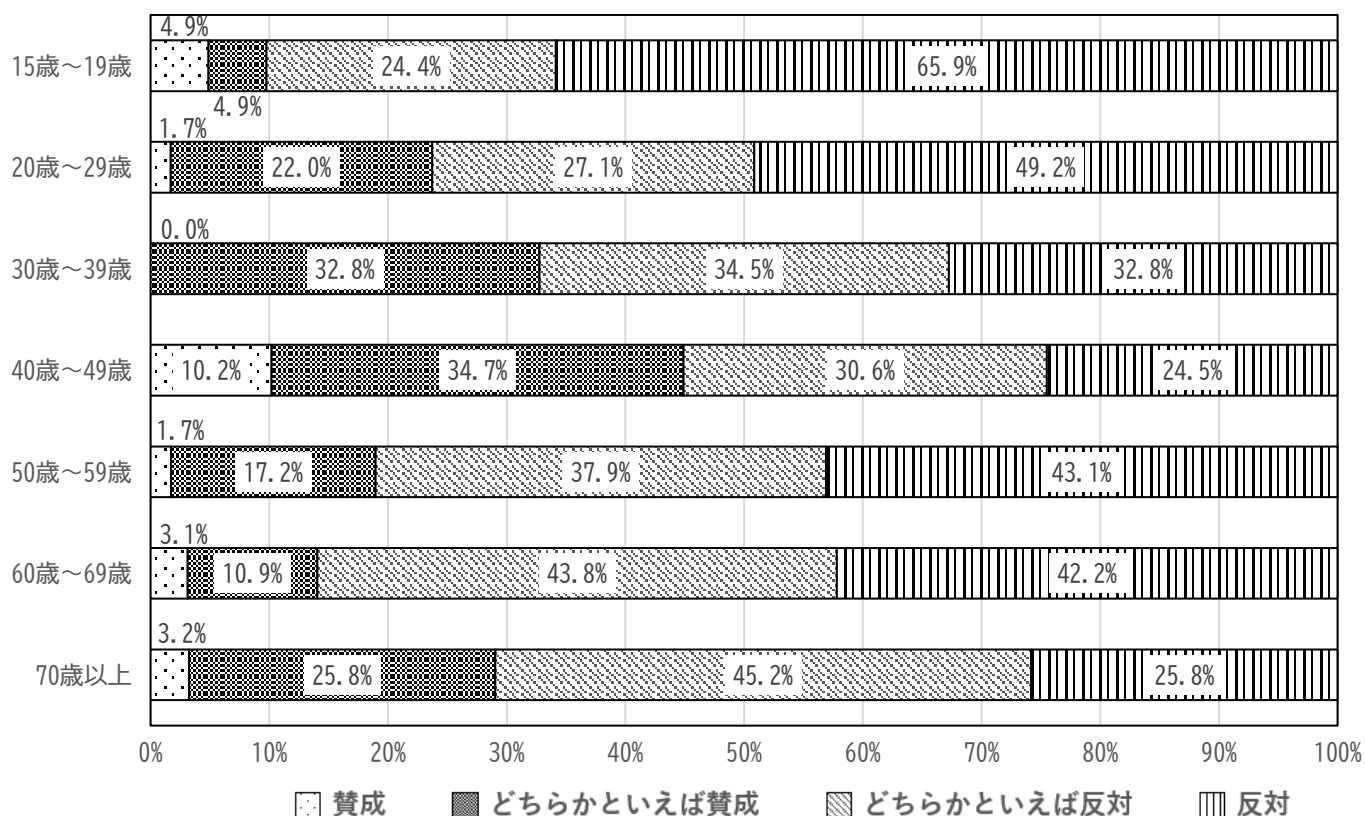
図. 3-3-4-2①



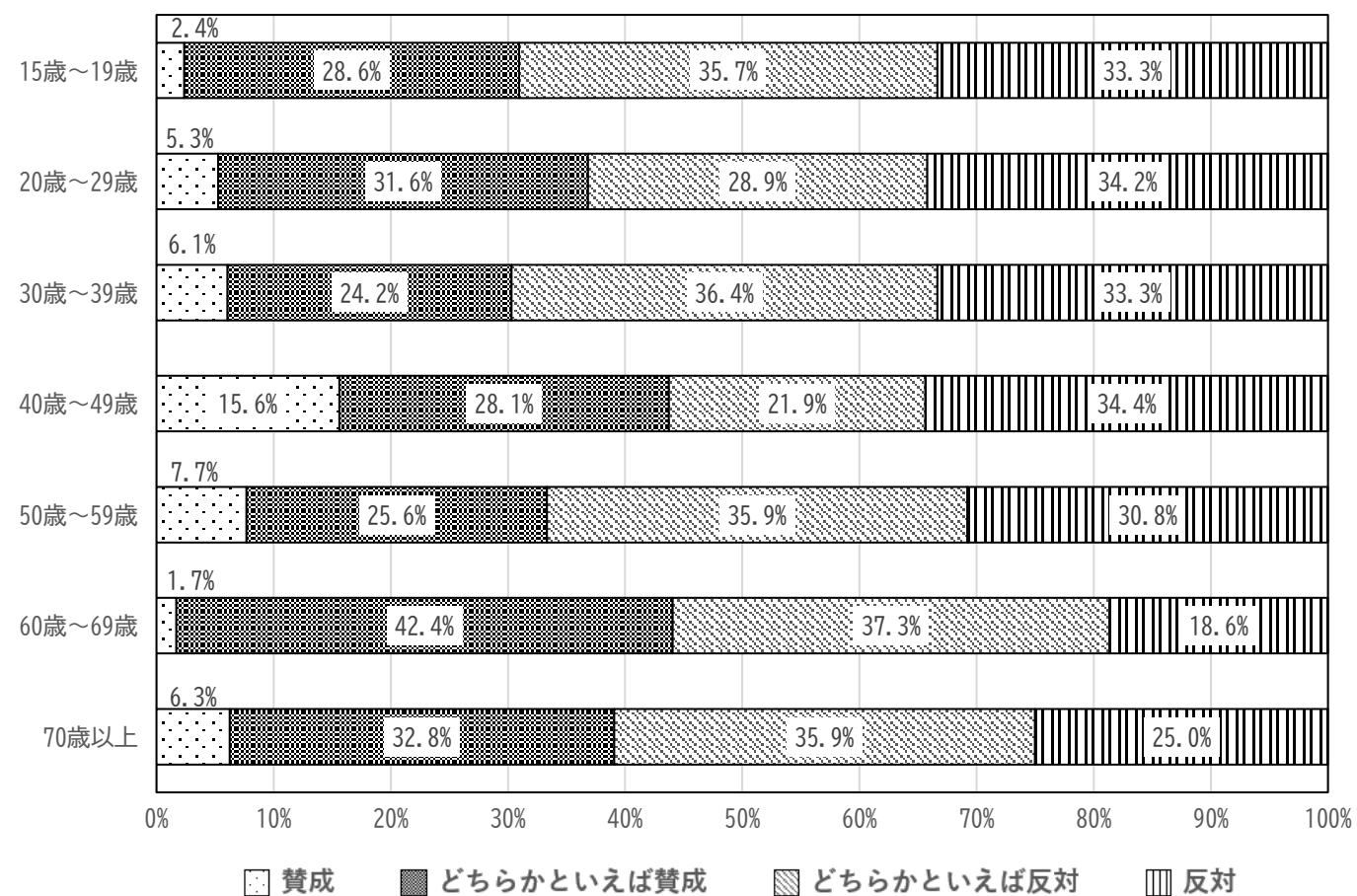
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-3-4-1×2①

【女性】



【男性】



■経年比較（参考。今回と選択肢が異なる。）

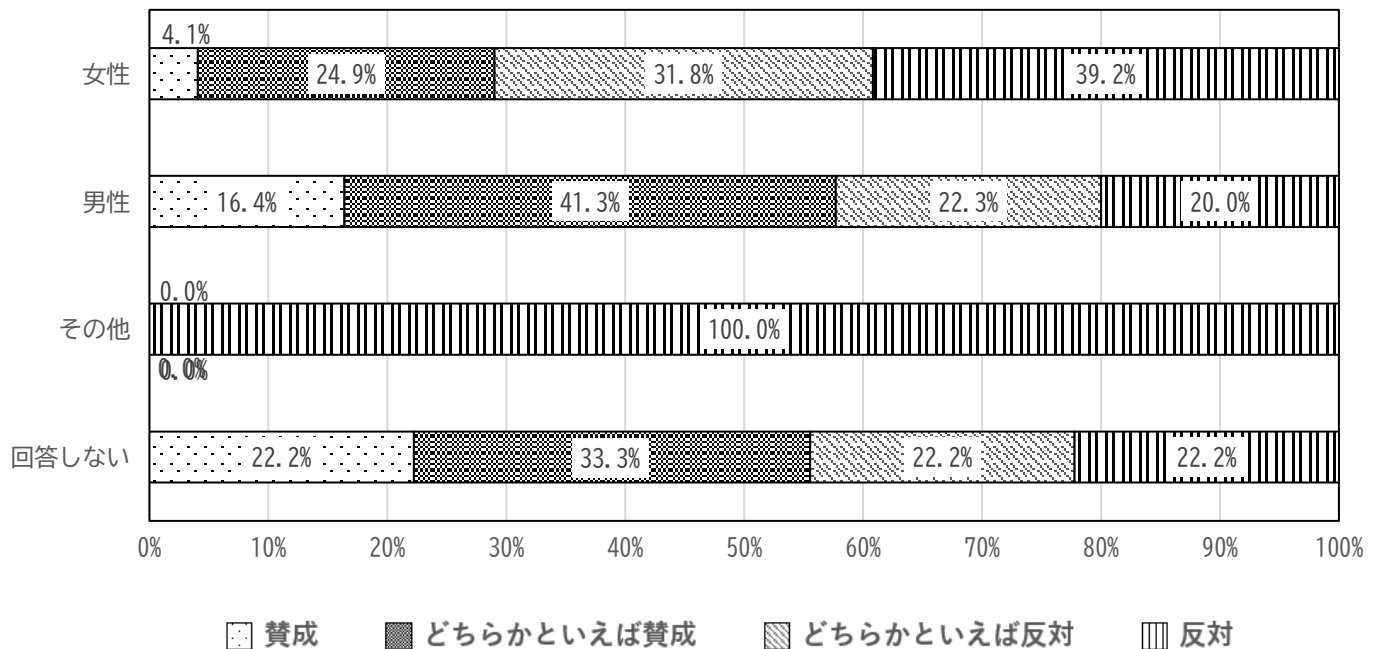
男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである		
選択肢	R3	
そう思う	2.1%	17.9%
どちらかといえばそう思う	15.8%	
どちらかといえばそう思わない	30.3%	82.1%
そう思わない	51.8%	

②「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである」について

男女別でみると、女性の方が「反対」が多く、大きな差が見られる。子どもの有無でみると、子どもがいる人の方が「反対」が多い。

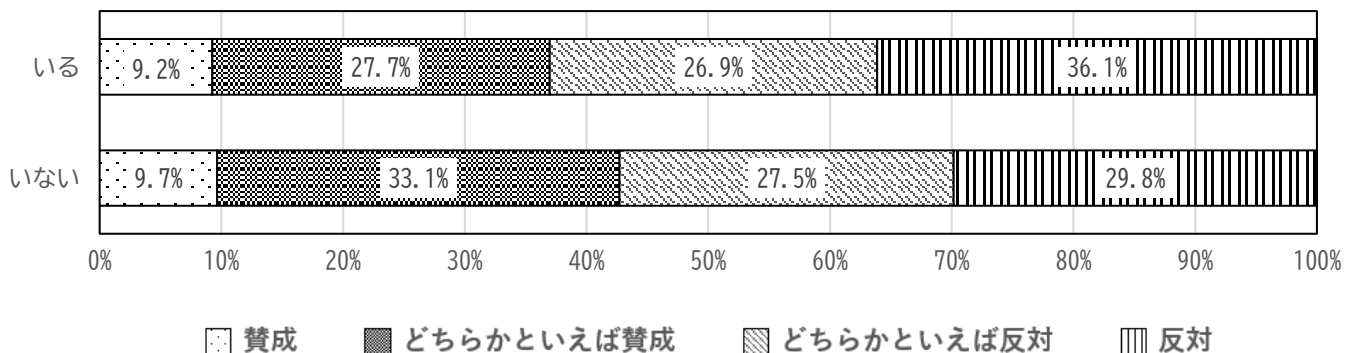
F1.性別

図. 3-3-4-1②



F5.中学生以下の子の有無別

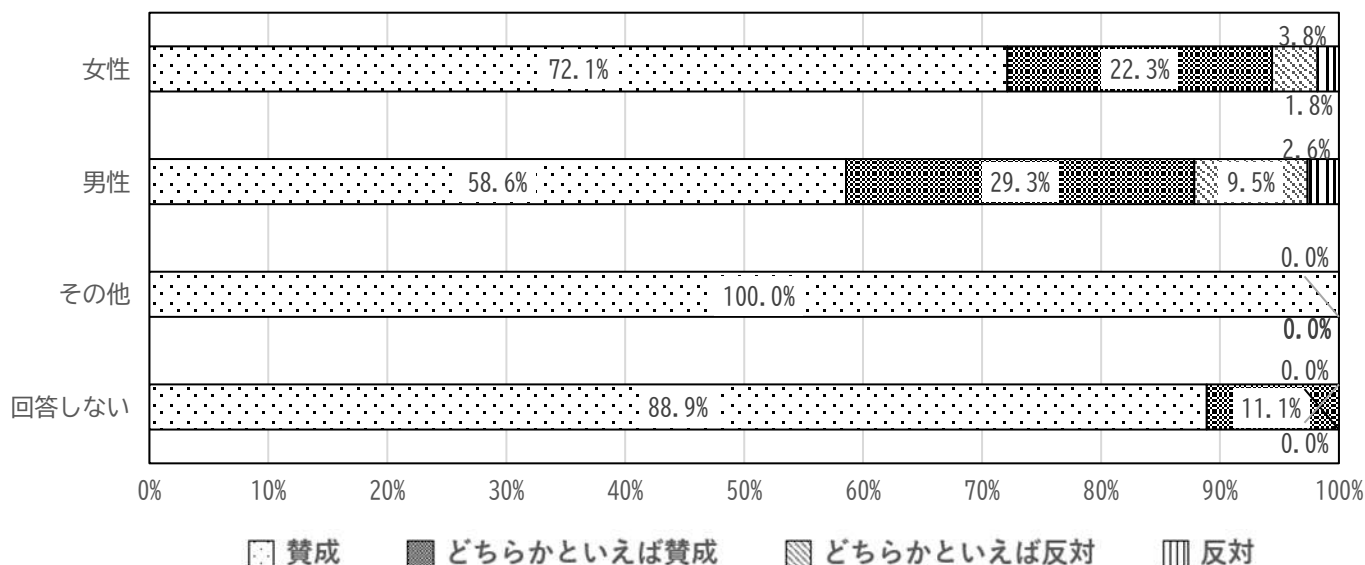
図. 3-3-4-5 ②



③「女性は子どもを産む/産まないを選ぶ権利を持っている」について
男女別でみると、女性の方が「賛成」が多い。

F1.性別

図. 3-3-4-1③

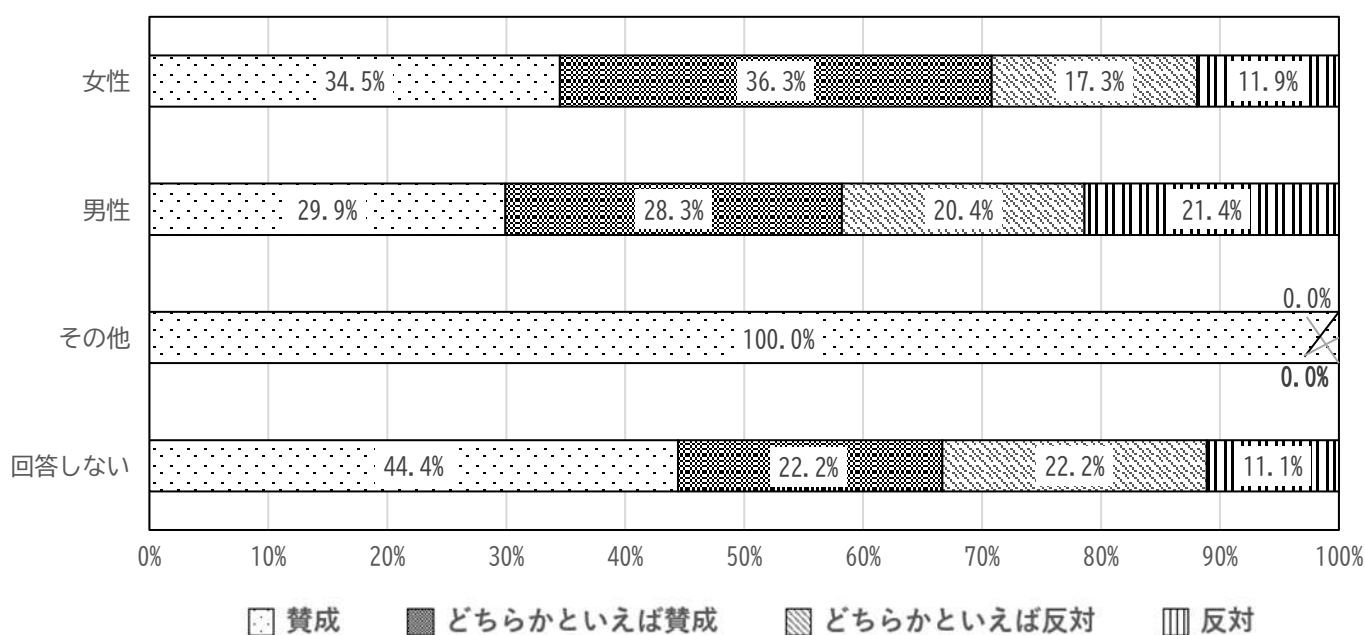


④「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」について

男女別でみると、女性の方が「賛成」が多く、大きな差が見られる。年齢別にみると、各年代とも「賛成」が多く、10代、50代が特に多い。結婚の有無でみると、していない方が「賛成」が多い。

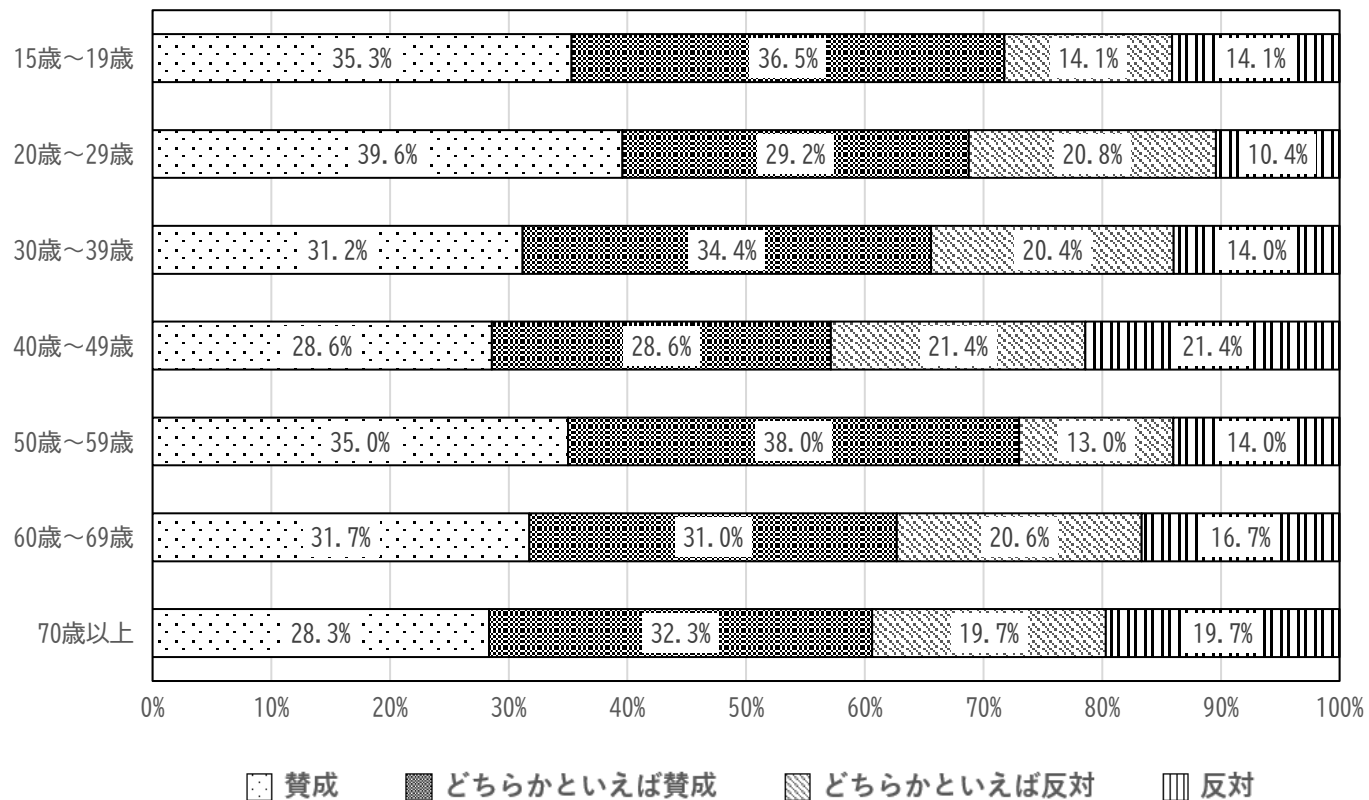
F1.性別

図. 3-3-4-1④



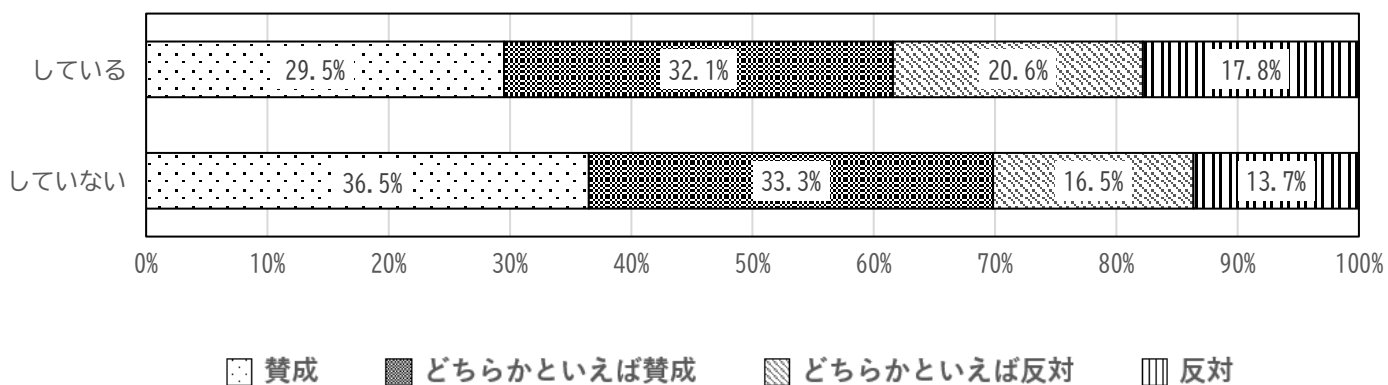
F2.年齢別

図. 3-3-4-2④



F4.結婚の有無別

図. 3-3-4-4④

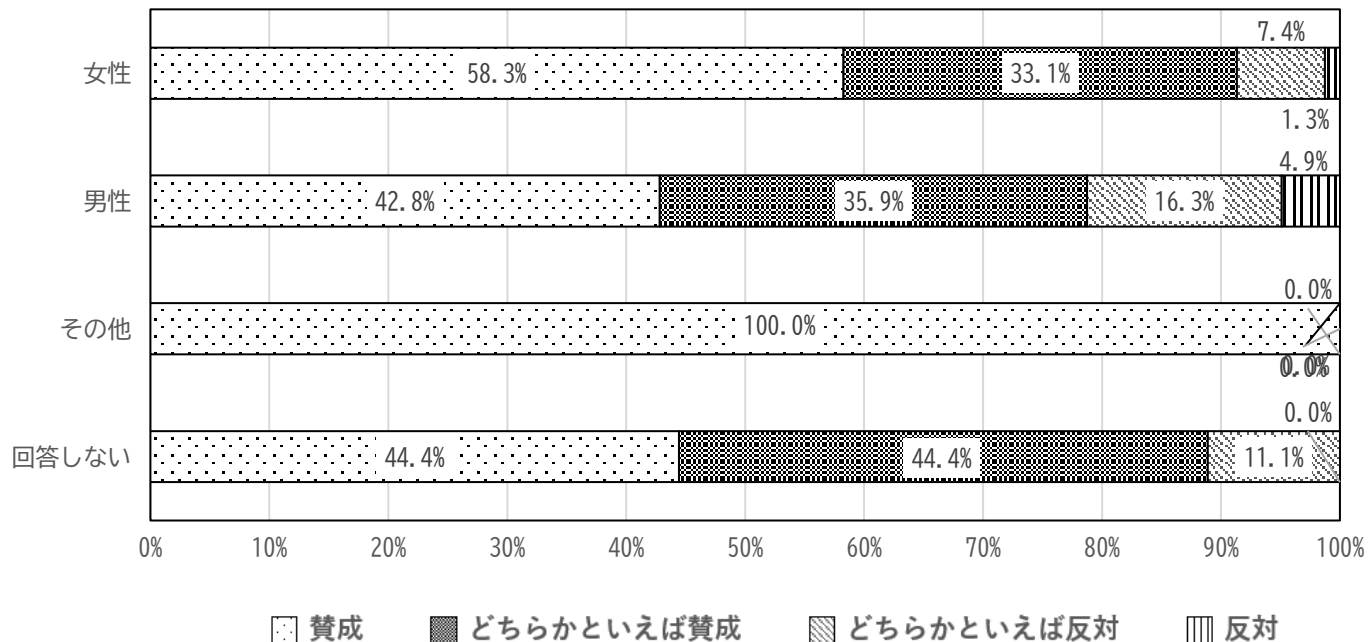


⑤「必ずしも結婚する必要はない」について

男女別で見ると、女性の方が「賛成」が多く、大きな差が見られる。年齢別で見ると、「賛成」は10代が最も多く、次いで30代が多い。年齢が低いほど賛成の傾向がある。

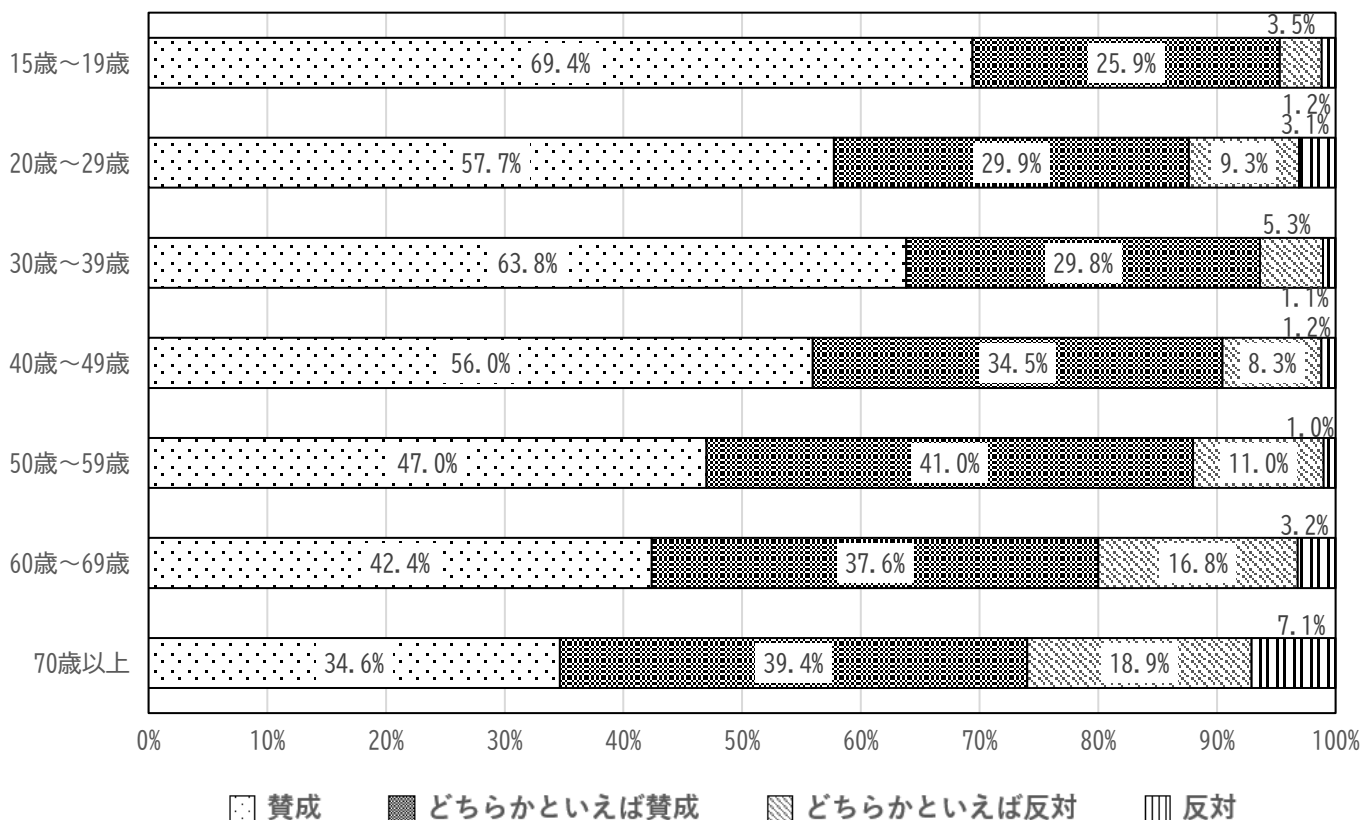
F1.性別

図. 3-3-4-1⑤



F2.年齢別

図. 3-3-4-2⑤

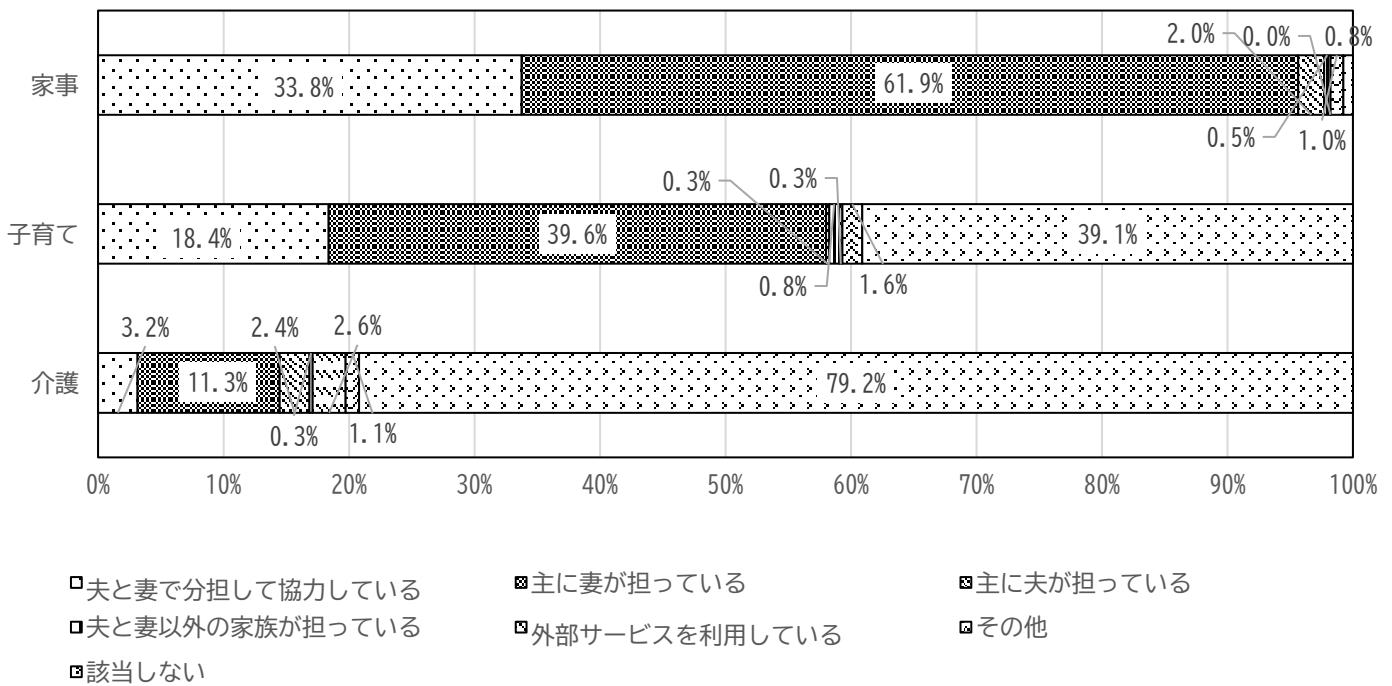


【現在、結婚（事実婚を含む）している人のみ回答】

問5 家事や子育て等は、誰が日常的に担っていますか。

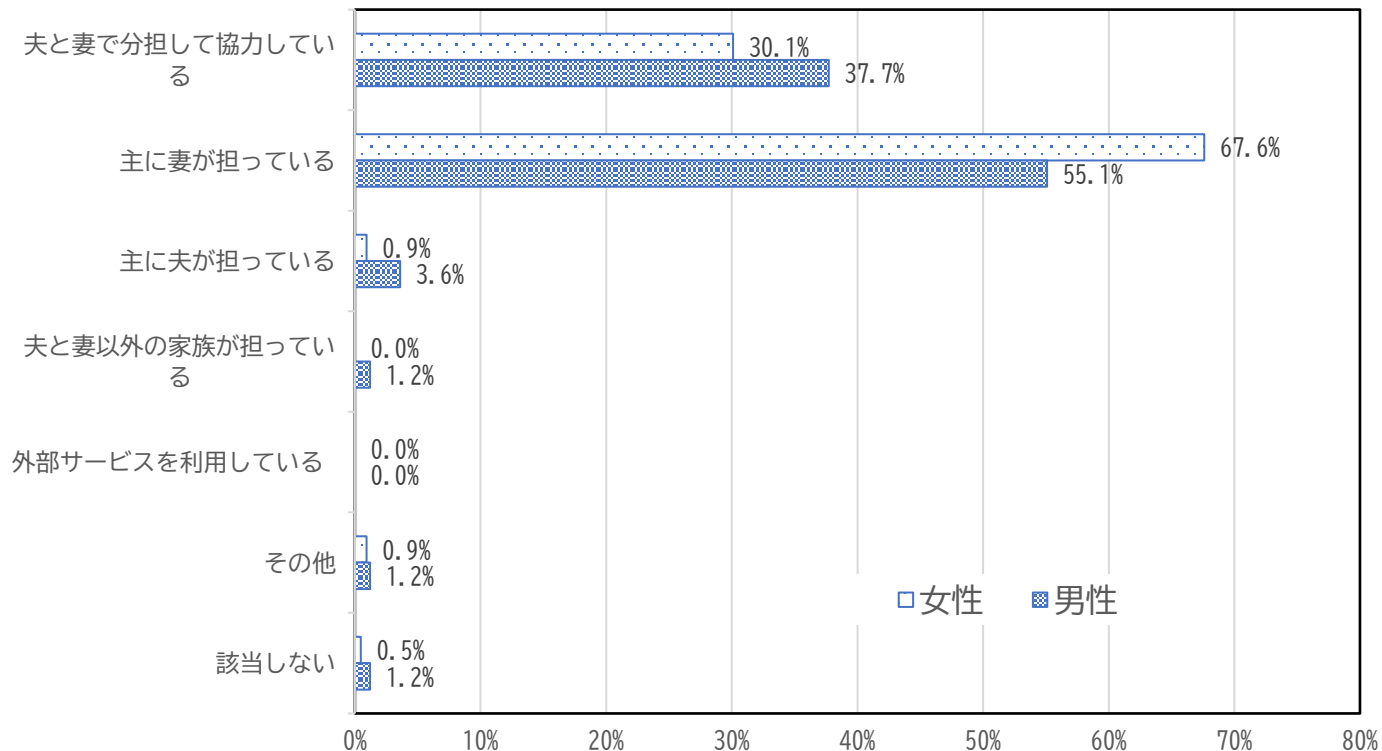
家事、子育ては、「主に妻が担っている」が最も割合が高い。介護も「該当しない」を除くと「主に妻が担っている」が最も高い。男女別でみると、男女とも「主に妻が担っている」の割合が最も高い。

図 3-3-5



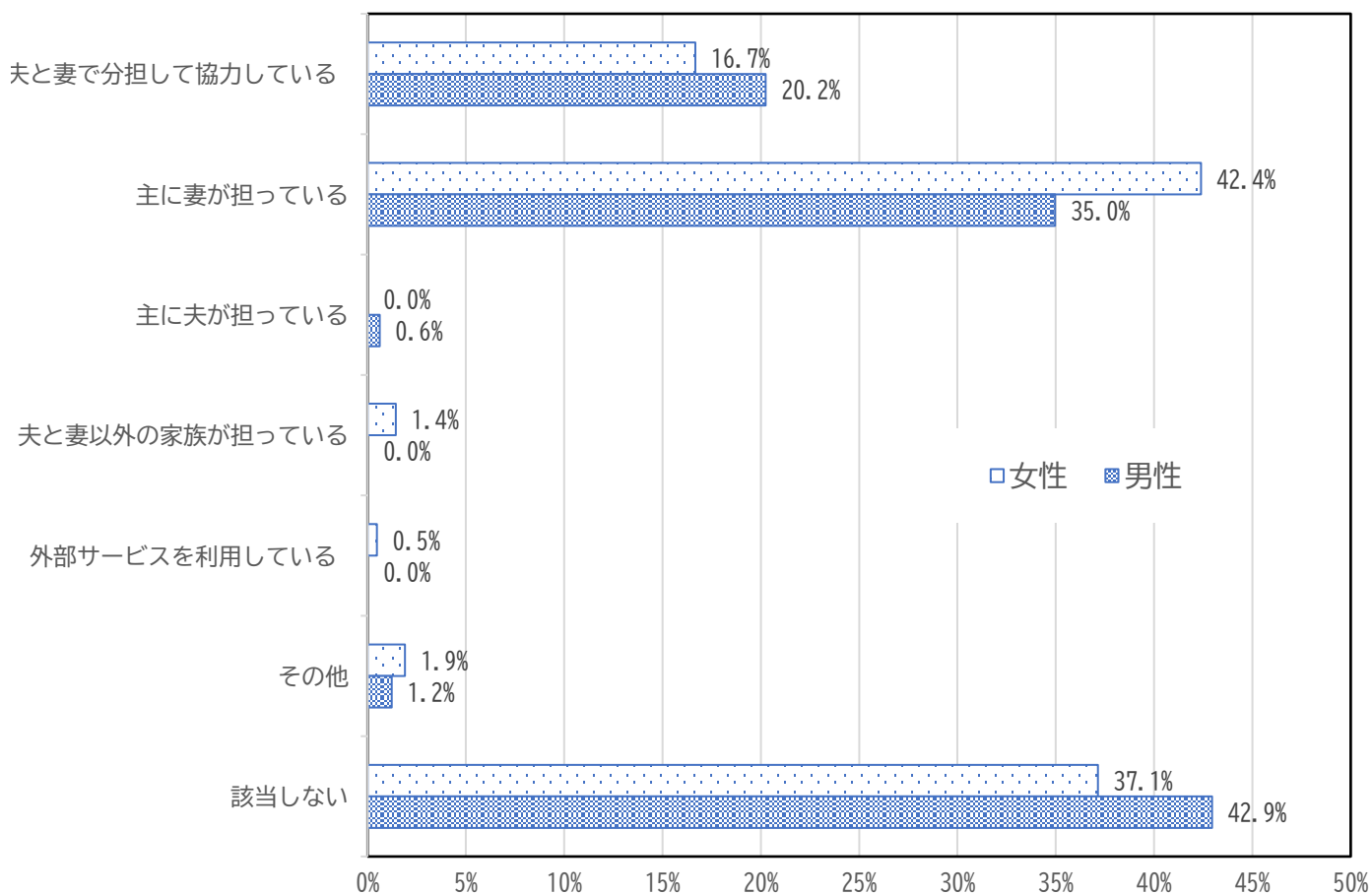
F1.性別

図. 3-3-5-1①家事



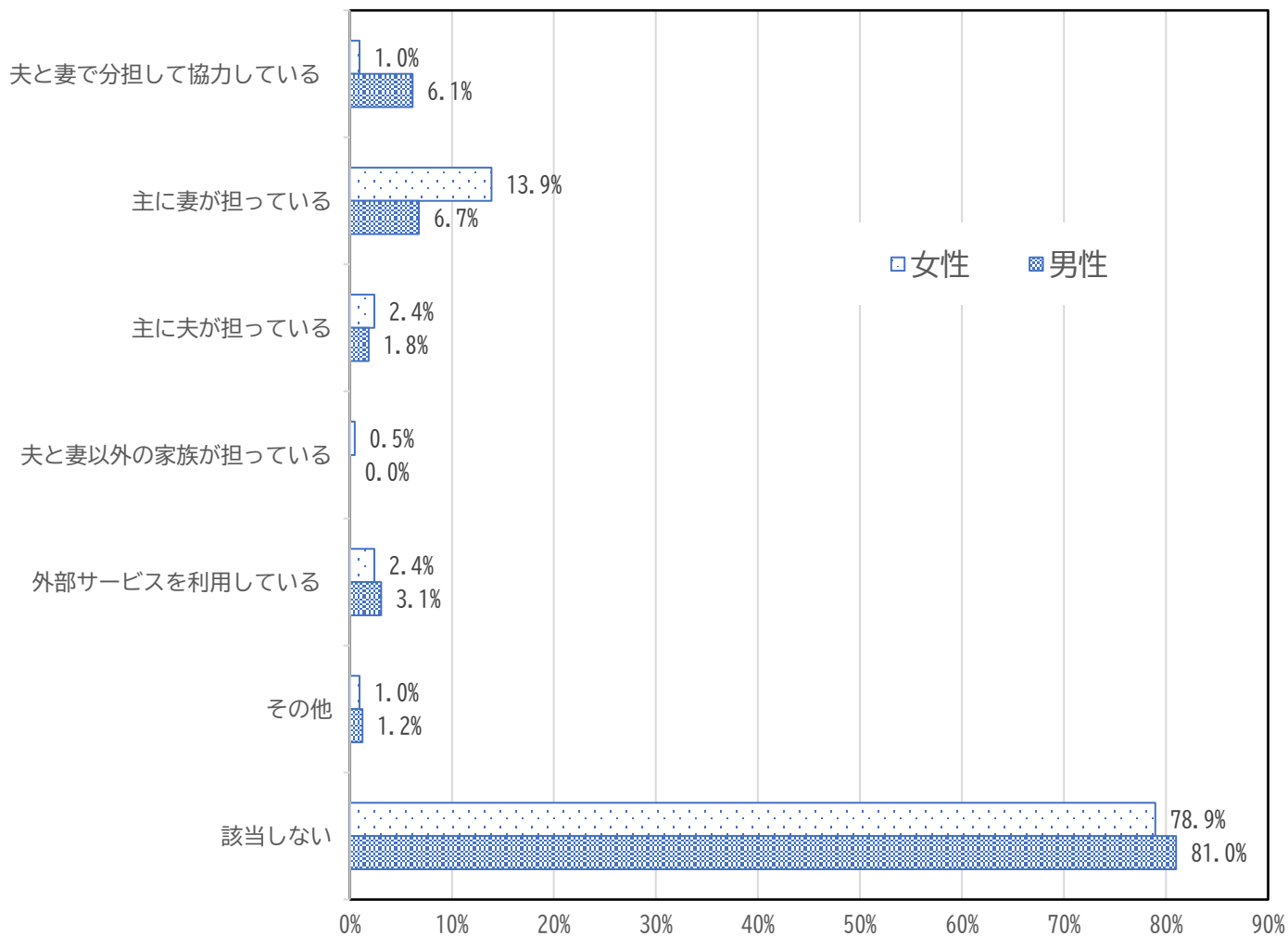
F1.性別

図. 3-3-5-1②子育て



F1.性別

図. 3-3-5-1③介護

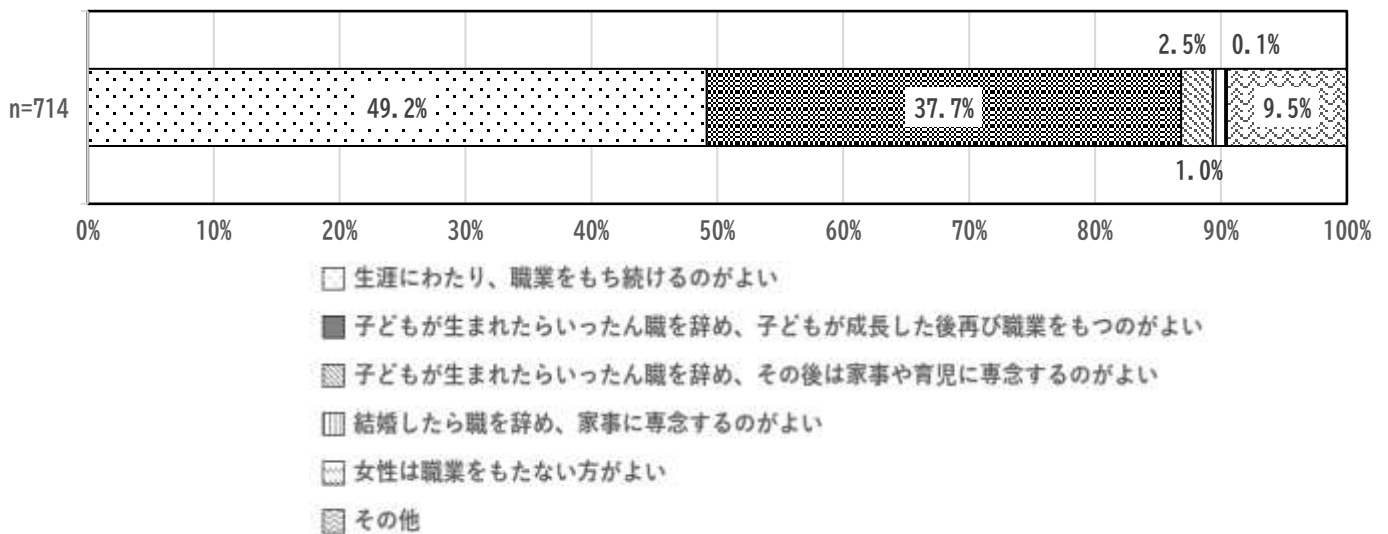


3-4 女性の職業生活における活躍の推進について

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。

「生涯にわたり職業を持ち続けるのがよい」が最も割合が高く、次いで「子どもが生まれたらいったん仕事を辞め、子どもが成長した後再び職業を持つのがよい」が高い。男女別にみると、女性は男性に比べて「生涯にわたり職業を持ち続けるのがよい」と回答した割合が高い。働き方別にみると、自営業、正社員・正職員では「生涯にわたり、職業を持ち続けるのがよい」と回答した割合が特に高い。

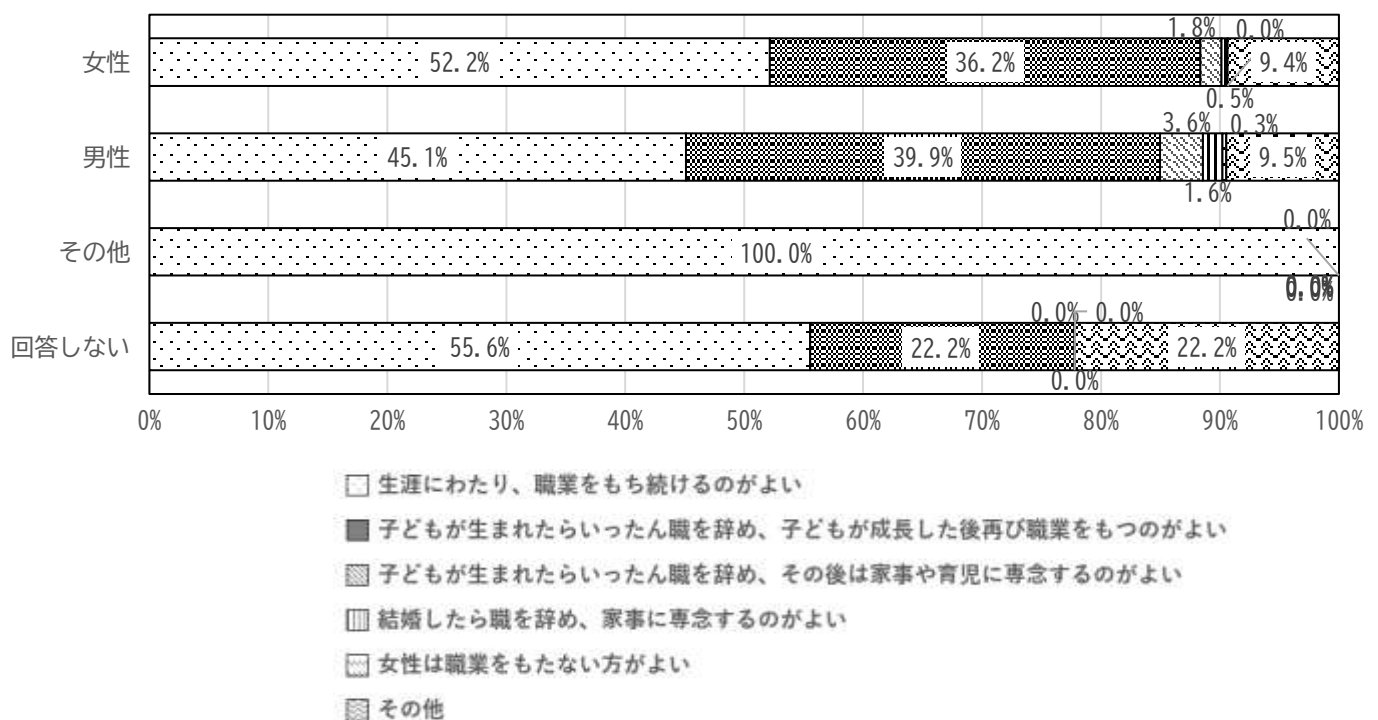
図 3-4-6



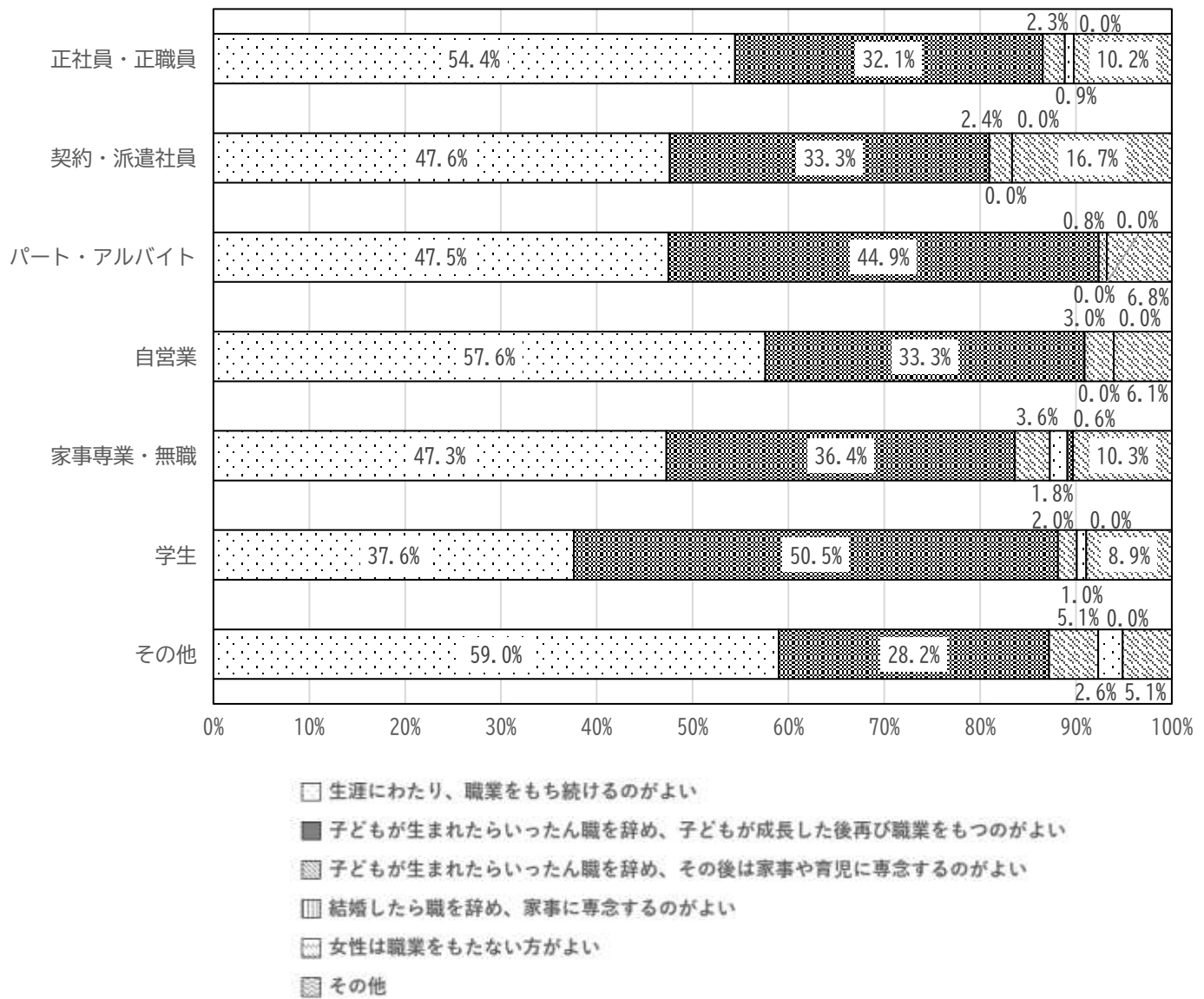
■属性別の特徴

F1.性別

図. 3-4-6-1



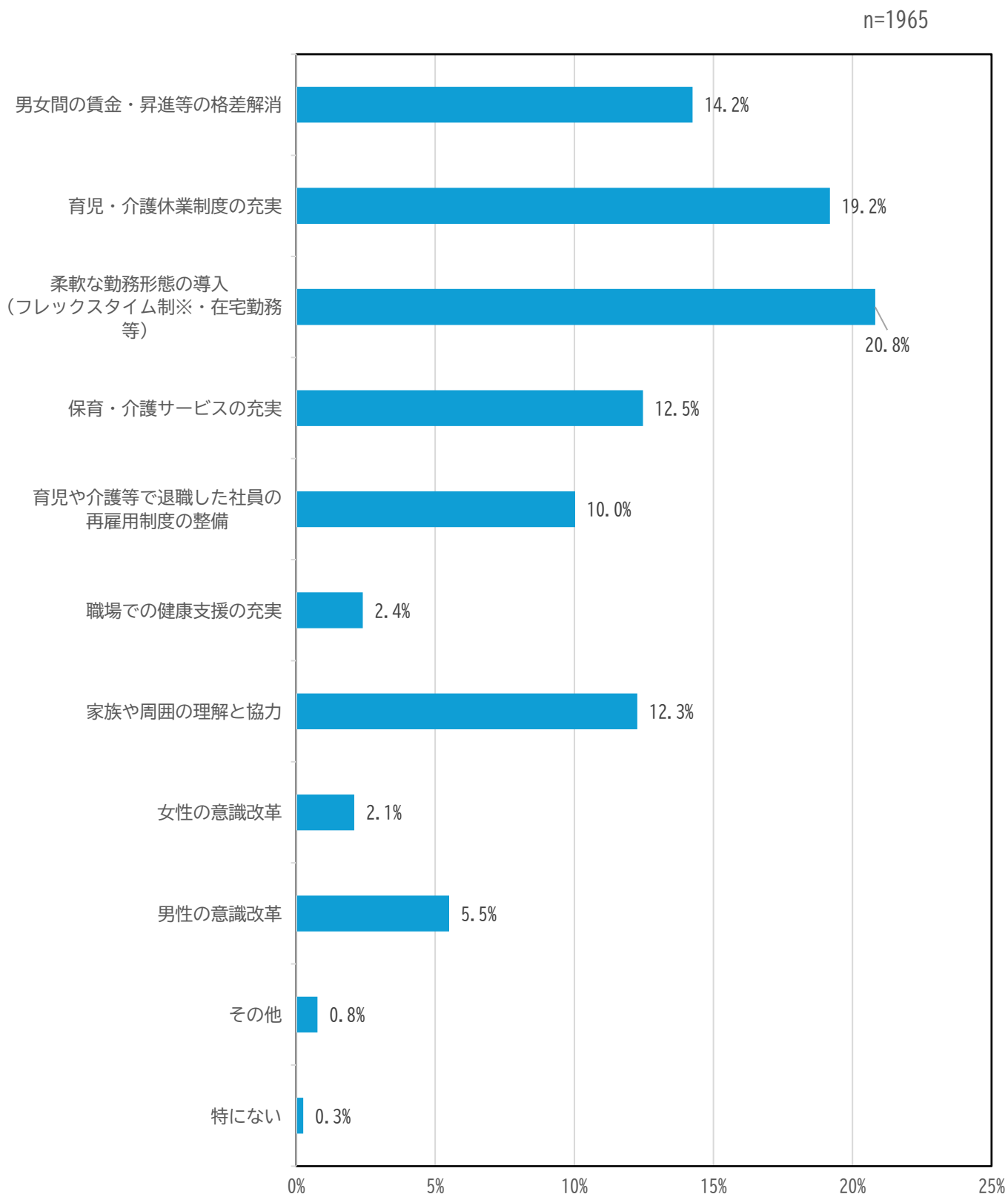
F3.働き方等別
 図. 3-4-6-3



問 7 女性が長く働き続けるためには、あなたは、どのようなことが特に重要だと思いますか。
(3つまで選択可)

「柔軟な勤務形態の導入」の割合が最も高く、次いで「育児・介護休業制度の充実」が高い。男女別でみると、女性は「柔軟な勤務形態の導入」が最も高く、男性は「育児・介護休業制度の充実」が最も高い。

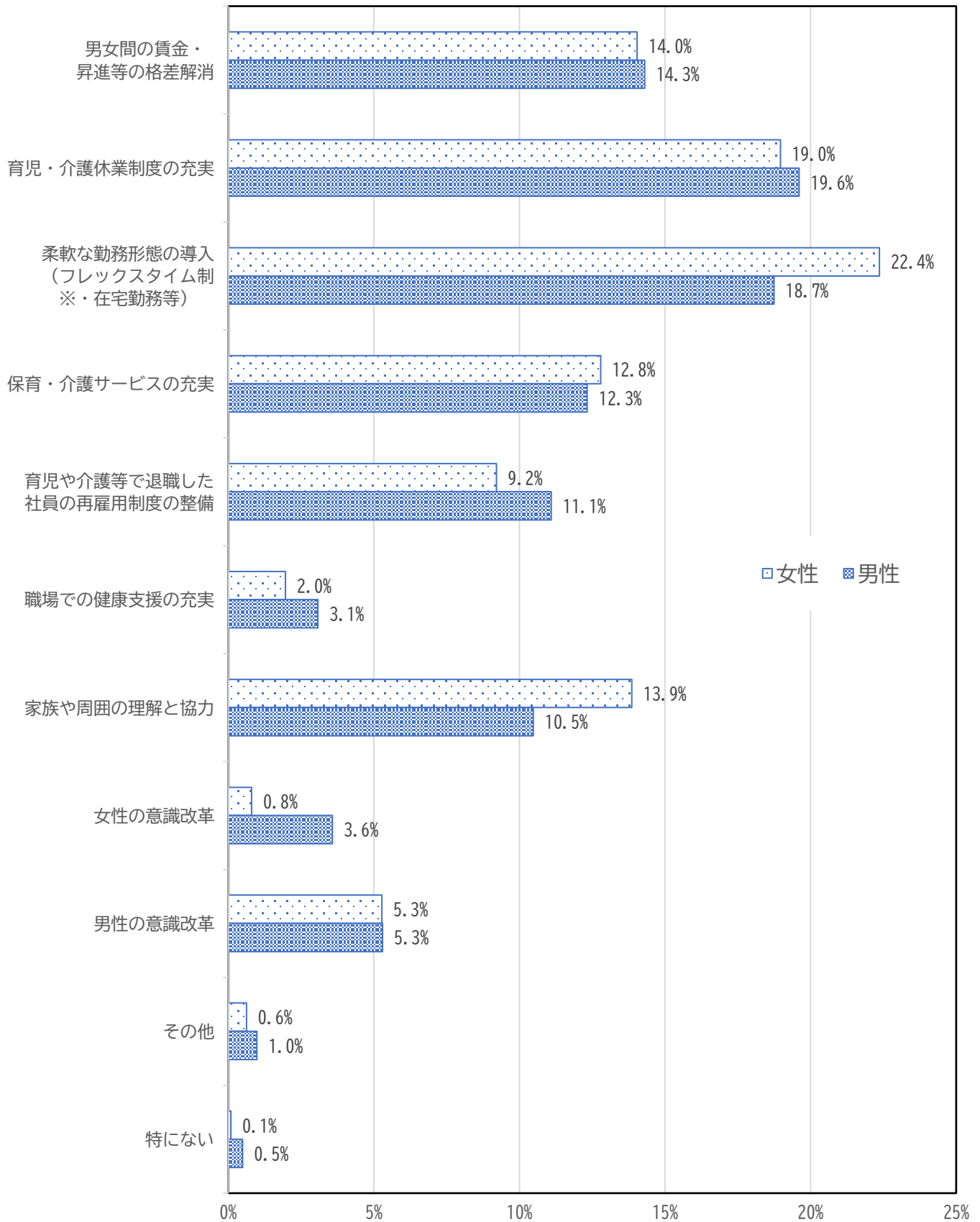
図 3-4-7



■属性別の特徴

F1.性別

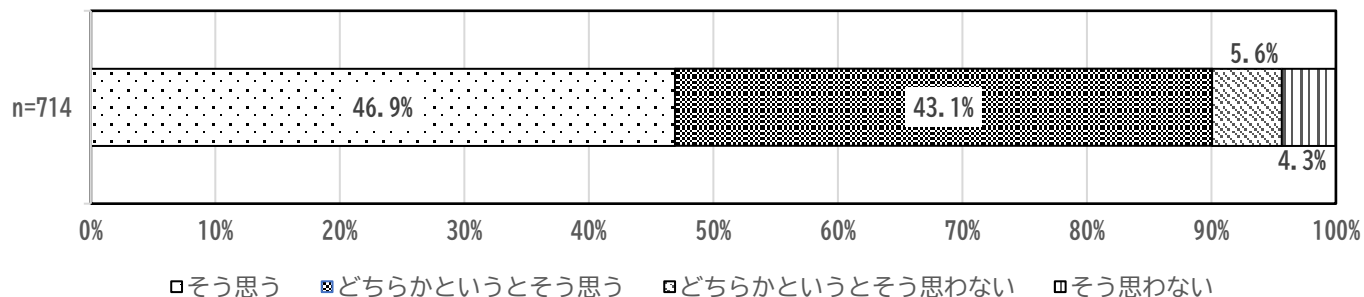
図. 3-4-7-1



問 8 あなたは、政治、経済、地域活動において、リーダーや役員にもっと女性の参画が必要だと思いますか。

「そう思う～どちらかというと思う」が90%に達した。男女とも「そう思う～どちらかというと思う」の割合が高く、男女別でみると女性の方が多い。

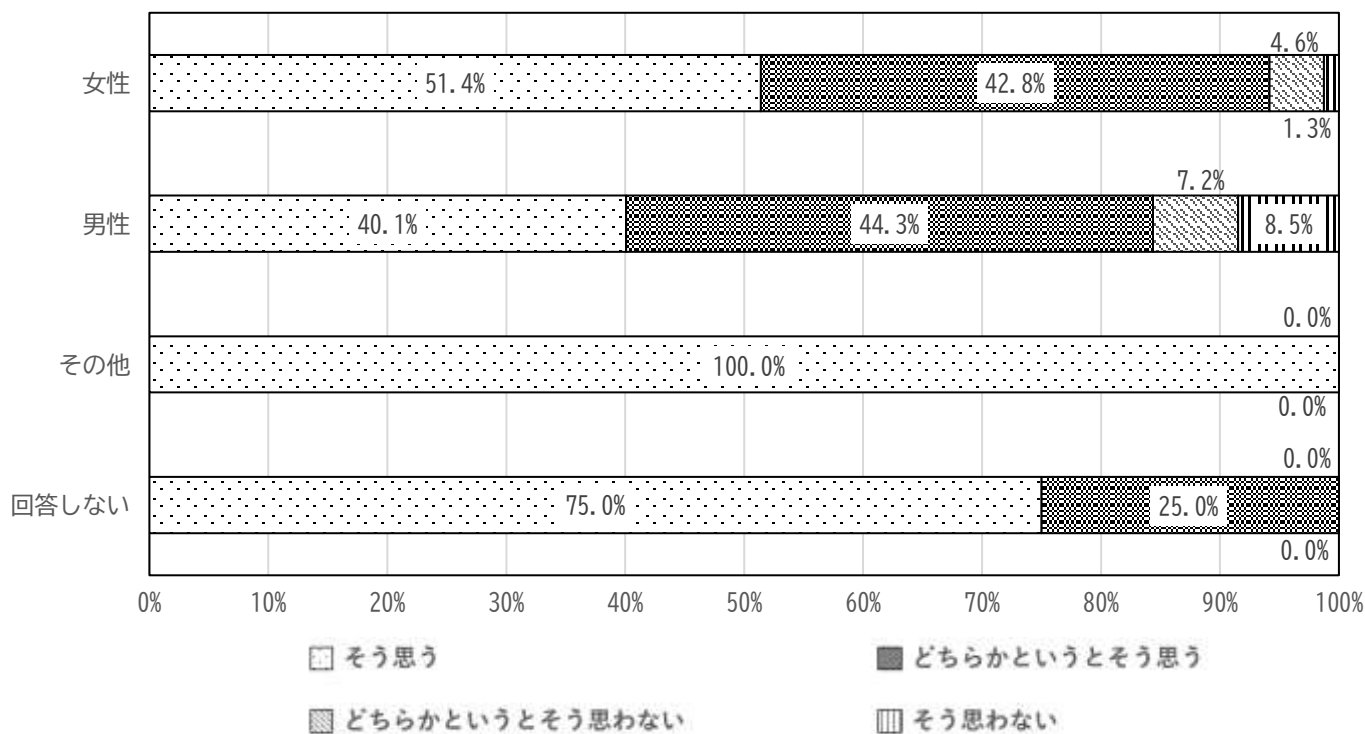
図 3-4-8



■属性別の特徴

F1.性別

図. 3-4-8-1

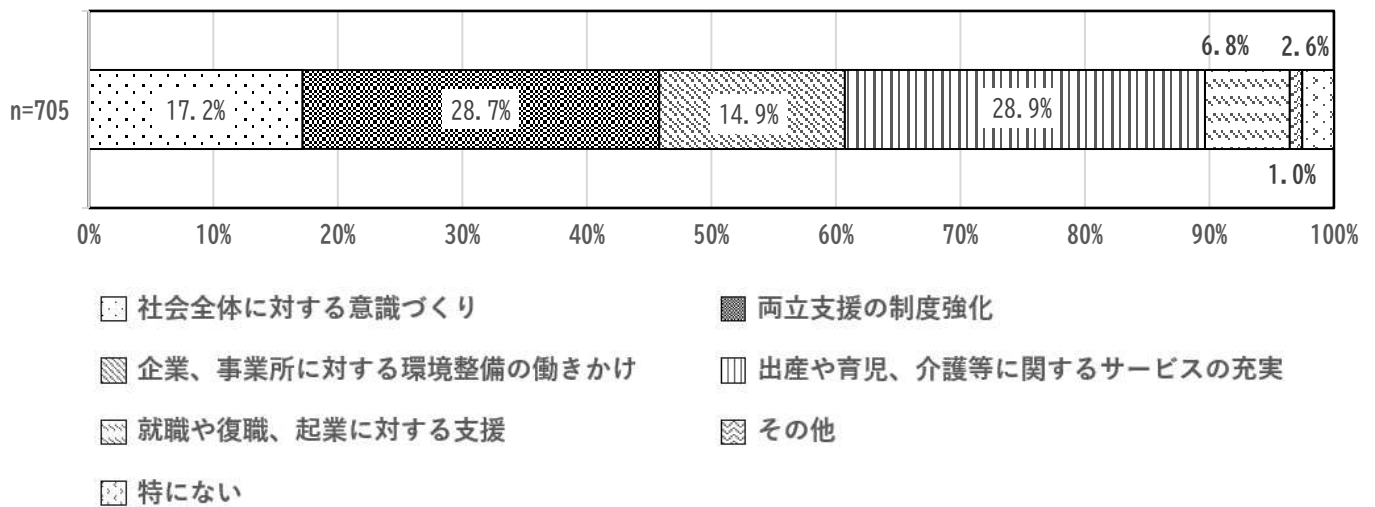


3-5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問9 仕事と生活を両立できるようにするための国や市役所等の公的な取り組みとして、あなたが最も重要だと思う選択肢を選んでください。

「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」の割合が最も高く、次いで「両立支援の制度強化」が高い。男女別で見ると、男女とも「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」が最も高く、次いで「両立支援の制度強化」が高い。

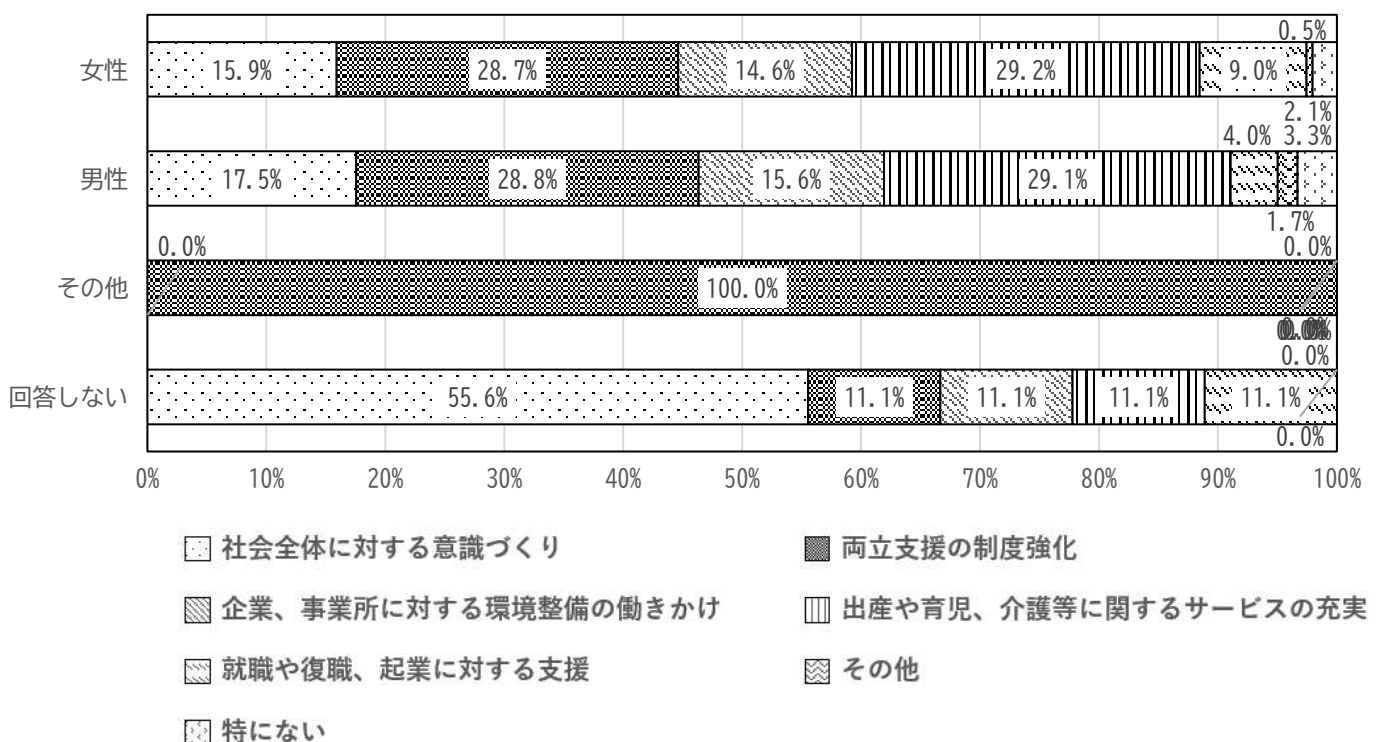
図 3-5-9



■属性別の特徴

F1.性別

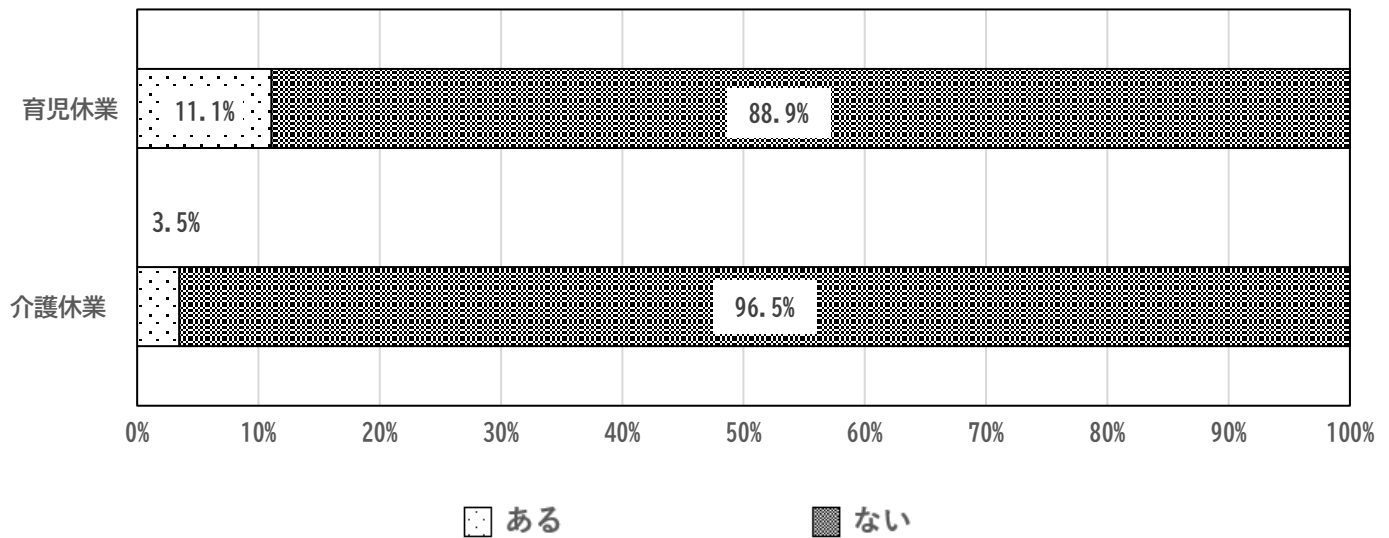
図. 3-4-9-1



問10 あなたは、今までに育児休業・介護休業を取ったことがありますか。

育児休業は11.1%、介護休業は3.5%の人が取ったことがある。

図 3-5-10



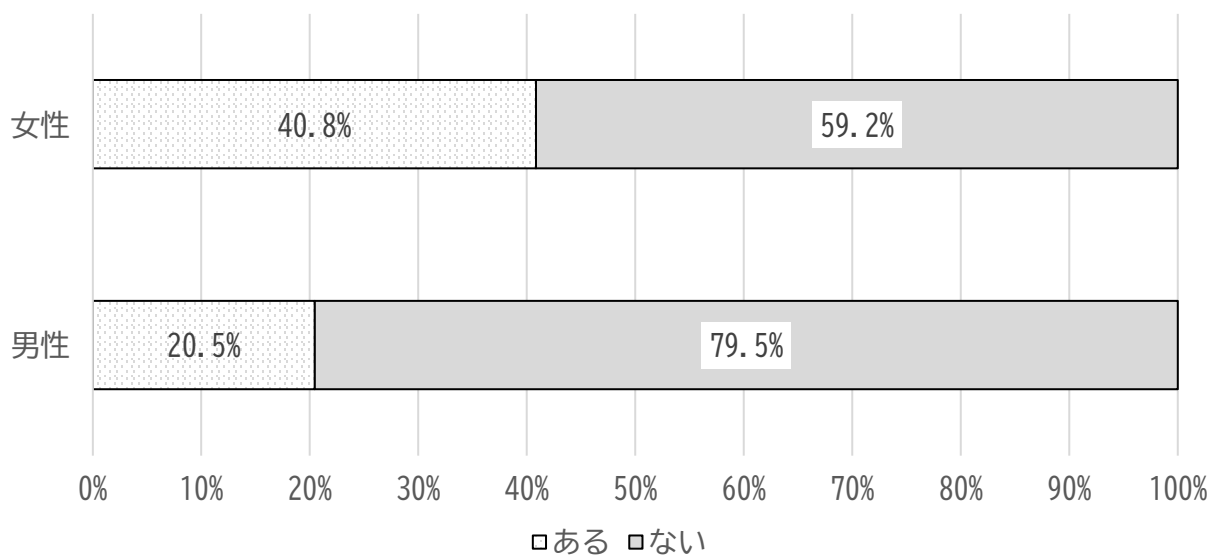
■属性別の特徴

①育児休業について

中学生以下の子どもがいる人の中では、女性が40.8%、男性が20.5%の割合で育児休業を取ったことがある、男女別でみると女性の方が多い。

F1.性別 × F5 で中学生以下の子どもがいる人

図. 3-5-10-1①

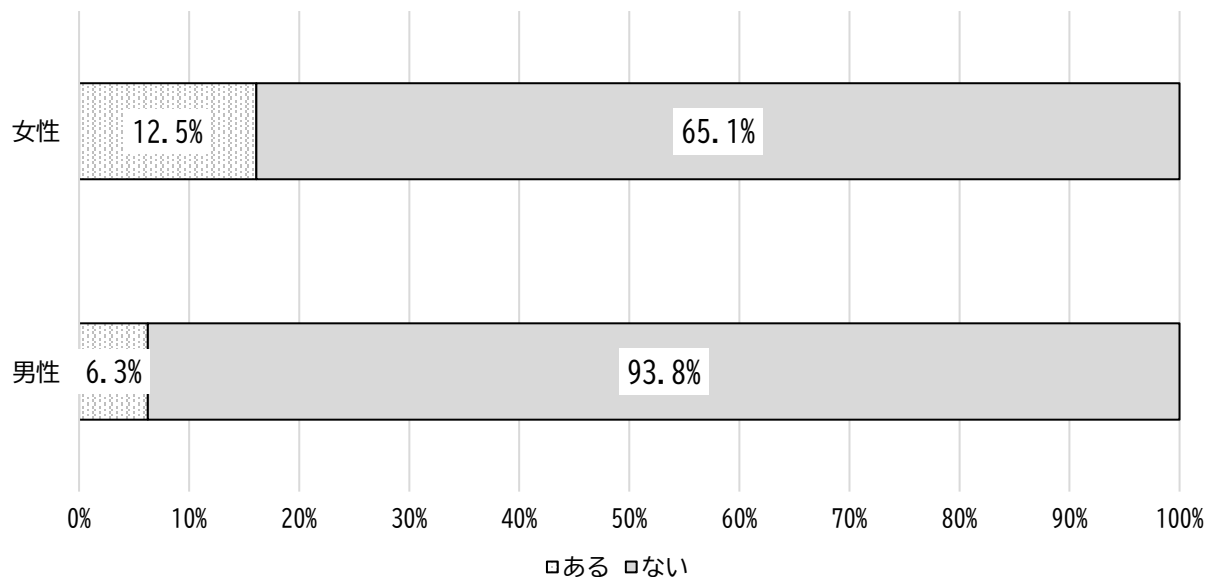


②介護休業について

介護の必要な家族がいる人の中では、女性が12.5%、男性が6.3%の割合で介護休業を取ったことがあり、男女別でみると女性の方が多い。

F1.性別× F6 で介護の必要な家族がいる人

図. 3-5-10-1②

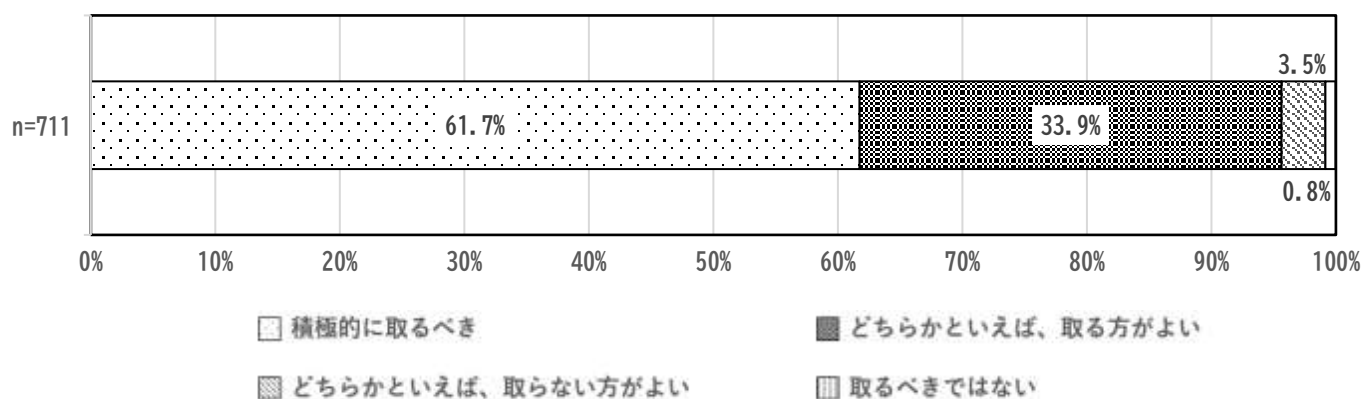


3-6 男性の育児や介護への参画について

問 11 あなたは、男性が育児や介護のために休業を取ることについてどう思いますか。

「積極的に取るべき」の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば、取る方がよい」が高い。男女別でみると、女性の方が「積極的にとるべき」が多く、年齢別では、20代が「積極的にとるべき」と回答した割合が最も多い。

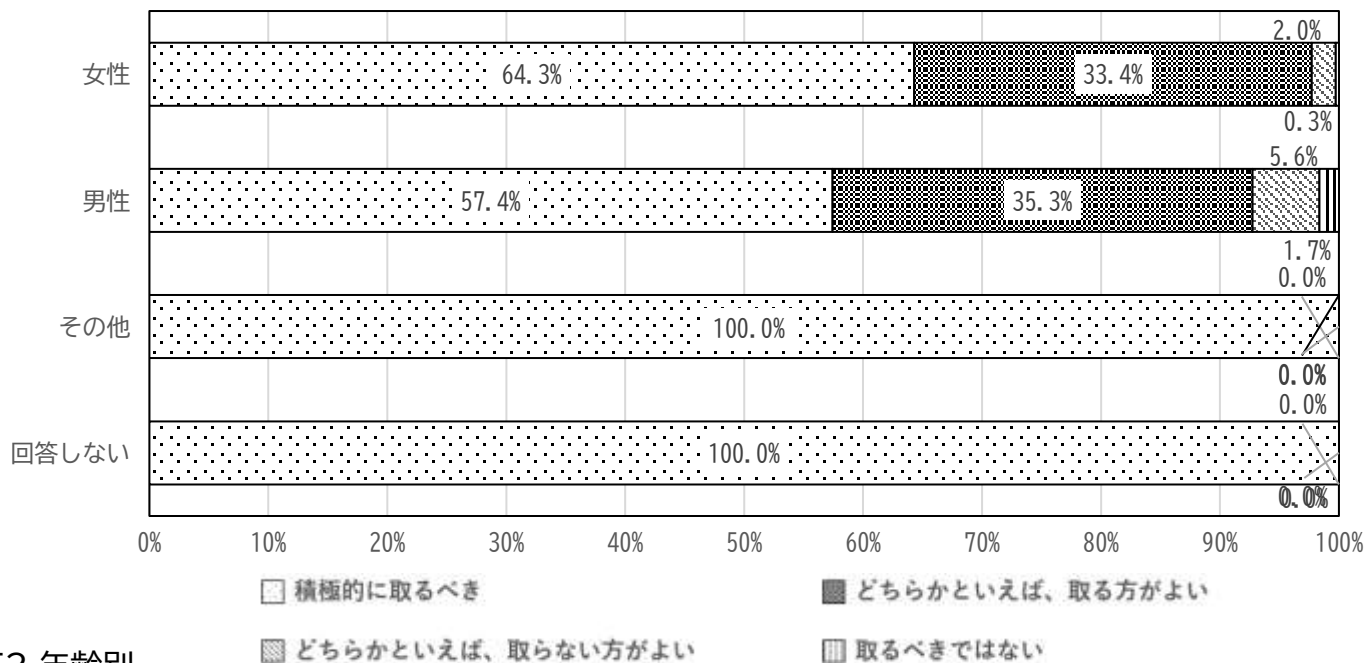
図 3-6-11



■属性別の特徴

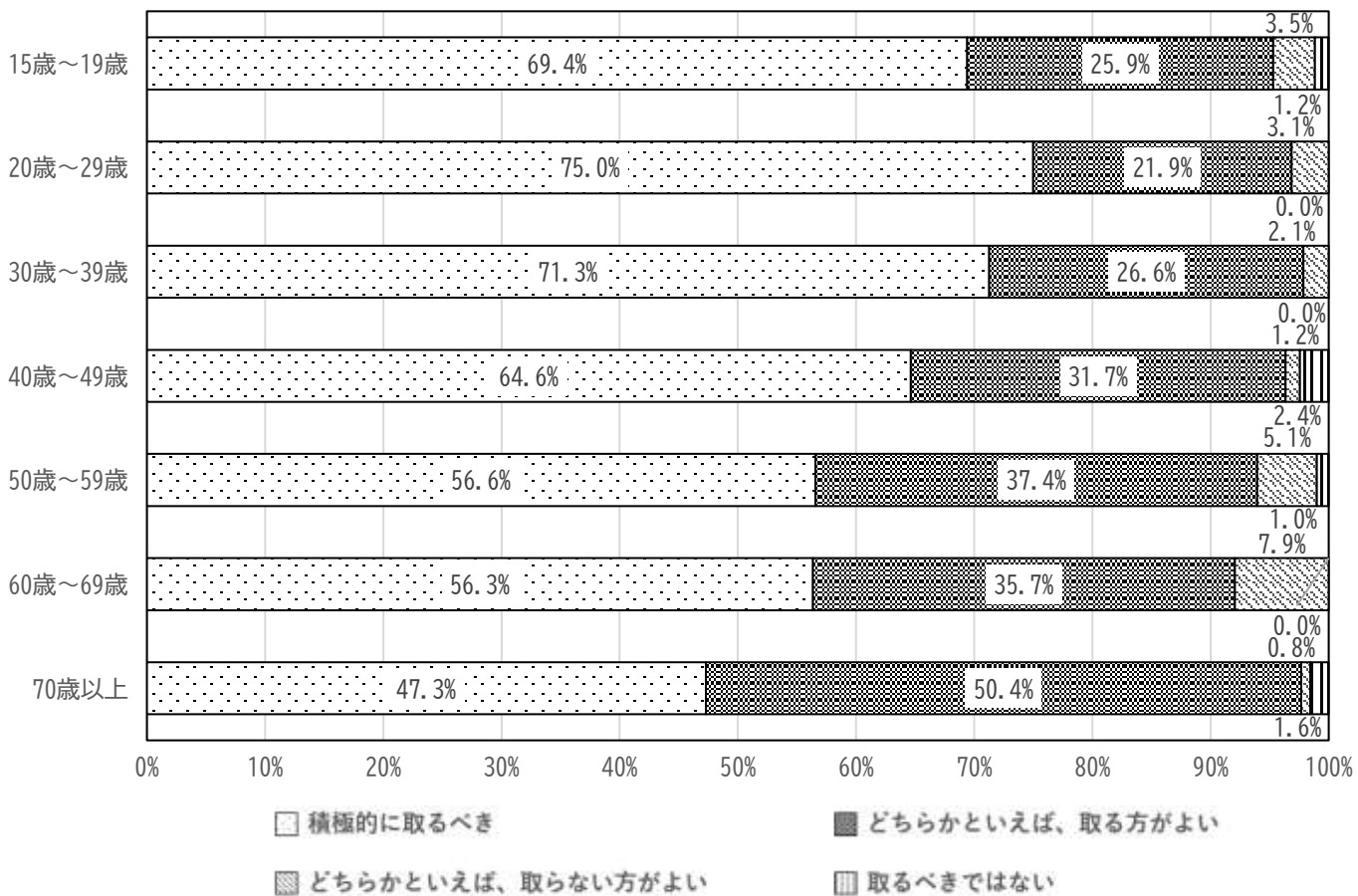
F1.性別

図. 3-6-11-1



F2.年齢別

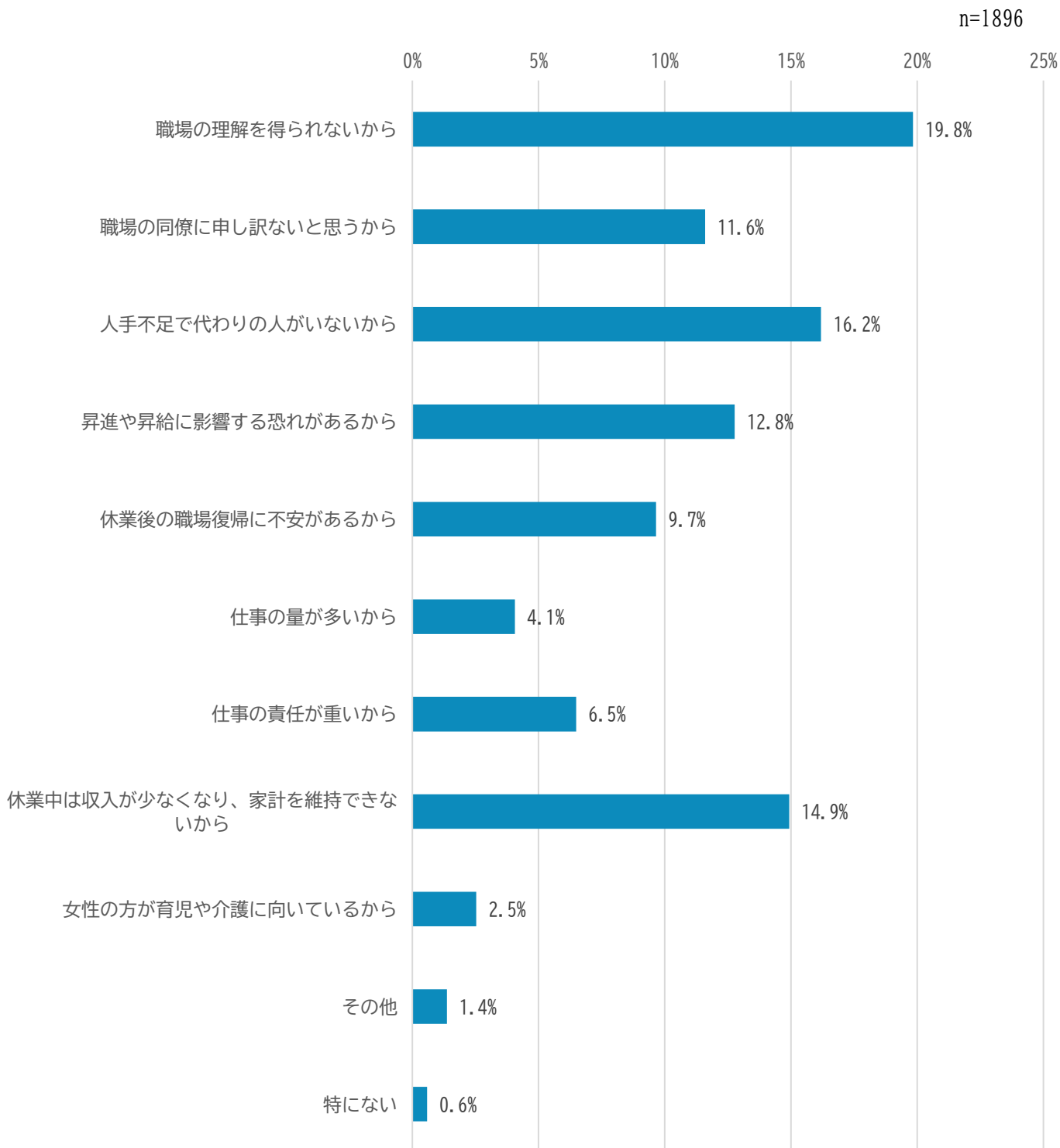
図. 3-6-11-2



問 12 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないことや、期間が短いのが現状です。あなたが、特に大きな要因だと思うものを選んでください。(3つまで選択可)

「職場の理解を得られないから」が最も割合が高く、次いで「人手不足で代替りの人がいないから」が高い。男女別でみると、男女とも「職場の理解を得られないから」が最も高く、次いで「人手不足で代替りの人がいないから」が高い。

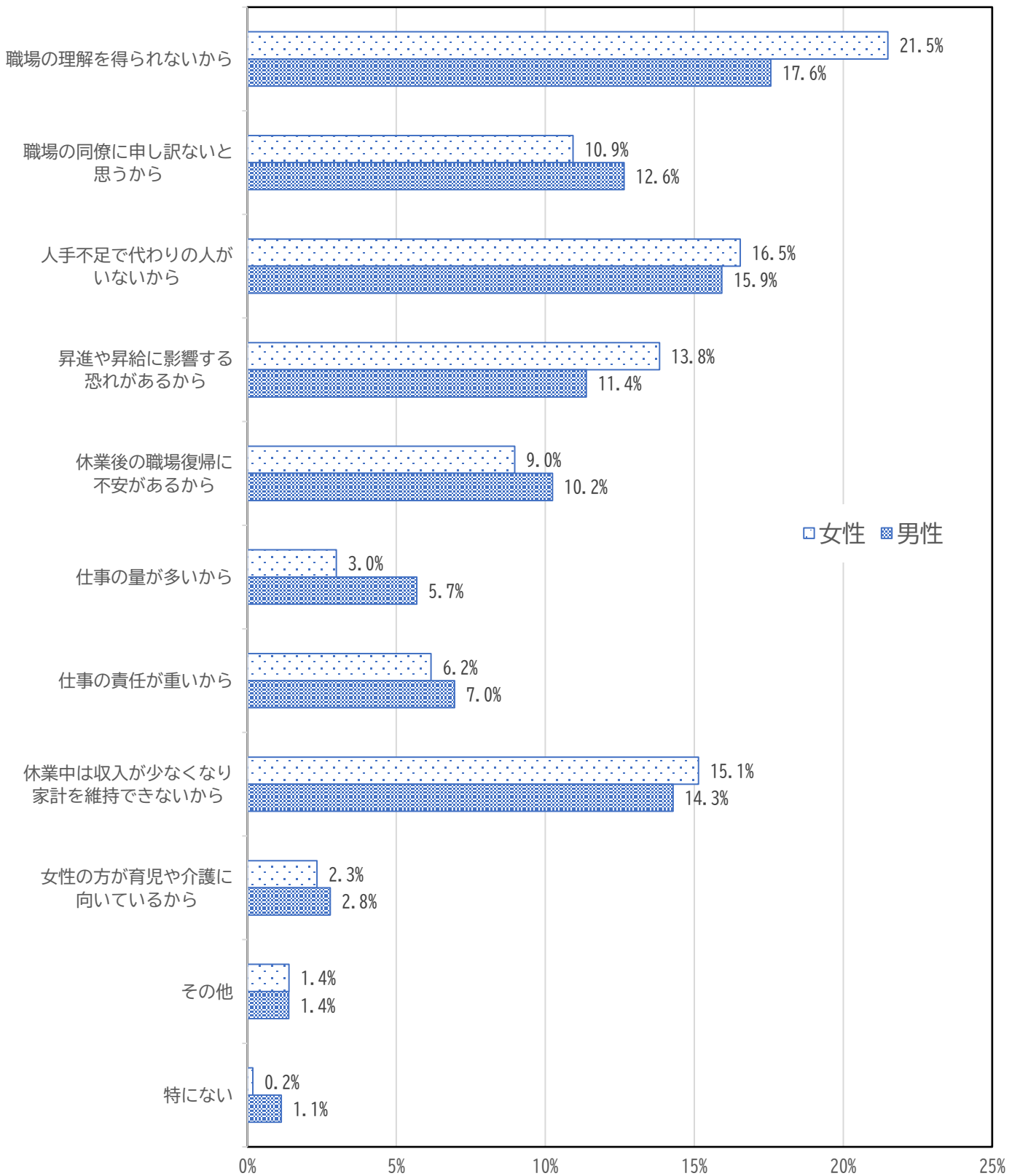
図 3-6-12



■属性別の特徴

F1.性別

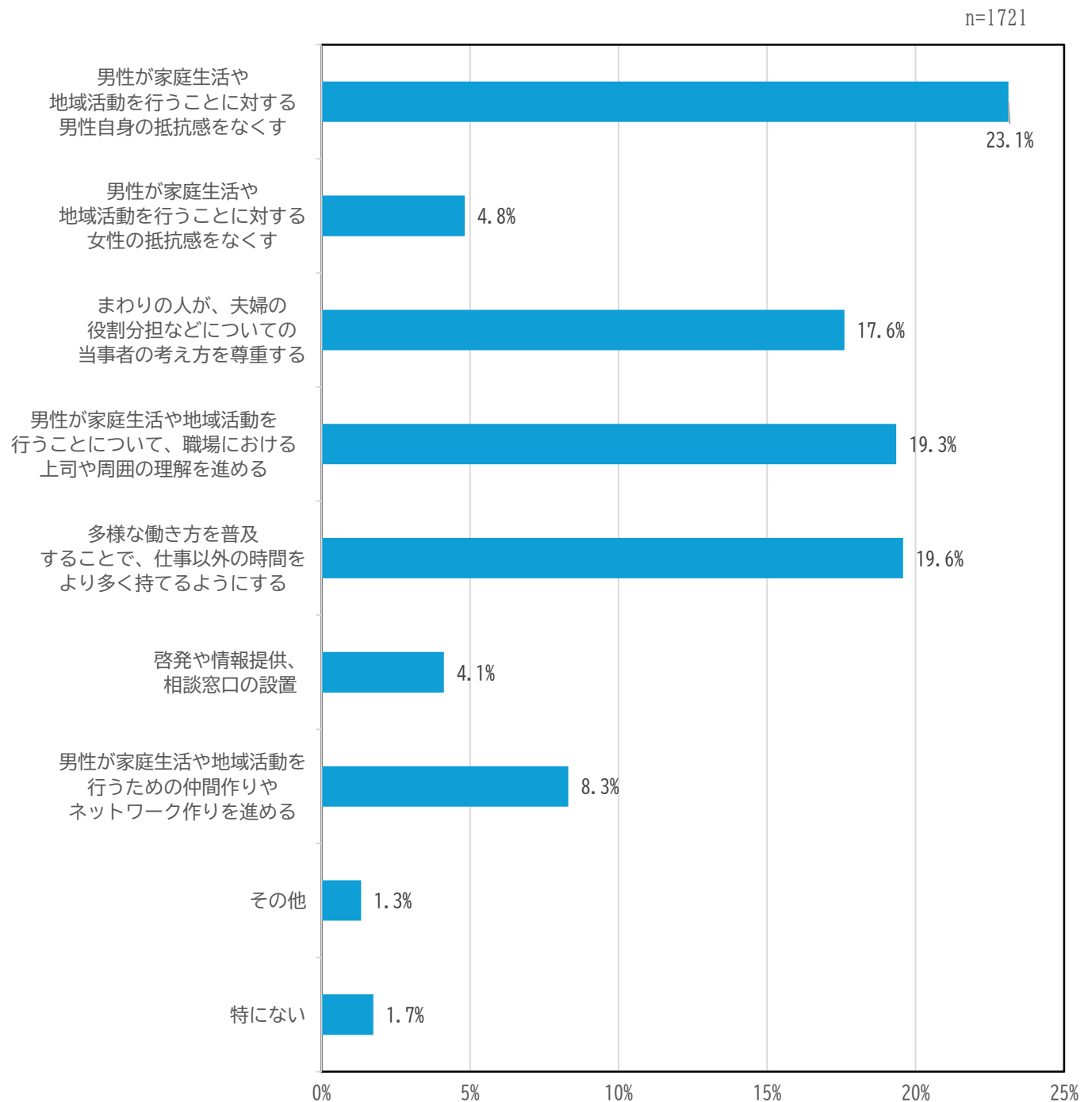
図. 3-6-12-1



問 13 あなたは、今後、男性が家事・育児・介護などの家庭生活や、町内会・自治会や PTA 等の地域活動をより積極的に行っていくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(3つまで選択可)

「男性が家庭生活や地域活動を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も割合が高く、次いで「多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が高い。

図 3-6-13

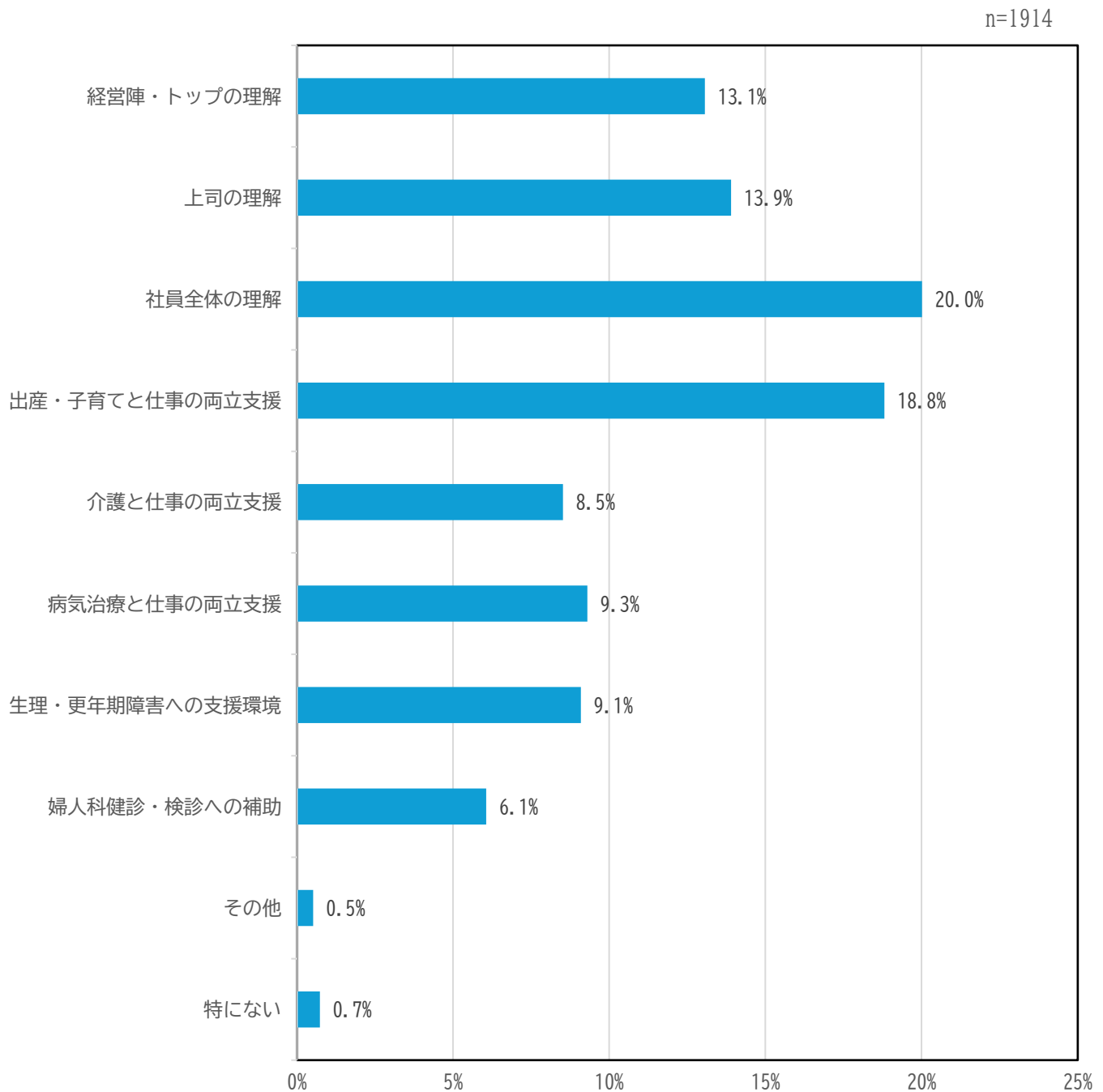


3-7 健康課題について

問 14 女性の社会進出等の観点からも、女性の健康課題に対する取り組みが重要視されています。女性の健康課題について、職場でどのような配慮があると働きやすいと思いますか。特に重要だと思う選択肢を選んでください。（3つまで選択可）

「社員全体の理解」が最も割合が高く、次いで「出産・子育てと仕事の両立支援」が高い。

図 3-7-14

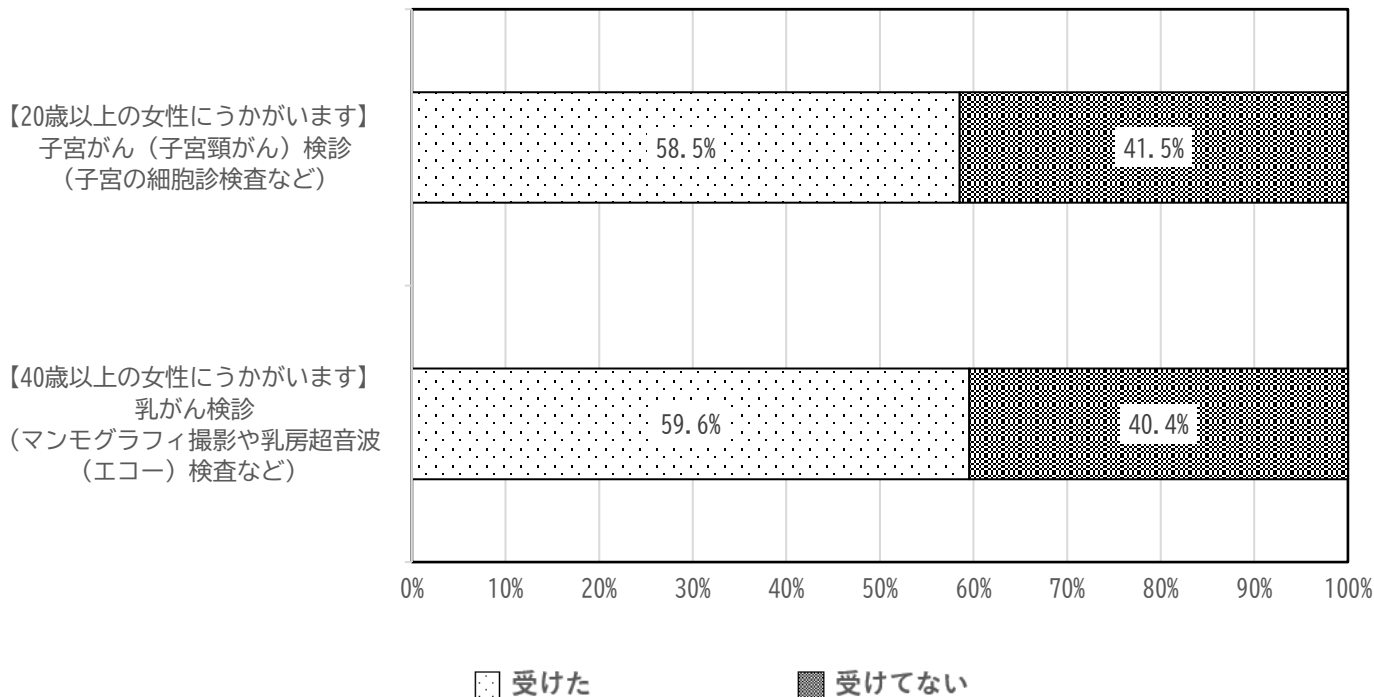


問 15 あなたは、過去2年間に以下の2つのがん検診※を受けましたか。

※健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものを含みます。

子宮がん検診は 58.5%、乳がん検診は 59.6%が受診している。

図 3-7-15



■属性別の特徴

子宮がん (子宮頸がん) 検診は 30 代~60 代の受診率が高く、乳がん検診は各層で 50% 以上の受診率だった。

F2.年齢別

図. 3-7-15-2①

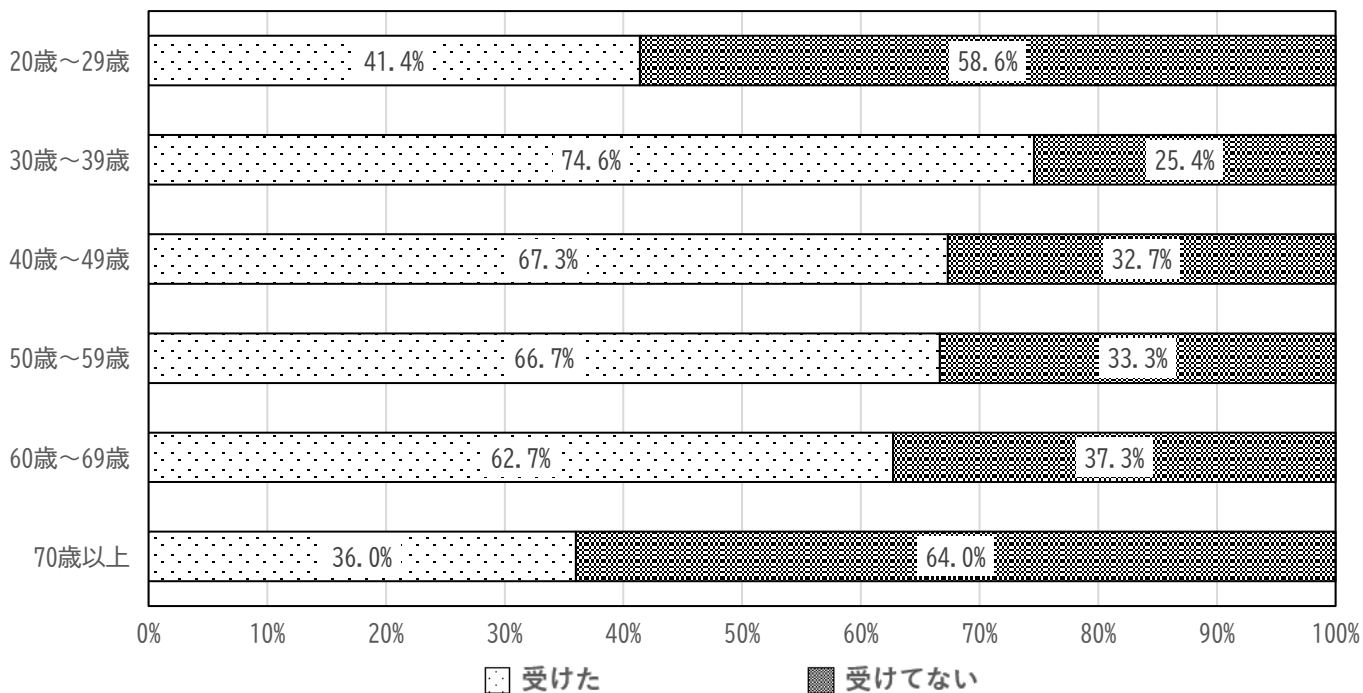
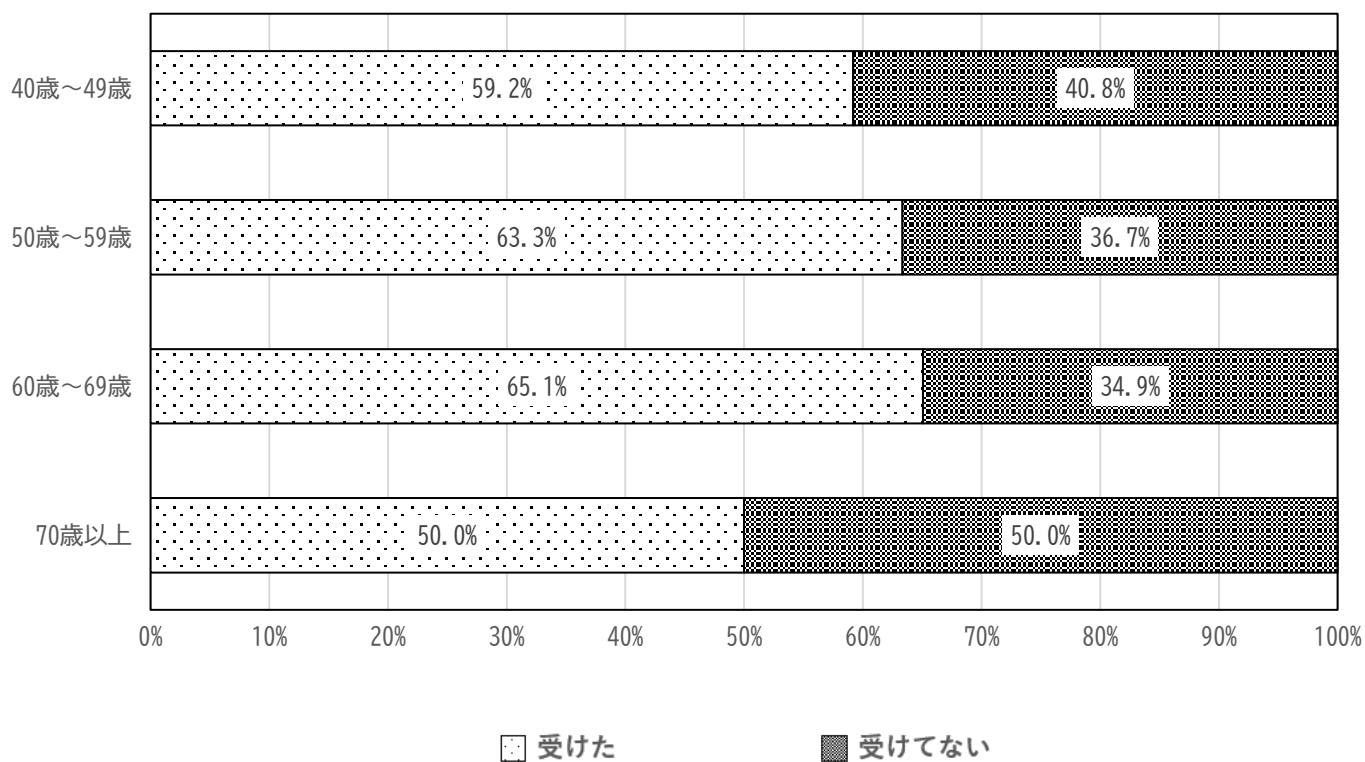


図. 3-7-15-2②

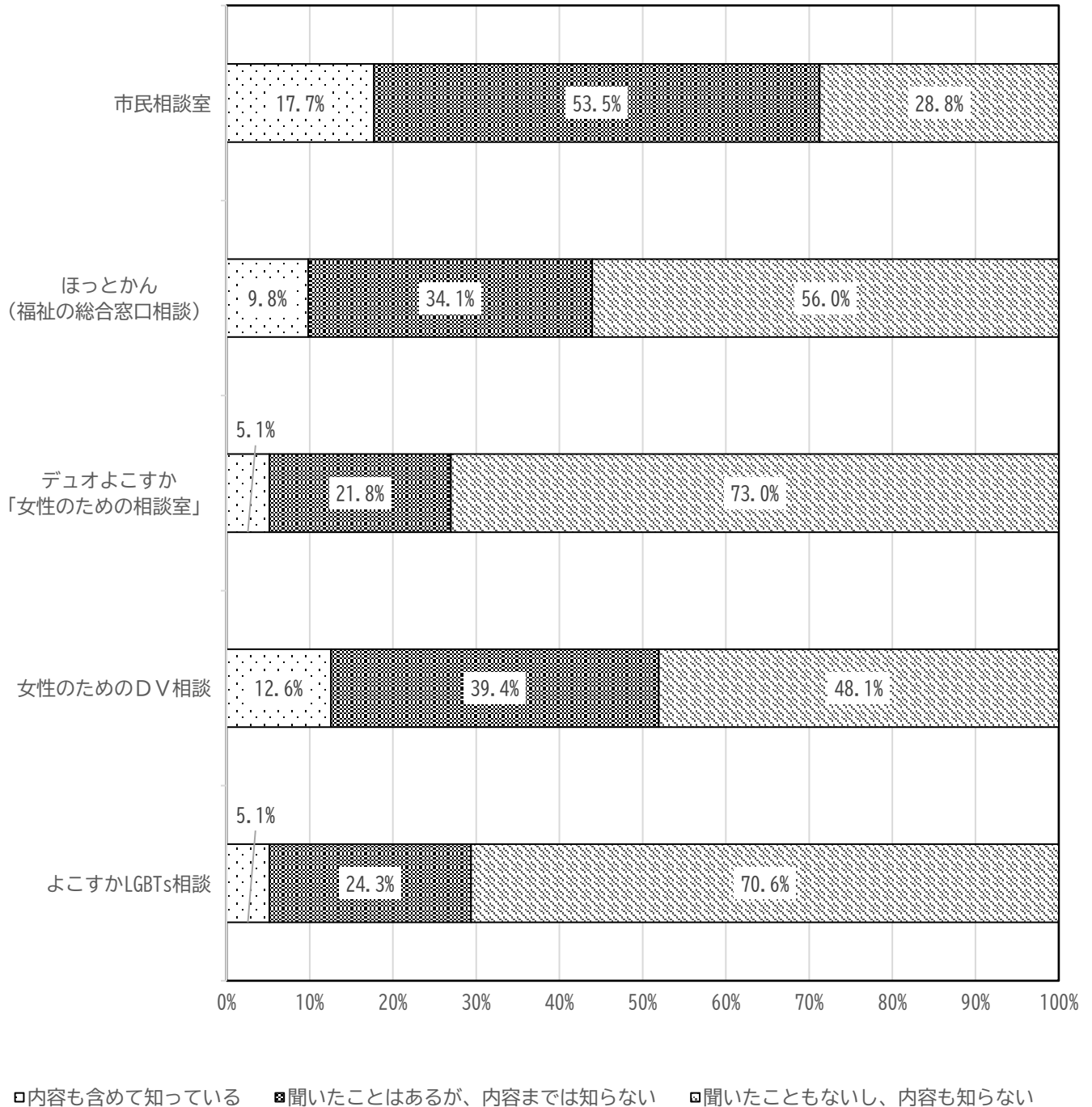


3-8 市の相談窓口について

問16 あなたは、次の市の相談事業を知っていますか。

「市民相談室」は認知度（「内容も含めて知っている」+「聞いたことはあるが、内容までは知らない」）が高い一方、「デュオよこすか」、「よこすかLGBTs相談」は認知度が低い。

図 3-8-16



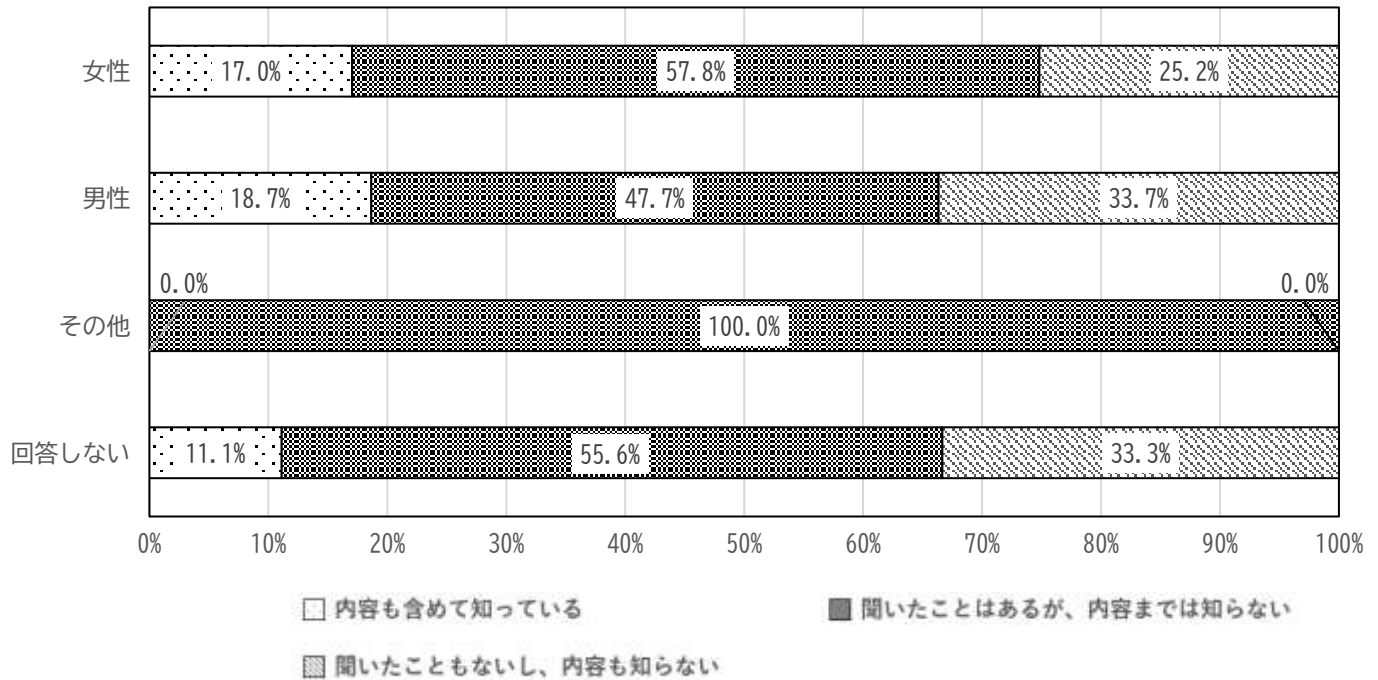
■属性別の特徴

①市民相談室について

男女別でみると、女性の方が認知度が高い。

F1.性別

図.3-8-16-1①

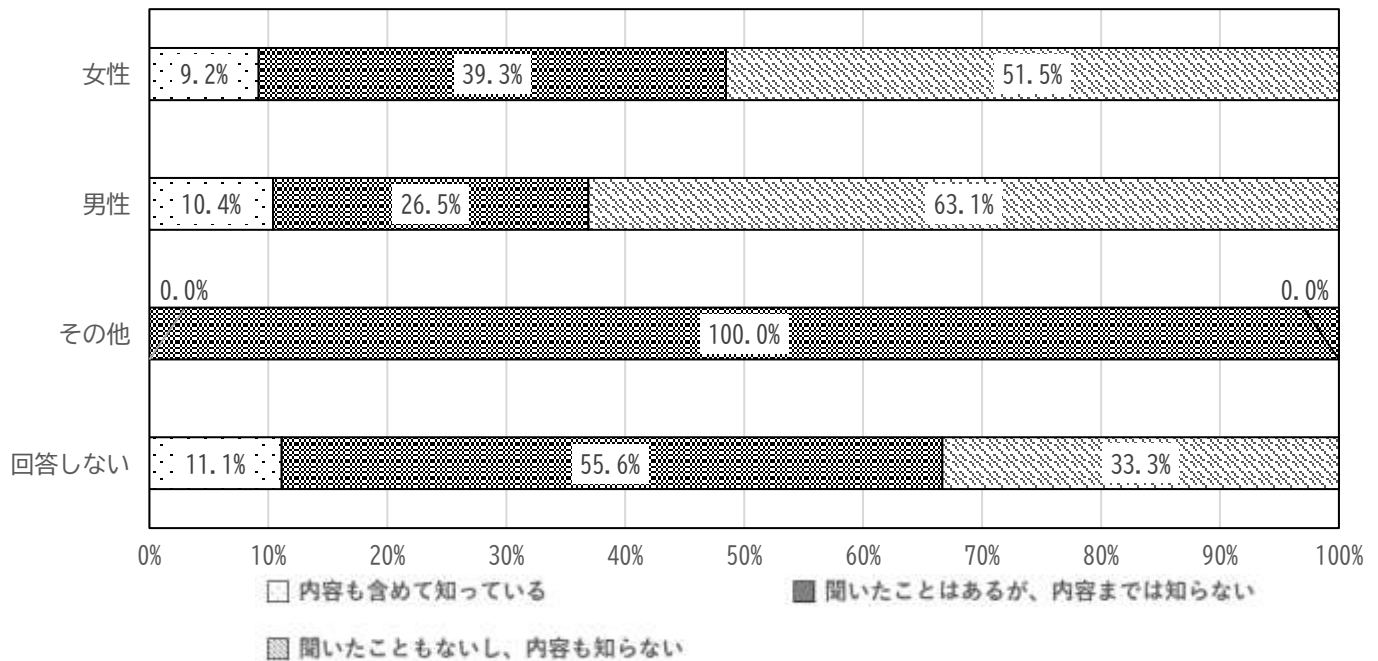


②ほっとかん(福祉の総合窓口相談)

男女別でみると、女性の方が認知度が高く、大きな差が見られる。

F1.性別

図.3-8-16-1②

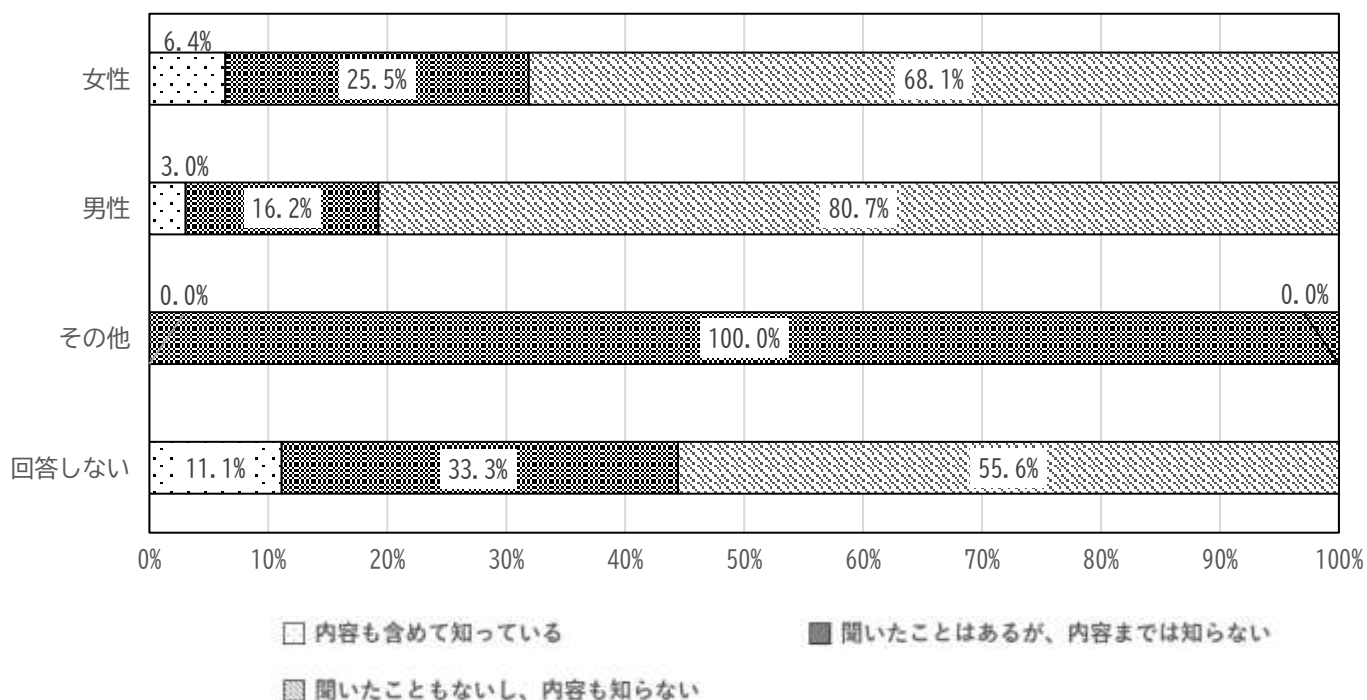


③デュオよこすか「女性のための相談室」

男女別で見ると、女性の方が認知度が高く、大きな差が見られる。年齢別で見ると、50代以上の女性の認知度が高い。

F1.性別

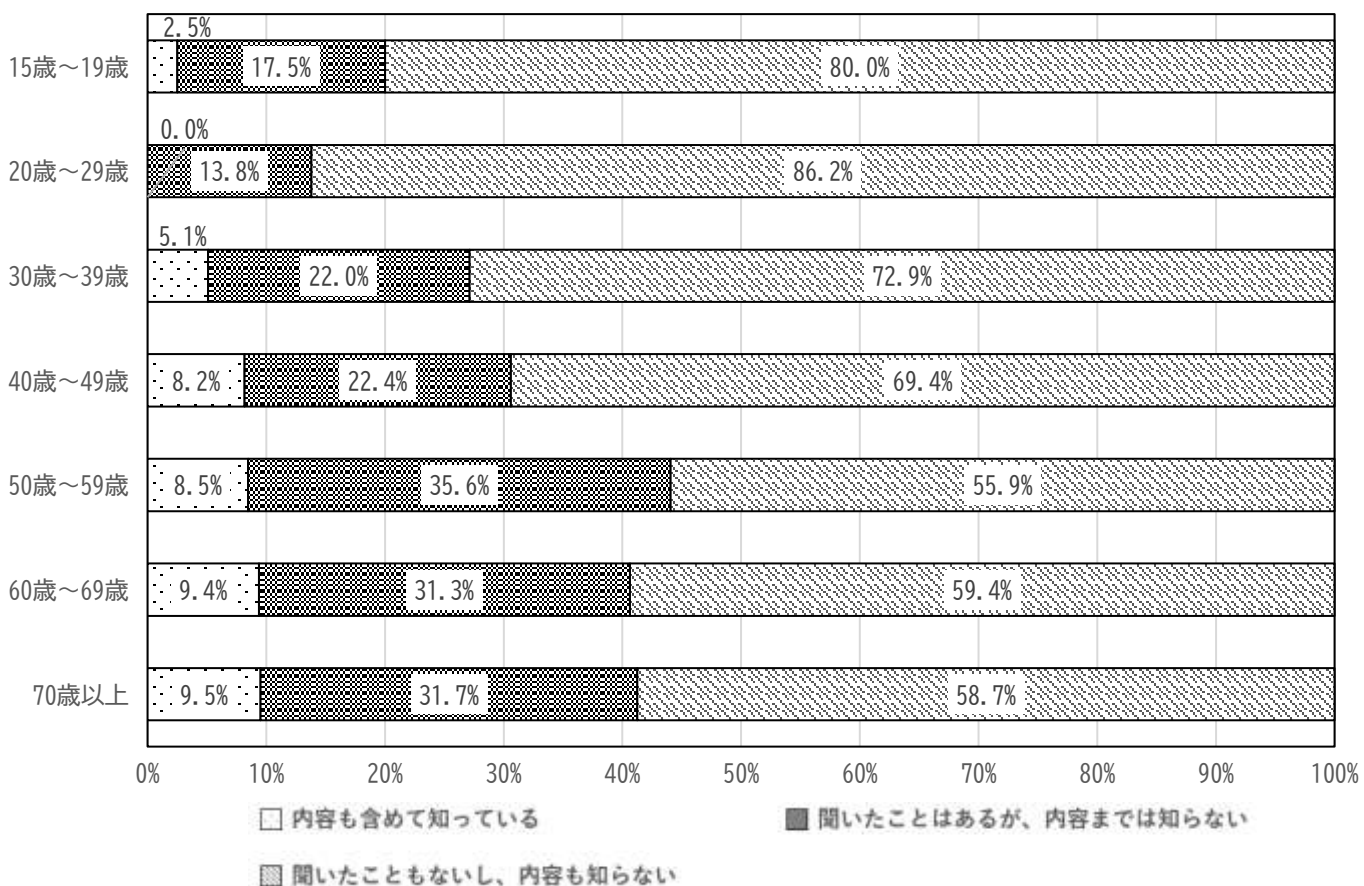
図. 3-8-16-1③



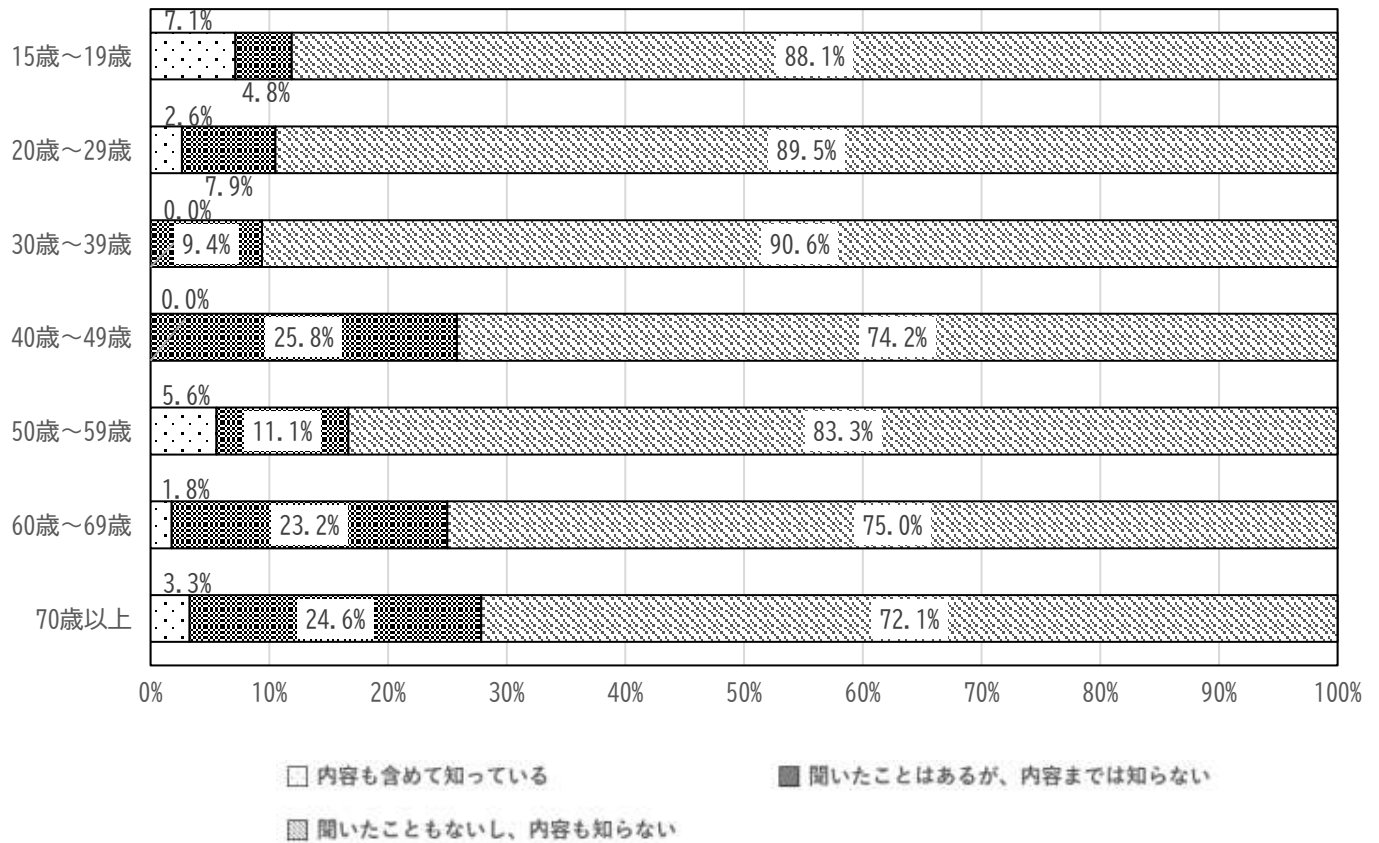
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-8-16-1×2③

【女性】



【男性】

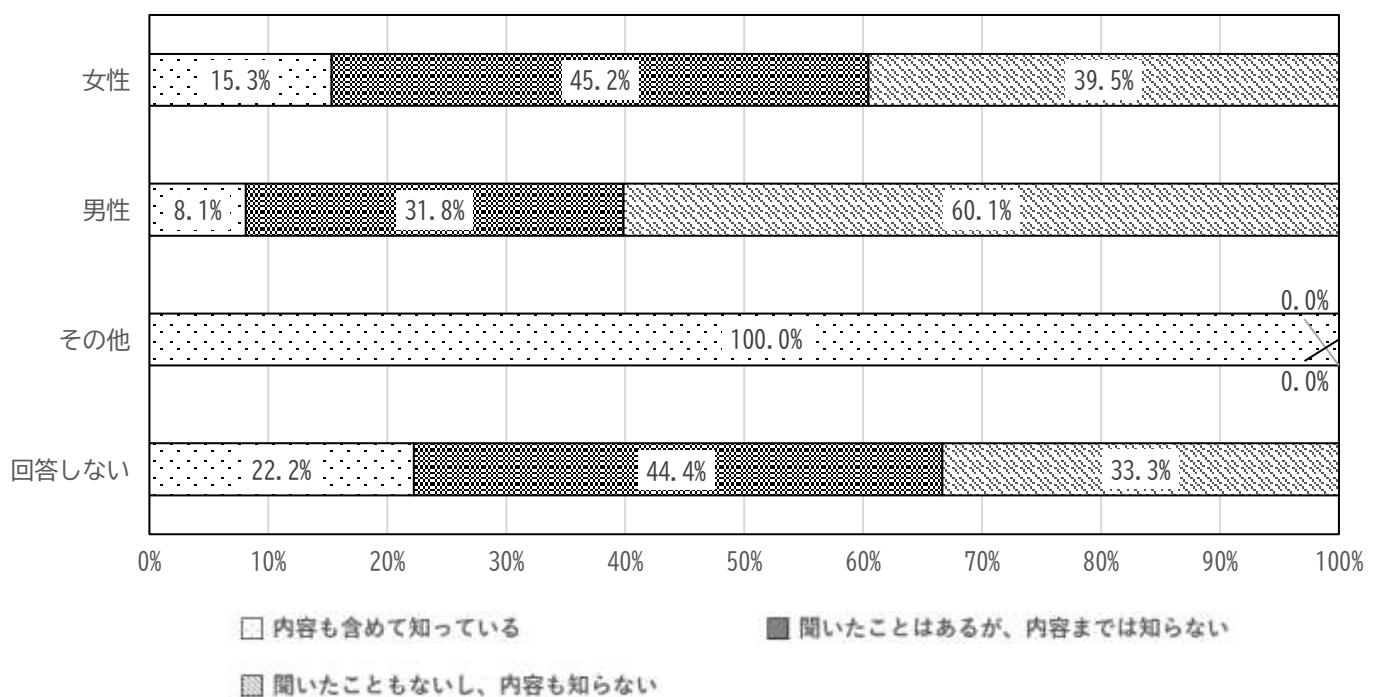


④女性のためのDV相談

男女別でみると、女性の方が認知度が高く、大きな差が見られる。

F1.性別

図. 3-8-16-1④

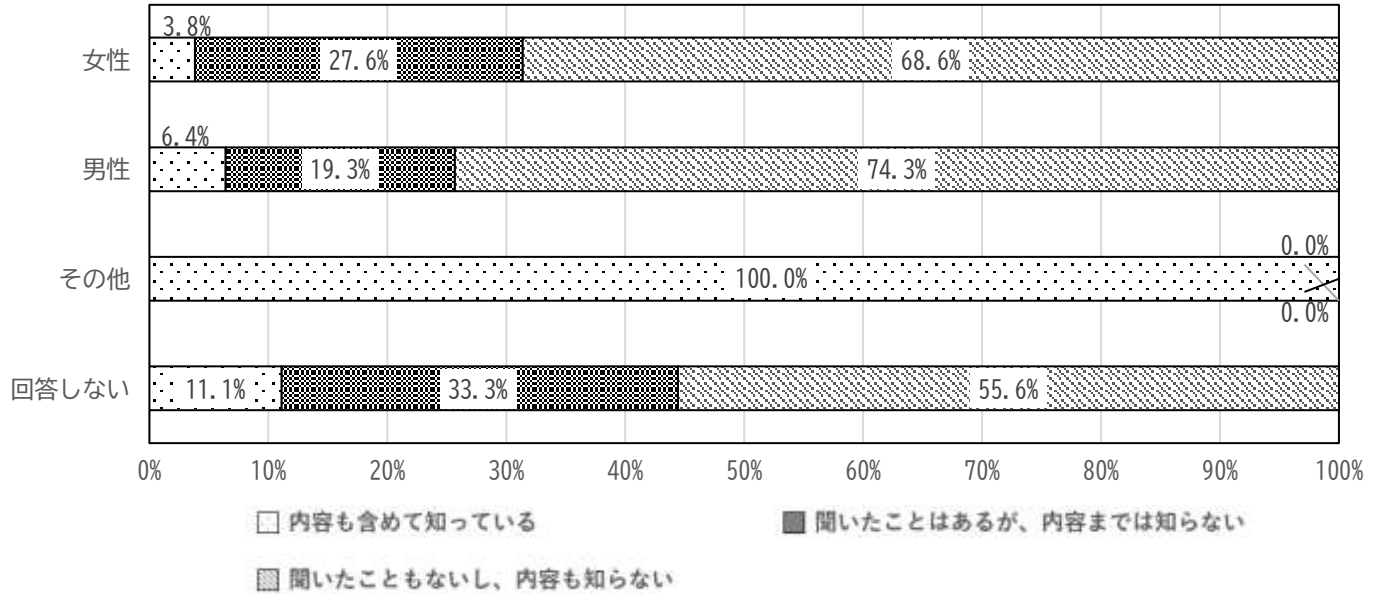


⑤よこすかLGBTs相談

男女別で見ると、女性の方が認知度が高い。年齢別で見ると、50代以上の女性の認知度が高い。

F1.性別

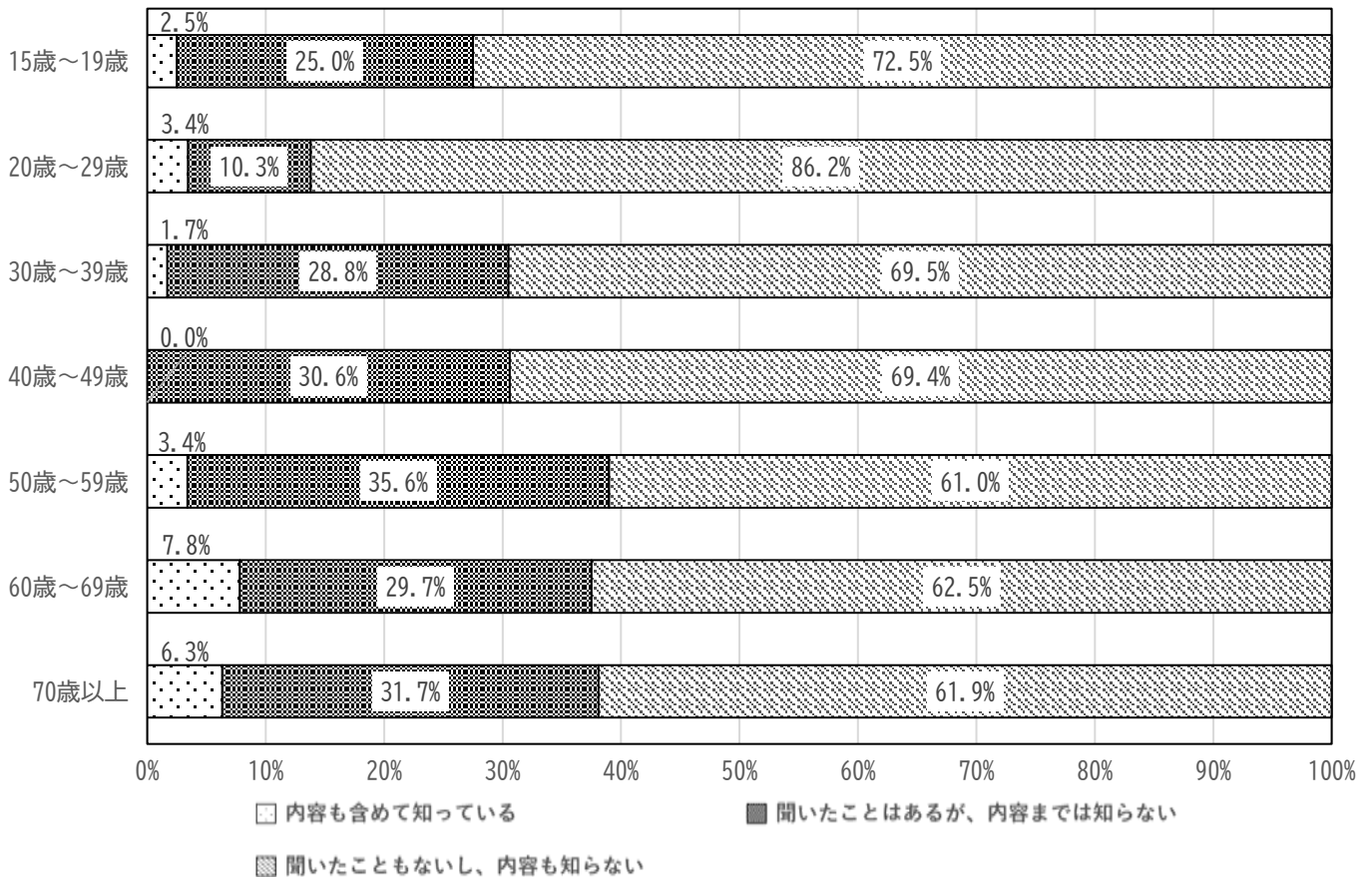
図. 3-8-16-1⑤



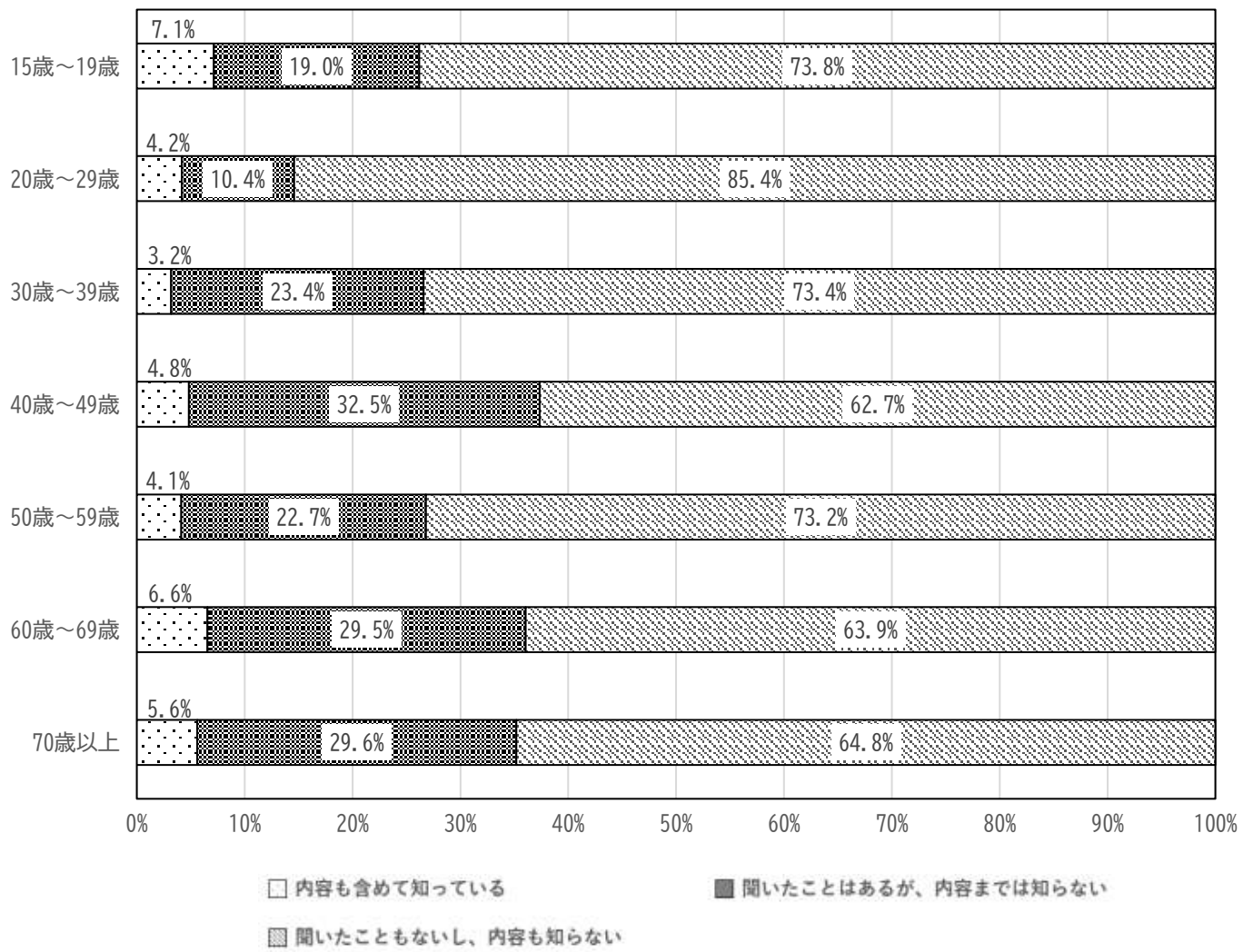
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-8-16-1×2⑤

【女性】



【男性】

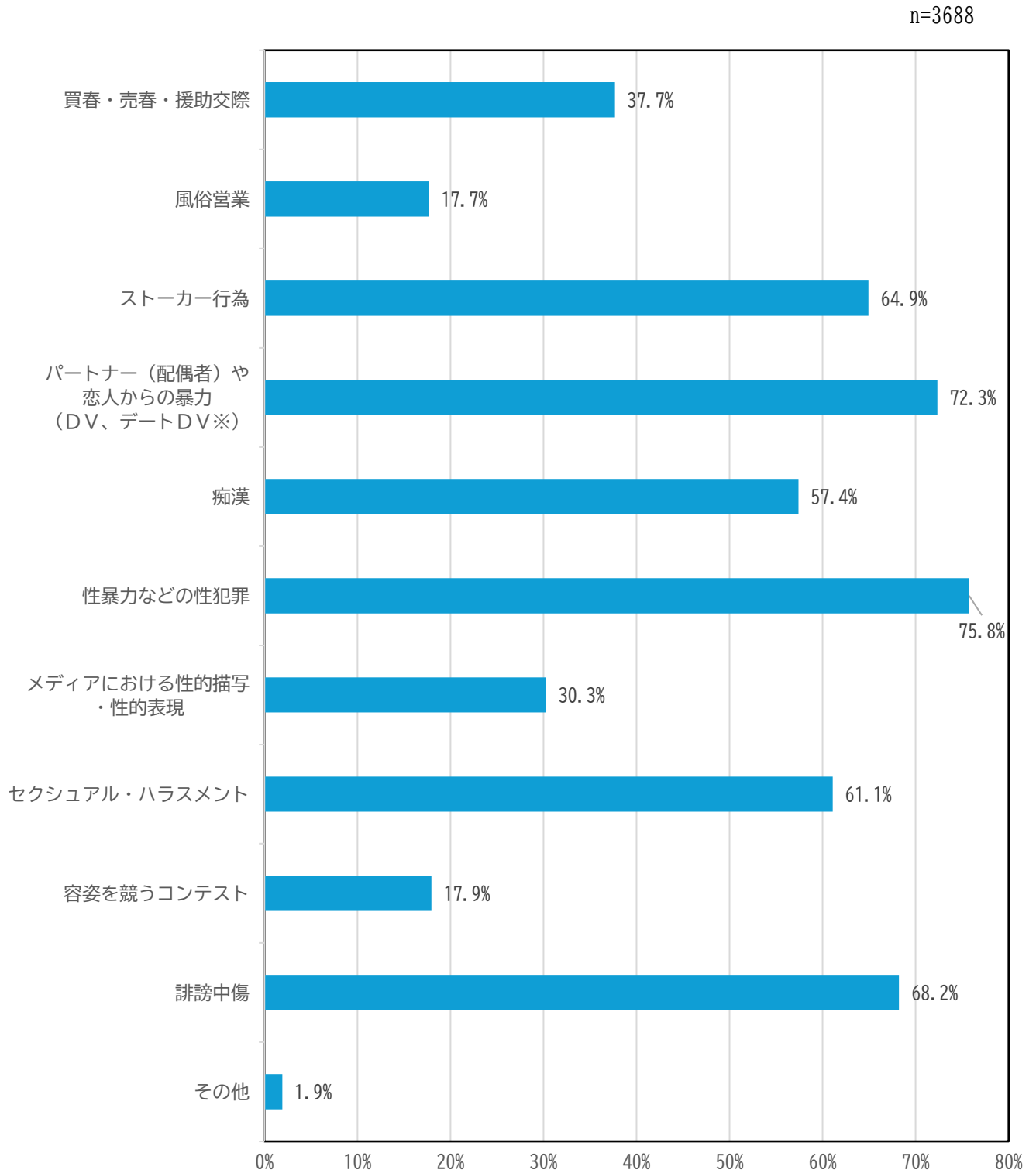


3-9 性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント等）について

問17 「人権が侵害されている」とあなたが感じるのはどのような場合ですか。あてはまる選択肢を選んでください。（いくつでも選択可）

「性暴力などの性犯罪」が最も割合が高く、次いで「パートナー（配偶者）や恋人からの暴力（DV、デートDV）」が高い。

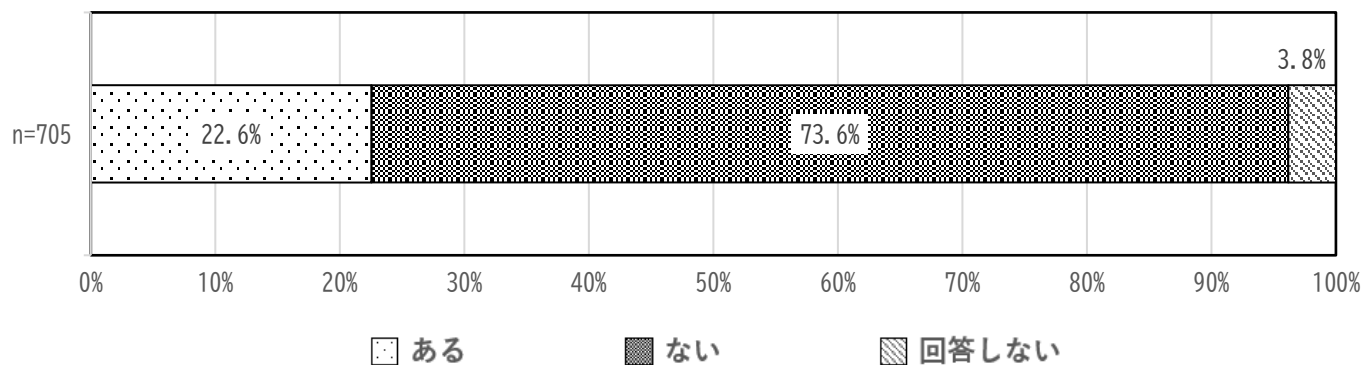
図 3-9-17



問 18 あなたは、職場や学校、地域などにおいてセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。

「受けたことがある人」は22.6%だった。男女別でみると、女性の方が「受けたことがある人」が多く、大きな差が見られる。

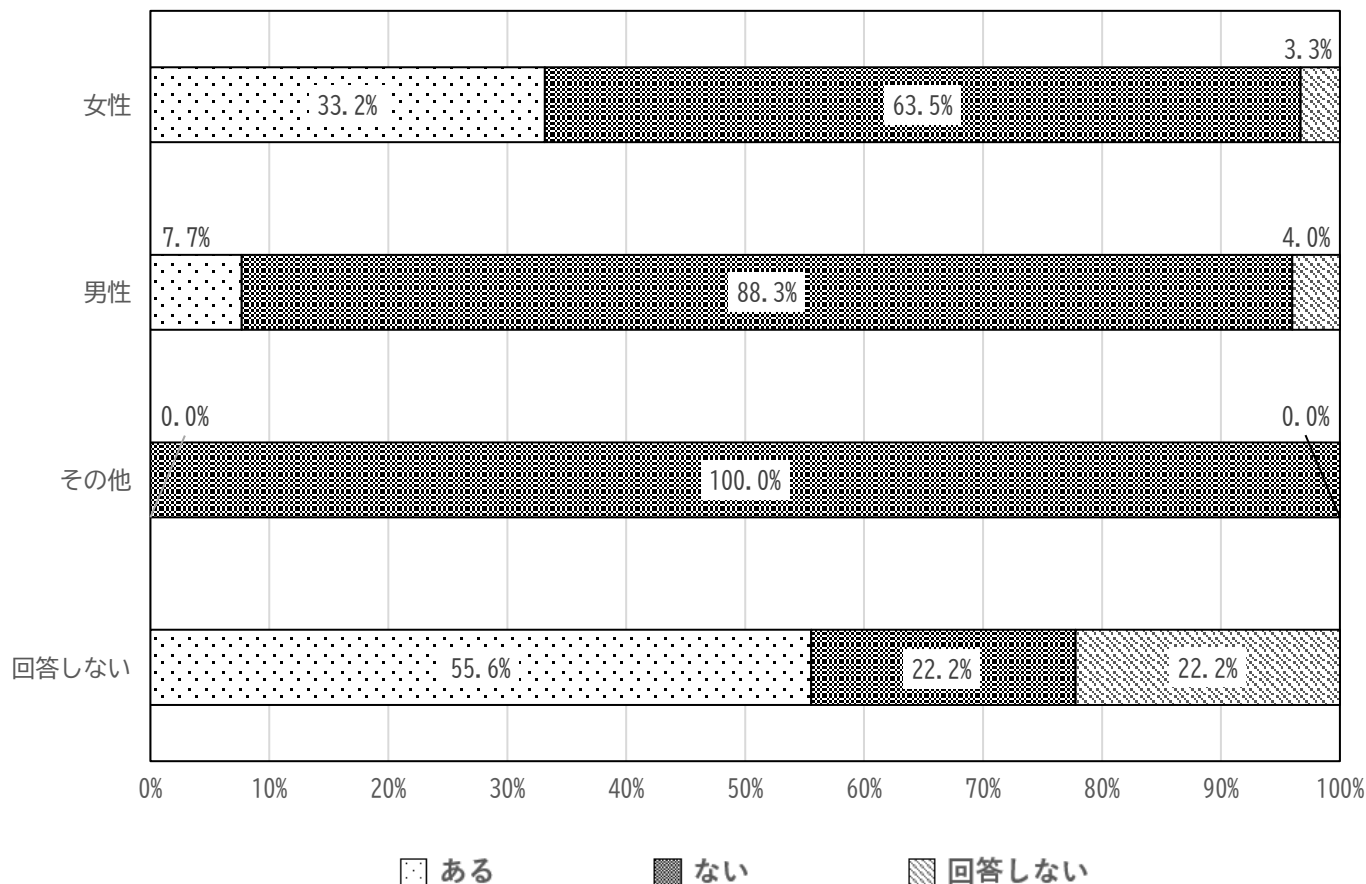
図 3-9-18



■属性別の特徴

F1.性別

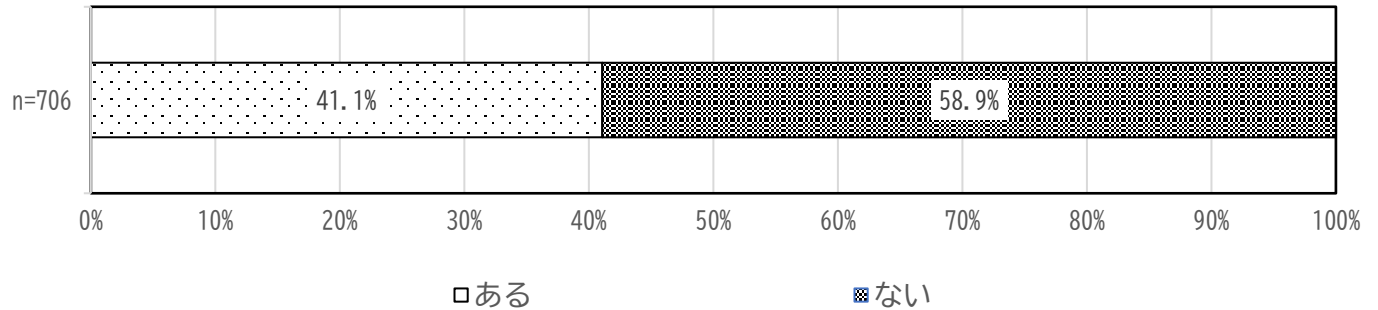
図. 3-9-18-1



問 19 あなたは、職場や学校、地域など、あなたの身の回りにおいてセクシュアル・ハラスメントの場面を見たり、被害を聞いたりしたことがありますか。

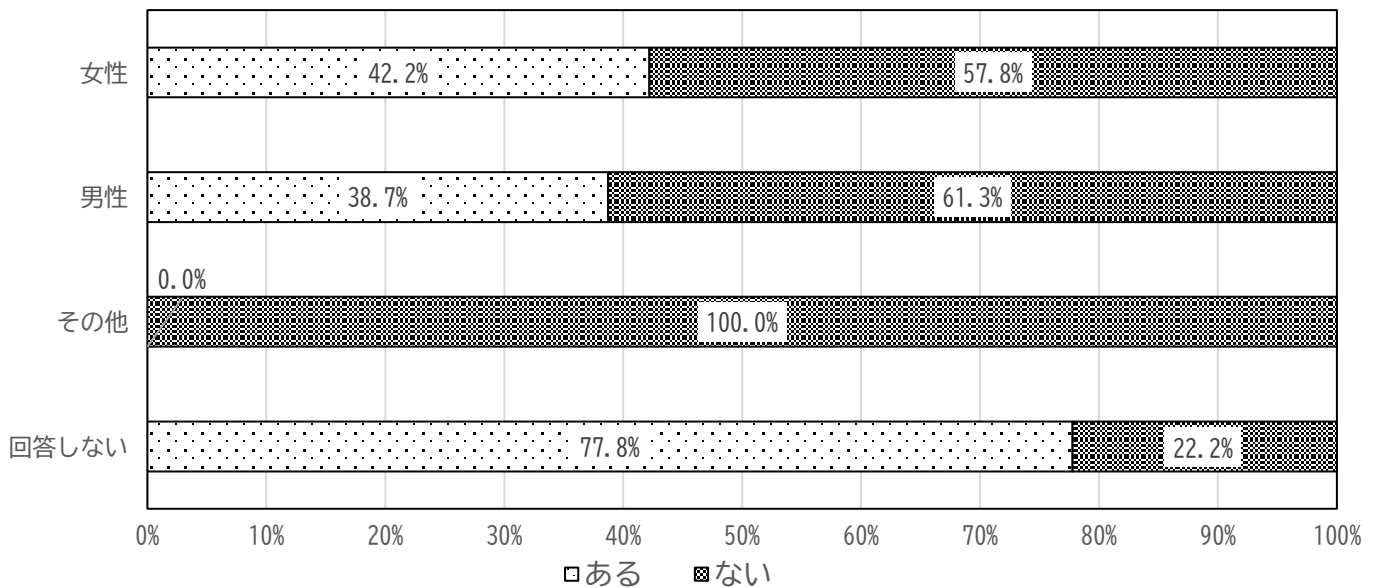
「見聞きしたことがある人」は41.1%であった。男女別でみると、大きな差は見られない。

図 3-9-19



F1.性別

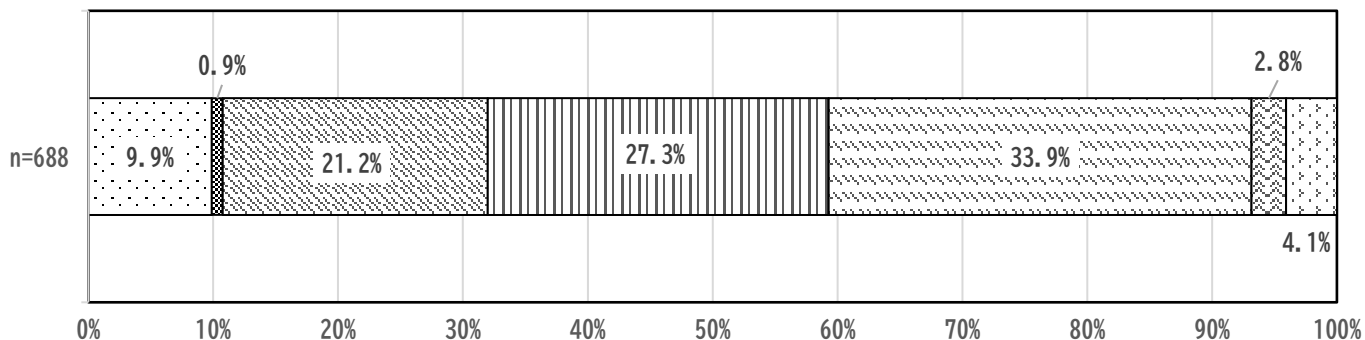
図. 3-9-18-1



問 20 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためにはどのような取り組みが最も必要だと思いますか。

「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会意識づくり」の割合が最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」が高い。

図 3-9-20

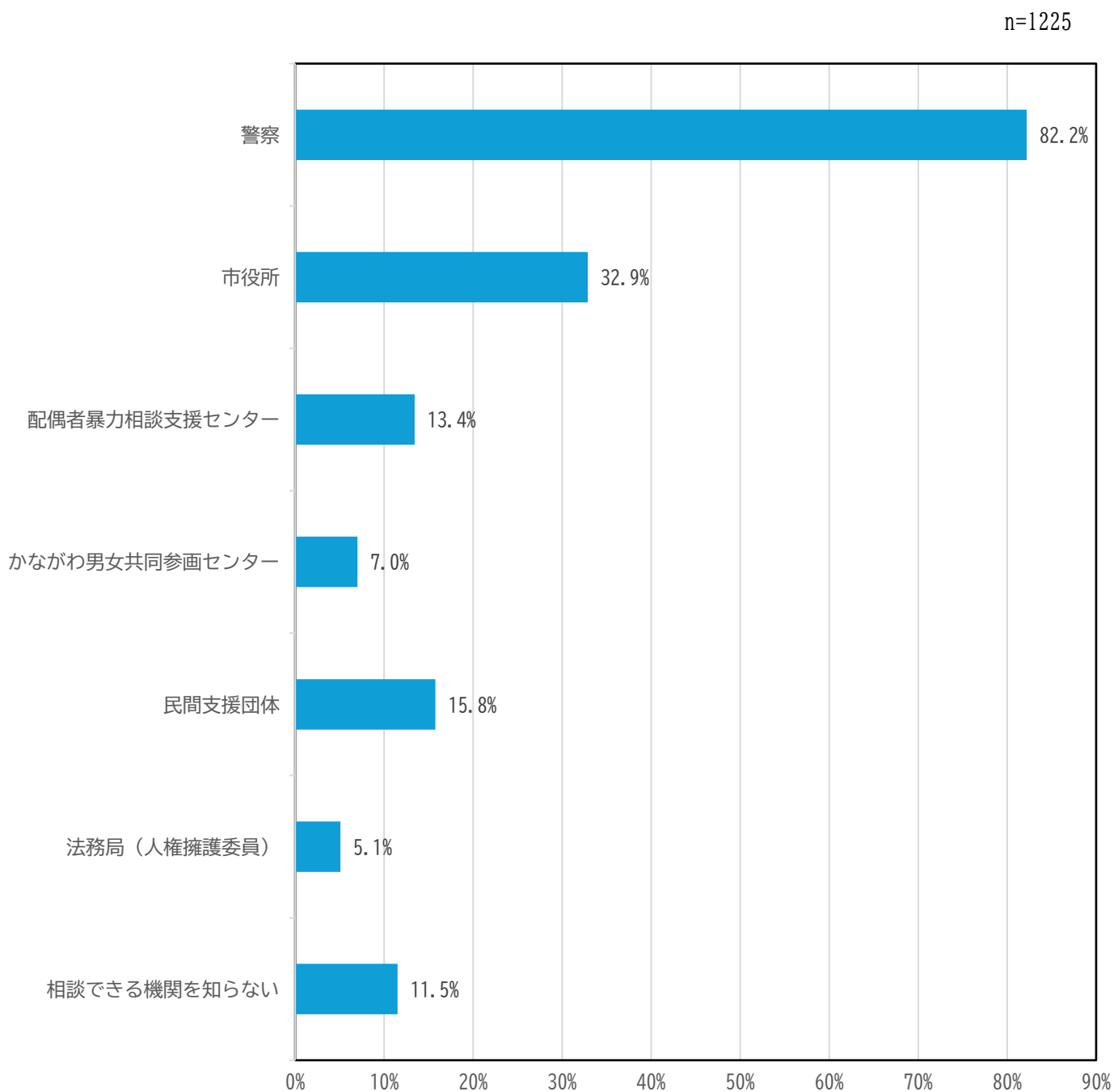


- 公的機関の相談や指導の強化
- 民間ボランティア団体等のチェックや相談
- 職場内でのチェックや相談
- セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化
- セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会意識づくり
- その他
- 特にない

問 21 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力(DV)について、相談できる機関としてあなたが知っている選択肢を選んでください。(いくつでも選択可)

「警察」の割合が最も高く、次いで「市役所」が高い。

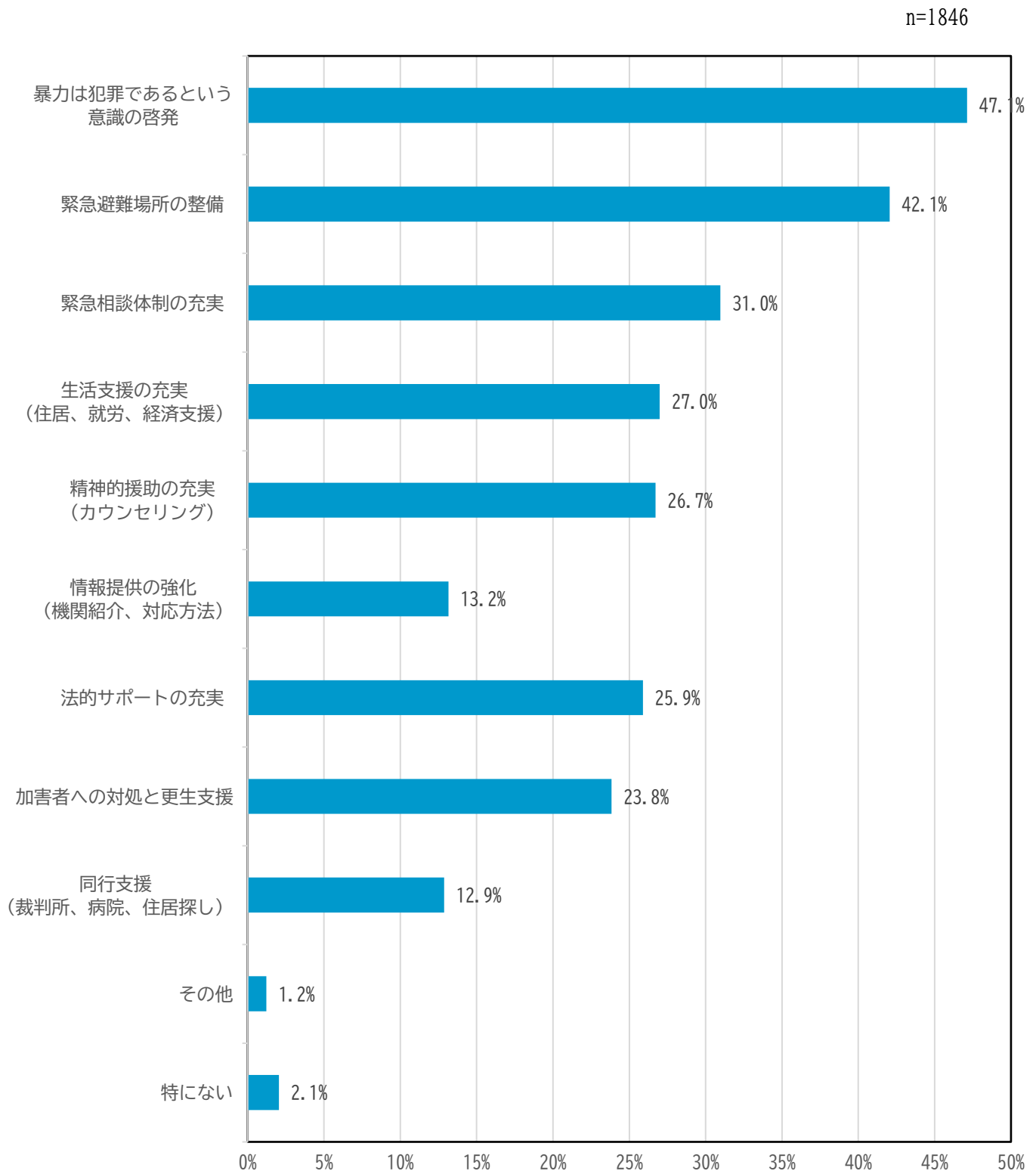
図 3-9-21



問 22 あなたは、配偶者や恋人など親しい間柄における暴力(DV)に対する対策や支援として重要だと思う取り組みは何だと思いますか。(3つまで選択可)

「暴力は犯罪であるという意識の啓発」が最も割合が高く、次いで「緊急避難場所の整備」が高い。

図 3-9-22

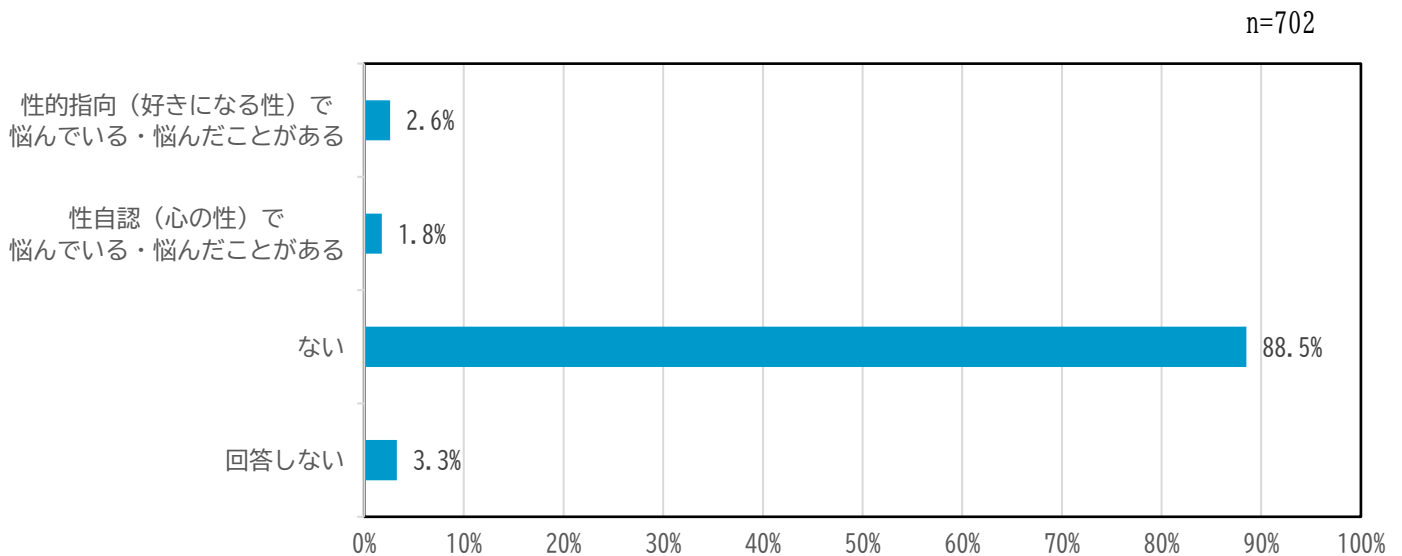


3-10 多様な性・性的マイノリティ（LGBTQ+）について

問23 あなたは、今までに自分の性的指向(好きになる性)や性自認(心の性)に悩んだことがありますか。

「性的指向で悩んでいる・悩んだことがある」が2.6%、「性自認に悩んでいる・悩んだことがある」が1.8%だった。

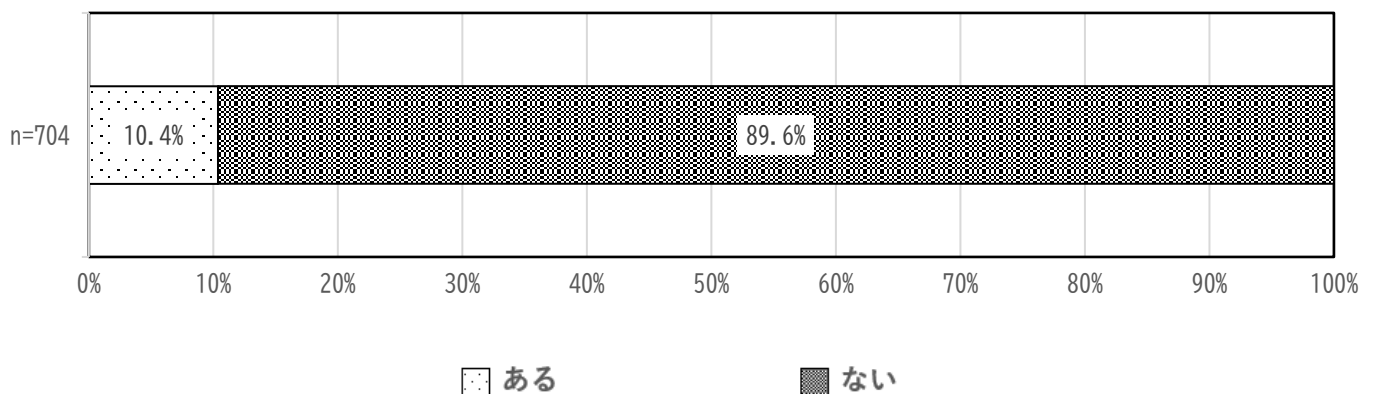
図 3-10-23



問24 あなたは、あなたの身の回りの人から、性的指向(好きになる性)や性自認(心の性)について相談を受けたことがありますか。

「相談を受けたことがある」が10.4%だった。男女別でみると、大きな差は見られない。

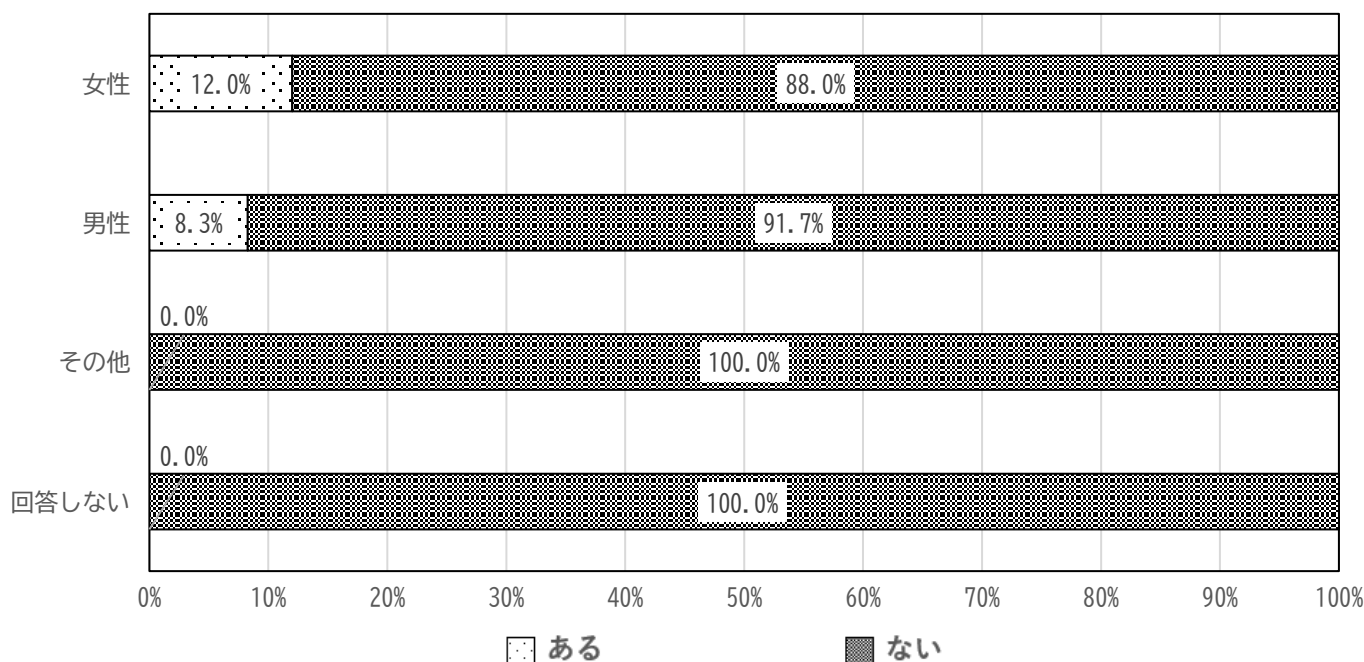
図 3-10-24



■属性別の特徴

F1.性別

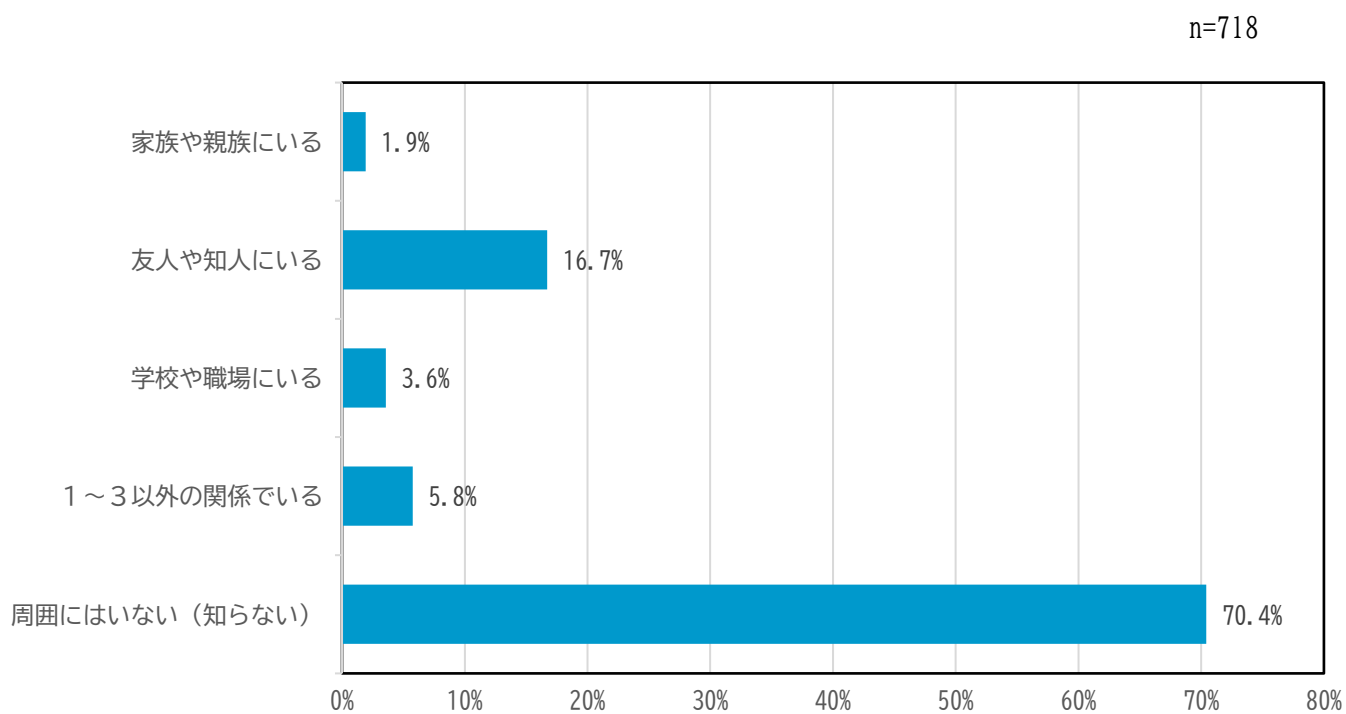
図. 3-10-24-1



問25 あなたの身の回りに性的マイノリティ(LGBTQ+)の当事者はいますか？(いくつでも選択可)

「友人や知人にいる」が16.7%だった。

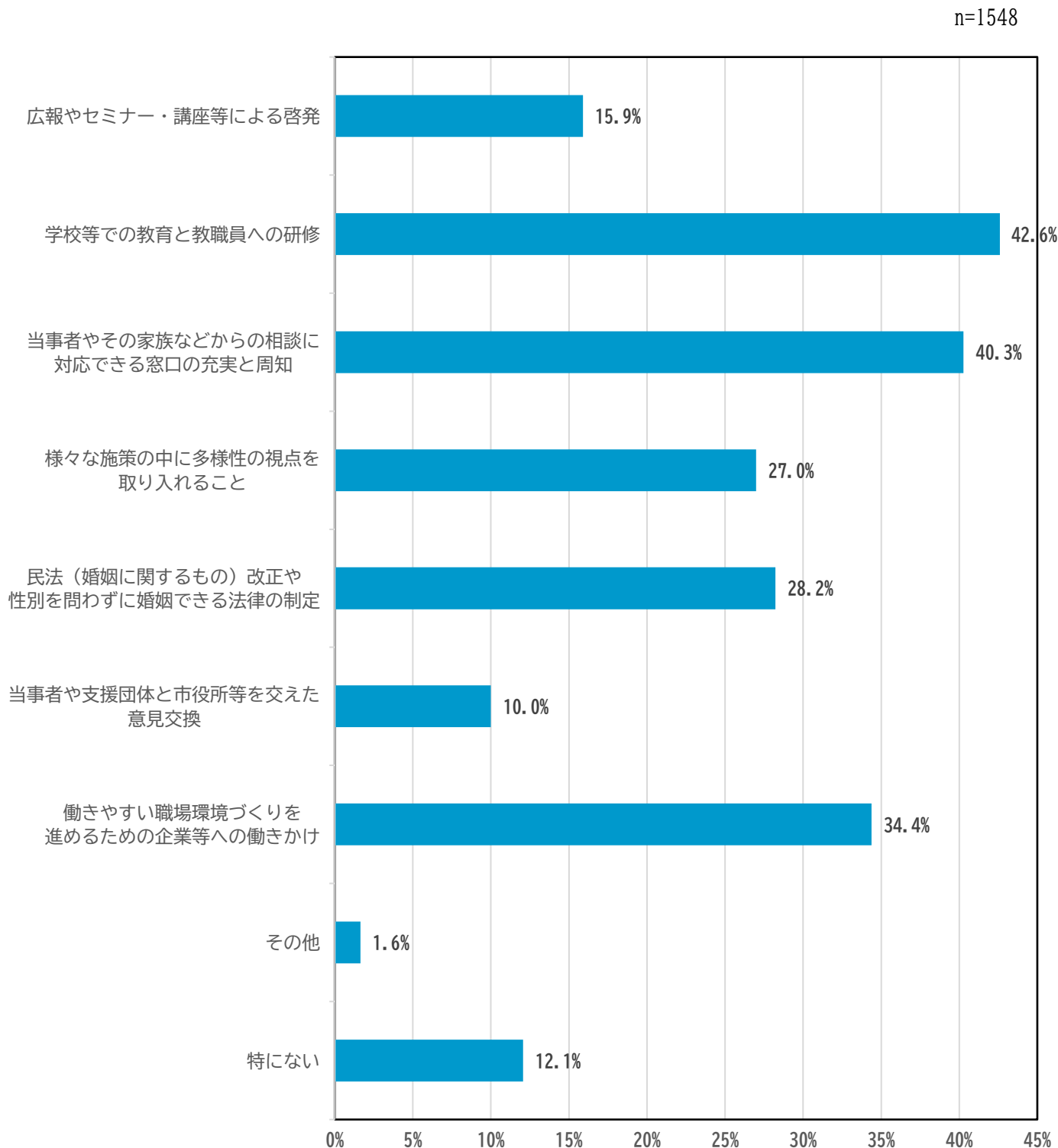
図 3-10-25



問 26 あなたは、性的マイノリティ(LGBTQ+)の当事者への支援として、重要だと思う市役所がすべき取り組みは何だと思えますか。(3つまで選択可)

「学校等での教育と教職員への研修」の割合が最も高く、次いで「当事者やその家族などからの相談に対応できる窓口の充実と周知」が高い。

図 3-10-26

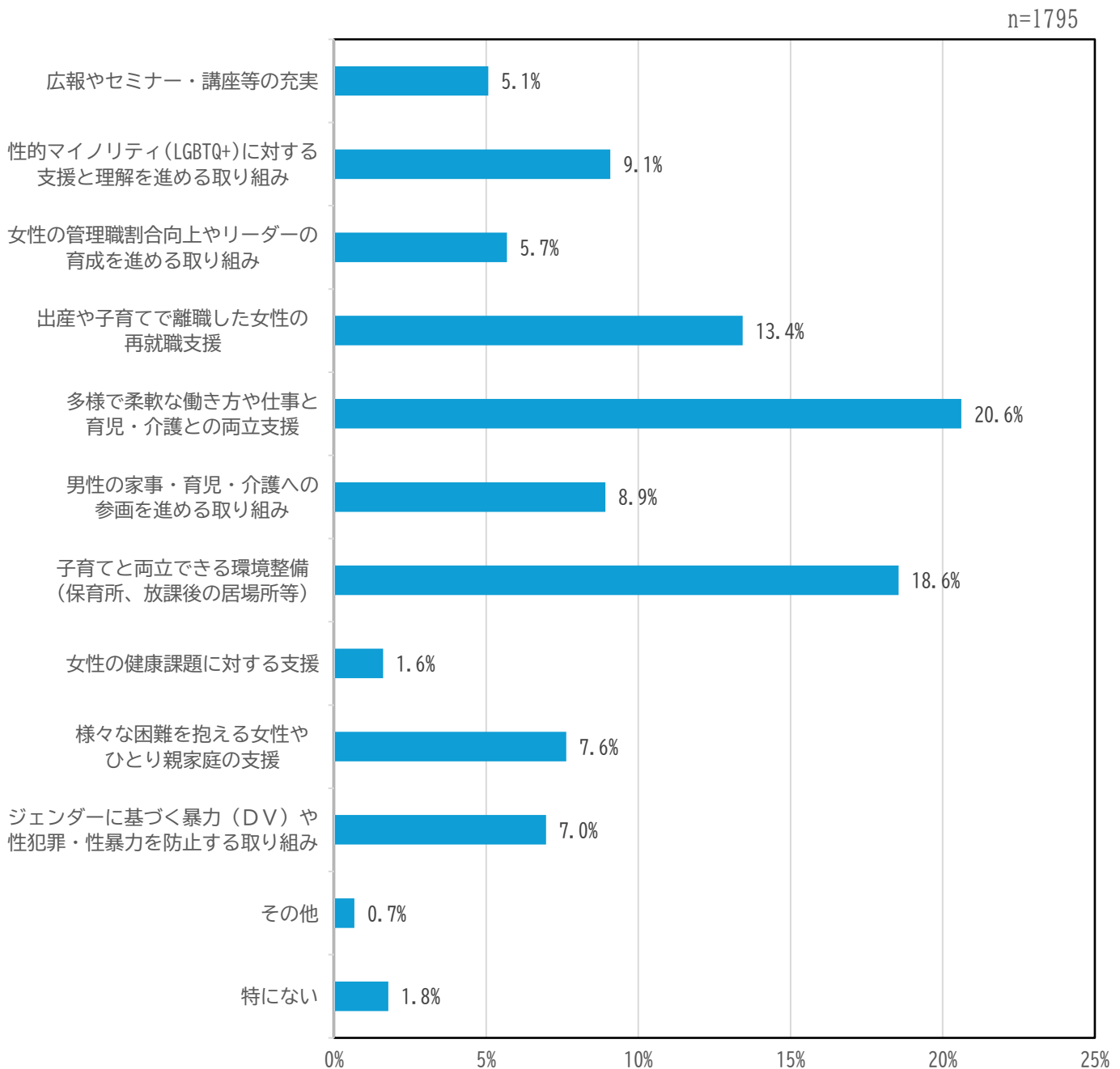


3-11 横須賀市が進める取り組みについて

問27 あなたが、男女共同参画社会、多様な性が尊重される社会の実現に向けて、横須賀市が特に重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。(3つまで選択可)

「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援」が最も割合が高く、次いで「子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）」が高い。男女別でみると、女性は「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援」が最も割合が高く、男性は「子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）」が最も高い。「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援」の割合で男女の大きな差が見られる。

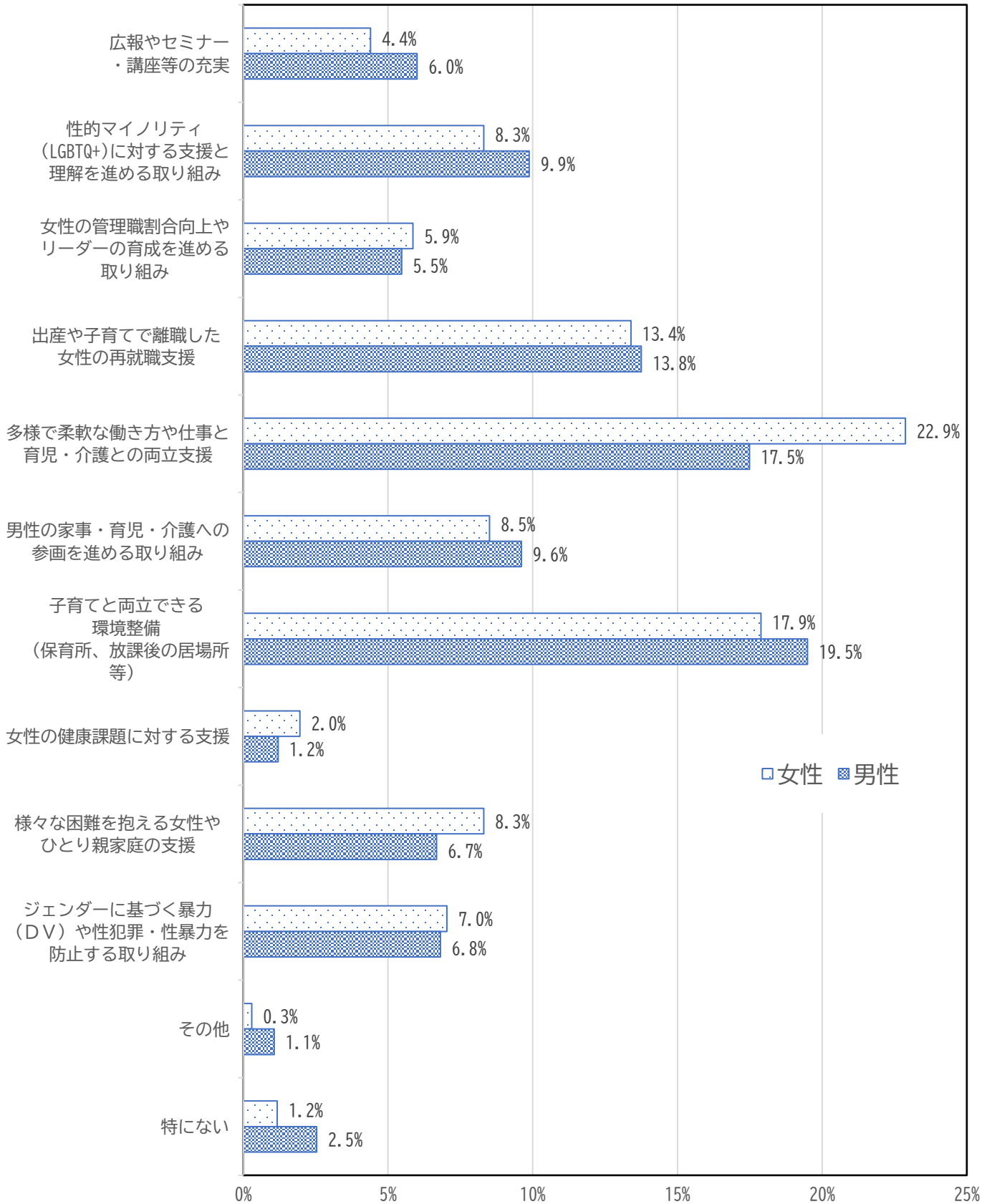
図 3-11-27



■属性別の特徴

F1.性別

図. 3-11-27-1



3-12 アンケート全般について

問 28 その他、ご意見等がありましたらご記入ください。(自由記入)

自由意見には 143 人から回答がありました。主な意見をまとめた結果は次のとおりです。

1. 男女共同参画に関する考え方 (44 件)

【特徴的な意見】

- ・「正しく実力が評価される、男女ともに公正な評価が受けられる社会が本当の男女共同参画だと思います。多くの人の意見が取りいれられ、理解が進む社会になることを願っています。」【30代・女性】
- ・「男女共同参画社会を率先して、横須賀市が全国のモデルになる様な取り組みをして欲しいと思います。」【50代・男性】
- ・「若い人の意識変革を感じますが、法的な変革はまだまだ全然です。」【60代・女性】
- ・「性別に関係なく、能力のある人が評価される社会であってほしい。」【30代・男性】
- ・「男女共同参画は、女性だけの問題ではない。男性も含めた意識改革が必要。」【10代以上・女性】
- ・「男・女ではなく、その人個人が今どんな状況にあり、どう暮らしていきたいのかに、対応し、理解していける社会が必要なのかなど。またこういったこと（特にジェンダーに関して）は、学校で、正しく取り扱えるように早くなると良いと感じています。」【30代・女性】
- ・「性別関係なく、平等に責任と利益を受ける、真の意味での男女平等を望んでいます。」【20代・男性】
- ・「男女が平等なだけでなく、公平である世の中であることが重要だと考えます。お互いを尊重し、思いやりを世界のあらゆる人類がもつことができれば良いと思います。」【50代・無回答】
- ・「ジェンダーの問題は、女性のためだけの支援、法整備と考えず、男女問わず支援できる様にするべきと思う。」【60代・男性】
- ・「自治会の活動はいつ見ても参加しているのはほぼ女性陣だったな、何でなんだろう、とアンケートに答えながら考えています。身近にある事柄から、考える力を養っていききたいです。」【20代・女性】

2. 女性活躍推進 (20 件)

【特徴的な意見】

- ・「女性の管理職が増えることは重要だが、最初から「全体の何%以上を目指す」のではなく、今まで行ってきた男性優位の見方を撤廃し、能力に応じた選び方をすべき。そうすればおのずと女性管理職の割合は増えるはず。」【20代・女性】
- ・「女性の社会進出については、今以上に制度等が充実して増えていってほしいと思います。」【40代・女性】
- ・「子どもを産むのは女性だけということもあり、女性の会社での立場や休まざるをえないのは仕方ないことだと思います。ですが、その後の支援だったり、子育て支援、保育園拡大があれば、女性も社会に戻りやすくなると思うので、子育てのバックアップを重点的にしていただきたいです。」【20代・女性】

・「横須賀市も、もっと、女性が力を発揮する（できる場所）チャンスをあたえることを、してほしいです。今はたくさん女性が働きはじめているので、もっと横須賀市は応援してほしいです。」

【70代以上・男性】

・「女性の管理職登用を増やすべき。」【50代・女性】

・「女性が働きやすい職場環境の整備は急務。」【70代以上・女性】

3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（30件）

【特徴的な意見】

・「育休・産休制度の充実には賛成ですが他の職員の負担への配慮も必要だと思います。手当支給など育休をとることを周囲もプラスと思えるような制度が充実すると、社会全体の理解につながると思います。」【20代・女性】

・「考えて、気付きを得て、行動できる人作りをする。家庭と地域、学校、行政と企業が正しく分業をして協働して子育てや介護が出来る社会の仕組み作りをして欲しい。」【60代・男性】

・「多様な社会人が安心して就労ができるような支援、場所の情報の提供などが必要。」【20代・男性】

・「出産、子育てで離職しない仕組み、代替配置など、誰もが産休、育休をとりやすい環境作りが必要。」【60代・女性】

・「介護で退職する女性の話を聞くことが増えた。一時的な給料減や、在宅でできる仕事だけに負担を変更するなど、なんとか退職しなくても可能なやり方、支援策が増えてほしい。」【40代・女性】

・「家庭と仕事の両立、男性も育児休暇を取りやすく…など、社会課題だということは理解しています。育児中の女性も、大変だとは思いますが、以前に比べて仕事を続ける選択を選びやすくなっているのでは、と思います。その中で、『そうでない人』が働きづらさを感じる人が多いのではないかと感じます。」【30代・女性】

4. 男性の家事育児介護参画（9件）

【特徴的な意見】

・「男性の育児休業を推進するのは良いが、人材確保をしたり負担を強いられる周囲への支援をきちんと行える仕組みがあればみんなが働きやすくなると思う。」【20代・女性】

・「介護休暇は男性が積極的に取得できるようにしてほしい。」【50代・男性】

・「子育て世代への支援をもっと手厚くしてほしい。特に、男性の育児休業取得を促進する施策を期待します。」【20代・男性】

・「男性が家事・育児・介護に積極的に参加できるよう、意識改革を促す必要がある。」【40代・女性】

・「男性の家事・育児参加は、父親としての役割の重要性を認識すること。」【30代・女性】

5. ハラスメント（17件）

【特徴的な意見】

・「最近“ハラスメントを許さない”という意識が根づいてきていると思います。それ故に加害者は処分を受け、被害者が守られるようになってきたと思います。少しずつでも社会は変わっていくはずなので、全てのことに対して早期に対策をとってもらえることを期待しています。」

【30代・女性】

・「男女に限らずストーカーやセクシュアル・ハラスメント、性犯罪に関しては加害者をより厳格に罰し、再犯や新たな被害者が出ない取り組みをすべき。そうすれば人権侵害の被害は減っていくと思う。」【20代・女性】

・「ハラスメントの意味を社会やマスコミが正しく理解していないように思う。」【70代以上・男性】

・「ハラスメントは、個人の問題ではなく、組織全体の課題。」【10代・男性】

・「ハラスメント防止は、定期的な研修と相談体制の強化。」【30代・女性】

6. 多様な性・性的マイノリティ (17件)

【特徴的な意見】

・「性的マイノリティと左利きは同じくらいの割合です。私は左利きですが、社会は左利きを配慮した作りにはなっていません。性的マイノリティの教育をすることで、個々のもつ少数派の特性についての自己理解や乗り越えるための一助になればとも思います。」【30代・女性】

・「性的マイノリティや学生の性の悩みを聞く相談員を専門で各学校に配置して欲しい」【30代・女性】

・「性に関して、教員側に研修をすること。性の多様性の理解、尊重。大人も子供も性を幅広く学ばず、多様性を学ぶことによってかわらなくてもいけないのは周囲である事を考える。」【70代以上・男性】

・「横須賀市はよく取り組んでいる方だとおもう。LGBTQ+の問題は非常に難しい。身近に接する機会があっはじめて認識できた。それ以前は、言葉は理解できていても実際の本質は理解できていなかった。どの問題に対しても、少しずつ社会全体に働きかけつつ、時間をかけて啓発していく必要があると思います。」【60代・女性】

・「私はバイセクシャルです。地元である横須賀市がパートナーシップ宣誓をやっているのを知って嬉しくなりました。ありがとうございます。色々大変だと思いますが頑張ってください。」【20代・女性】

・「結婚は個人の自由です。性的マイノリティもそうですが、家族のあり方、それに伴う支援が充実する世の中になってほしいです。」【60代・女性】

・「多様な性への理解を深めることは、社会全体の豊かさにつながると思います。」【40代・男性】

・「LGBTQ+への理解は、教育現場から始めるべき。」【20代・女性】

7. ジェンダー平等と多様な性全般 (18件)

【特徴的な意見】

・知らない用語や制度がいくつもありました。知らなければ平等、不平等も判りません。意識を変えるためにも、まずは知る事が大事だと思います。【60代・女性】

・「すべてにおいて、子供（学校）の頃からの教育が必要であると思う。」【50代・女性】

・「知っている人知らない人の差が大きいと思うので 知っている人を確実に増やすため教育の機会を増やすのがよいと思う。」【50代・女性】

・「子供が考えることのできるイベント、ジェンダーや人権問題、男女均等等をやると良いと思う。良く分からなくても良いと思う。親と一緒に参加する事で、親が少しずつおしえてあげられると思う」【50代・女性】

・「男女共同参画社会を率先して、横須賀市が全国のモデルになる様な取り組みをして欲しいと思

います。」【50代・男性】

・「学校教育の場でのジェンダー教育を見直して欲しいと思った。聞くだけでは無く一人一人が考えることがとても重要だと思う。」【10代・女性】

・「社会に固定化されている役割分担意識の解消、子育て世代への支援、容易に預けることができる保育施設の整備、男性の家事参画（意識も含め）、などなど進めていく必要があると思います。」【50代・男性】

・「学校の道徳や総合でそのような話を何度かされたが、いつも軽い説明だけで終わってしまっているから、もっとしっかりと認知してもらわなければならない。」【10代・男性】

・「用語や制度の内容含めきちんと理解したうえで、何が必要なのか、必要な取り組みは何かを聞かないとかたよった意見になると思う。制度や取り組み、意見より先に、理解してもらおう事を重視した方が良いと思う。また難しい説明ではなく分かりやすい言葉で幅広い年齢に周知してもらおうのが大切だと思います」【20代・女性】

8. アンケートについて（22件）

【特徴的な意見】

・「このようなアンケートがあることを初めて知りました。設問のひとつひとつが非常に興味深いものでした。集計後の結果はアンケートの対象を問わず、多くの市民が目に見える場所にあると幸いです。」【20代・女性】

・「本調査が十分に検討され、市民生活へ反映されることを希望します。」【60代・男性】

・「このアンケートは、私自身の輪郭をそっとなぞるような時間でした。目に見えない声が、風のように届きますように。ありがとうございました。」【10代・その他】

・「心の負担が重いアンケートでした・・・半分答えられなかった・・・これからも個人の自由が潰れないか心配。」【60代以上・男性】

・「無差別にアンケートを取るのには構わないが、アンケートを答えた人には何かあってもよいと思う。アンケートといえど、人の時間を使っていることを忘れないでほしい。」【30代・女性】

・「一部選択肢から選びづらいものもありました。もう少し考えて選択肢を用意してほしいです。」【30代・男性】

・「アンケートは、回答者の負担にならないように配慮を。」【20代・女性】

・「難しい内容だったけれど勉強になりました。」【10代・女性】

9. その他（22件）

【特徴的な意見】

・「介護の手伝いで、この先自分の姿を重ねる不安な日々“誰も一人にさせないまち”のことに支えられています。アンケートに答える度に、どれも大切で、迷いました。」【50代・女性】

・「女性のひとり親（シングルマザー）への支援と同じように、男性のひとり親への支援もしてほしい。」【30代・女性】

・「知らなかった言葉がたくさんありました 知る事ができてよかったです。」【60代・女性】

・「人にはやさしい、横須賀であります様に」【70代以上・男性】

・「生きやすい世の中になるよう、市全体で取り組んでほしいです。」【20代・女性】

・「このアンケートの用語解説により普段何気なく入っていたものが少し理解できた様に思えます。困っている人々の為、これからも考えていってほしいと思います。」【60代・無回答】

・「悩める人はたくさんいると思いますが、市で開設している相談窓口があるならば、もっと積

極的に認知されるよう、広めたほうが良いと思います。SNS を使ったり、もっと身近にわかりやすく気づいてもらいやすいようにするとか。」【40代・女性】

・「思いもしなかったアンケートでしたが市が積極的に取り組まれるのは良いと感じています。難しい課題がたくさんあると思いますが がんばってほしいと思います。」【70代以上・男性】

・「横須賀が今まで以上に人権を尊重し素敵な街になる事を心から願っております。」【60代・女性】

・「横須賀に生まれ、横須賀で育ち、横須賀で最期を迎えるつもりでいるので、もっと子育てに魅力のある街作りをしてほしいと思います。」【40代・男性】

※1人で複数の意見を書かれている方がいるため、意見の総合計は人数を上回ります。

令和7年度 「横須賀市男女共同参画と多様な性についてのアンケート調査」 調査票

横須賀市では、男女共同参画と多様な性を尊重する社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めています。このたび、その推進のための基本方針となる「第7次横須賀市男女共同参画プラン」をつくるため、市民の皆さまを対象にアンケート調査を行います。

皆さまのご意見を今後の取り組みに活かしていくため、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年（2025年）8月

横須賀市長 上地 克明

回答目安時間 15分程度

次の①、②のいずれかの方法でご回答ください。

①調査票（この冊子）で回答

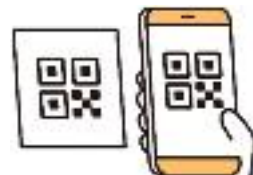
1. 調査票(この冊子)に記入してください。
2. 同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函してください。
3. 表紙（この紙）は取らずに、このまま投函してください。



②インターネットから回答

方法1：インターネットで以下URLを入力して回答画面を開いて回答

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0531/ankeito/r7danjo.html=@@@>



方法2：スマートフォンで右の二次元コードを読み取って回答画面にアクセスして回答

【回答の際は、オンライン回答用パスワード○▲○○×○○▲を入力してください】

二次元
コード

9月25日（木）までに、ご回答（ご投函）をお願いします

- ・調査は、無記名で実施します。回答者が特定されることは一切ありません。
- ・調査票は、住民基本台帳（2025年6月末日現在）から無作為に抽出した15歳以上の2,000人の皆さまにお送りしています。
- ・調査結果は、後日、市ホームページなどで公表します。
- ・アンケート後半には、人権侵害や多様な性に関するセンシティブな設問が含まれています。ご負担に感じる場合は、その設問については無理に回答していただくことなく結構です。

【お問合せ先】 横須賀市 市長室 人権・ダイバーシティ推進課
電話：046-822-8228（平日8:30~17:00）
メール：we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

よくあるご質問

■個人情報の取扱いについて

Q 調査依頼が自分に届いたのはなぜですか？

A 今回の調査は、横須賀市にお住まいの15歳以上の方2,000人を対象としています。住民基本台帳から無作為に抽出し、調査票をお送りしています。

Q 回答することで自分の情報が漏えいすることはありませんか？

A ご記入いただくのは「アンケートの回答」と「分析に必要な性別や年代などの属性の項目」のみです。調査票を返送いただいても、個人が特定されることはありません。回答内容は統計的に処理いたしますのでご安心ください。また、調査票や返信用封筒には、氏名や住所などの個人情報は一切記入せずご返送ください。

■その他

Q 回答した結果はどう使われるのですか？

A ご記入いただいた内容は自由記入の設問以外すべて数値化し、統計的に集計のうえ結果として公表します。この調査結果は、市民の皆さまの意識・お考えとして、今後の横須賀市の施策や取り組みに活用してまいります。

Q 回答しなくてもいいですか？

A 今回の調査は任意でご協力いただくものです。しかし、より実態を反映した調査とするため、できるだけ多くの方にご回答いただきたいと思いますと考えております。アンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力いただけますと幸いです。

■ご記入にあたって

- ① 選択肢の中から、あなた（あて名の方）ご自身の考えに最も近い選択肢を選んで○で囲んでください。
- ② 設問によっては、1つではなく複数の選択肢を選んでいただく場合があります。
- ③ 設問によって、回答していただく方が限られる場合があります。

はじめに、回答を統計的に分析するために、あなた自身のことをうかがいます

F 1 から F 6 それぞれについて、あてはまる選択肢に1つだけ○をつけてください。

F 1 あなたの性別※	1 女性 2 男性 3 その他 4 回答しない
F 2 あなたの年齢 (令和7年7月1日現在)	1 15歳～19歳 2 20歳～29歳 3 30歳～39歳 4 40歳～49歳 5 50歳～59歳 6 60歳～69歳 7 70歳以上
F 3 あなたの働き方等	1 正社員・正職員 2 契約・派遣社員 3 パート・アルバイト 4 自営業 5 家事専業・無職 6 学生 7 その他
F 4 あなたは 結婚していますか	1 している（事実婚・パートナーシップを含む） 2 していない（離別・死別含む）
F 5 あなたは中学生以下のお子さんはいますか	1 いる 2 いない
F 6 同一世帯に介護が必要な家族はいますか	1 いる 2 いない

※男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計（ジェンダー統計）上で必要なため、性別欄を設けています。また、多様な性の視点から、選択肢に「回答しない」「その他」を設けています。身体上、戸籍上の性別に関わらず、ご自身がどんな性別であると感じているか（性自認）に○をお願いします。

1 用語や制度の認知度についてうかがいます

問1 あなたは、次の①～⑩に掲げる用語や制度等を知っていますか。それぞれについて、あてはまる選択肢に1つだけ○をつけてください。

	選択肢		
	知っている 内容も含めて	聞いたことはあるが、 内容までは知らない	聞いたこともないし、 内容も知らない
① 男女共同参画 ※	1	2	3
② ジェンダー (gender)	1	2	3
③ ダイバーシティ (diversity)	1	2	3
④ 持続可能な開発目標 (SDGs)	1	2	3
⑤ ジェンダー・ギャップ指数	1	2	3
⑥ 性的マイノリティ	1	2	3
⑦ L G B T Q + (LGBT, LGBTsを含む)	1	2	3
⑧ S O G I (ソジ・ソギ)	1	2	3
⑨ アウティング	1	2	3
⑩ パートナーシップ宣誓証明制度	1	2	3

※男女共同参画

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うこと

その他の用語や制度の解説は、別紙に記載しています。ご参照ください。

3 生活の中での男女共同参画についてうかがいます

問4 あなたは、次の①～⑤の意見について、どのように思いますか。①～⑤それぞれについて、あてはまる選択肢に1つだけ○をつけてください。

	選択肢			
	賛成	賛成 どちらかといえば	反対 どちらかといえば	反対
① 男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである	1	2	3	4
② 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである	1	2	3	4
③ 女性は子どもを産む/産まないを選ぶ権利を持っている	1	2	3	4
④ 夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	1	2	3	4
⑤ 必ずしも結婚する必要はない	1	2	3	4

【現在、結婚（事実婚を含む）している方にうかがいます】

問5 家事や子育て等は、誰が日常的に担っていますか。①～③それぞれについて、あてはまる選択肢に1つだけ○をつけてください。②③は、該当ない場合（お子さんや介護する方がいない場合）は「該当しない」に○をつけてください。

	選択肢						
	夫と妻で分担して 協力している	主に妻が担っている	主に夫が担っている	夫と妻以外の家族が 担っている	外部サービス 利用している	その他	該当しない
① 家事	1	2	3	4	5	6	7
② 子育て	1	2	3	4	5	6	7
③ 介護	1	2	3	4	5	6	7

4 女性の職業生活における活躍を進めることについてうかがいます

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- 1 生涯にわたり、職業をもち続けるのがよい
- 2 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業をもつのがよい
- 3 子どもが生まれたらいったん職を辞め、その後は家事や育児に専念するのがよい
- 4 結婚したら職を辞め、家事に専念するのがよい
- 5 女性は職業をもたない方がよい
- 6 その他 ()

問7 女性が長く働き続けるためには、あなたは、どのようなことが特に重要だと思えますか。(○は3つまで)

- 1 男女間の賃金・昇進等の格差解消
- 2 育児・介護休業制度の充実
- 3 柔軟な勤務形態の導入(フレックスタイム制※・在宅勤務等)
- 4 保育・介護サービスの充実
- 5 育児や介護等で退職した社員の再雇用制度の整備
- 6 職場での健康支援の充実
- 7 家族や周囲の理解と協力
- 8 女性の意識改革
- 9 男性の意識改革
- 10 その他 ()
- 11 特になし

※フレックスタイム制

総労働時間だけを決め、出退勤の時刻は労働者の自由に任せること

問8 あなたは、政治、経済、地域活動において、リーダーや役員にもっと女性の参画が必要だと思えますか。(○は1つ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかというそう思う
- 3 どちらかというそう思わない
- 4 そう思わない

問12 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないことや、期間が短いのが現状です。あなたが、特に大きな要因だと思うものを選んでください。(○は3つまで)

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の同僚に申し訳ないと思うから
- 3 人手不足で代替りの人がいないから
- 4 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 5 休業後の職場復帰に不安があるから
- 6 仕事の量が多いから
- 7 仕事の責任が重いから
- 8 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから
- 9 女性の方が育児や介護に向いているから
- 10 その他 ()
- 11 特になし

問13 あなたは、今後、男性が家事・育児・介護などの家庭生活や、町内会・自治会やPTA等の地域活動をより積極的に行っていくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 男性が家庭生活や地域活動を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性が家庭生活や地域活動を行うことに対する女性の抵抗感をなくす
- 3 まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
- 4 男性が家庭生活や地域活動を行うことについて、職場における上司や周囲の理解を進める
- 5 多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 6 啓発や情報提供、相談窓口の設置
- 7 男性が家庭生活や地域活動を行うための仲間作りやネットワーク作りを進める
- 8 その他 ()
- 9 特になし

7 健康課題についてうかがいます

問14 女性の社会進出等の観点からも、女性の健康課題※に対する取り組みが重要視されています。女性の健康課題について、職場でどのような配慮があると働きやすいと思いますか。特に重要だと思う選択肢に○をつけてください。(○は3つまで)

- 1 経営陣・トップの理解
- 2 上司の理解
- 3 社員全体の理解
- 4 出産・子育てと仕事の両立支援
- 5 介護と仕事の両立支援
- 6 病気治療と仕事の両立支援
- 7 生理・更年期障害への支援環境
- 8 婦人科健診・検診への補助
- 9 その他 ()
- 10 特にない

※女性の健康課題

月経痛や月経前の時期の不調（PMS：月経前症候群）など月経周期に伴う不調、妊娠、不妊、更年期障害、婦人科系がん等の疾患や不調等

【20歳以上の女性にうかがいます】

問15 あなたは、過去2年間に以下の2つのがん検診※を受けましたか。それぞれの検診について、あてはまる選択肢に1つだけ○をつけてください。

※健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）の中で受診したものを含みます。

	選択肢	
	受けた	受けていない
【20歳以上の女性にうかがいます】 ① 子宮がん（子宮頸がん）検診（子宮の細胞診検査など）	1	2
【40歳以上の女性にうかがいます】 ② 乳がん検診（マンモグラフィ撮影や乳房超音波（エコー）検査など）	1	2

11 横須賀市が進める取り組みについてうかがいます

問 27 あなたが、男女共同参画社会、多様な性が尊重される社会の実現に向けて、横須賀市が特に重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。
(○は3つまで)




- 1 広報やセミナー・講座等の充実
- 2 性的マイノリティ(LGBTQ+)に対する支援と理解を進める取り組み
- 3 女性の管理職割合向上やリーダーの育成を進める取り組み
- 4 出産や子育てで離職した女性の再就職支援
- 5 多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援
- 6 男性の家事・育児・介護への参画を進める取り組み
- 7 子育てと両立できる環境整備(保育所、放課後の居場所等)
- 8 女性の健康課題に対する支援
- 9 様々な困難を抱える女性やひとり親家庭の支援
- 10 ジェンダーに基づく暴力(DV)や性犯罪・性暴力を防止する取り組み
- 11 その他()
- 12 特になし

12 アンケート全般についてうかがいます



問 28 その他、ご意見等がありましたらご記入ください。(自由記入)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました
ご記入がおわりましたら、同封の返信用封筒にて投函してください。

用語解説

用 語	意 味
男女共同参画	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うこと
ジェンダー (gender)	社会的・文化的に形成された性別のこと。生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）ではなく、社会通念や慣習の中で作り上げられた男性像・女性像のこと
ダイバーシティ (diversity)	「多様性」を指す英語。性別や国籍、年齢などを問わず、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます
持続可能な開発目標 (SDGs) Sustainable Development Goals	平成 27(2015)年 9 月に国連で採択された、平成 28(2016)年から令和 12(2030)年までの国際目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むため、先進国を含む国際社会全体の目標として 2030 年を期限とする包括的な 17 の目標 (SDGs) を設定しました
ジェンダー・ギャップ指数 	世界経済フォーラムが、経済・教育・健康・政治の分野毎に各使用データをウエイト付けしてジェンダー・ギャップ指数を算出しています。「0」が完全不平等、「1」が完全平等を表しています
仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)	一人ひとりが、性別や年齢にかかわらず、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること
デュオよこすか 	横須賀市立総合福祉会館（横須賀市本町 2-1）の 5 階にある横須賀市の男女共同参画及び多様な性を尊重する社会推進施設。 「デュオルーム」と「女性のための相談室」があります。
デュオよこすか 女性のための相談室 	女性が日頃から抱える人間関係や生活上の悩み、法律上の悩みについての相談を女性相談員がお受けしています。 相談窓口には「一般相談」と「法律相談」があります。 ・電 話：046-828-8177 ・一般相談：月・水・金 9時～16時 ・法律相談：原則第3火曜日 13時30分～16時30分 詳細はQRコードからホームページをご覧ください。

用語解説

用語	意味										
性的マイノリティ (LGBTQ+)	<p>同性が好きな人や自分の性別に違和感を覚える人などのことをいいます。それぞれの頭文字をとって LGBTQ と呼ばれていますが、この他に「心の性」が男女どちらでもないという Xジェンダーや、どんな性別の相手にも性的欲求や恋愛感情を持たないアセクシュアルなど、色々なセクシュアリティの人がいるため、「LGBTQ+」ともいわれます。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">L (レズビアン)</td> <td>女性に性的あるいは恋愛感情を抱く女性</td> </tr> <tr> <td>G (ゲイ)</td> <td>男性に性的あるいは恋愛感情を抱く男性</td> </tr> <tr> <td>B (バイセクシュアル)</td> <td>好きになる性が異性と同性の両方に向いている人</td> </tr> <tr> <td>T (トランスジェンダー)</td> <td>体の性と心の性に違和感がある人</td> </tr> <tr> <td>Q (クエスチョニング)</td> <td>性のあり方がはっきりしていない、はっきりさせないことにしている人</td> </tr> </table>	L (レズビアン)	女性に性的あるいは恋愛感情を抱く女性	G (ゲイ)	男性に性的あるいは恋愛感情を抱く男性	B (バイセクシュアル)	好きになる性が異性と同性の両方に向いている人	T (トランスジェンダー)	体の性と心の性に違和感がある人	Q (クエスチョニング)	性のあり方がはっきりしていない、はっきりさせないことにしている人
L (レズビアン)	女性に性的あるいは恋愛感情を抱く女性										
G (ゲイ)	男性に性的あるいは恋愛感情を抱く男性										
B (バイセクシュアル)	好きになる性が異性と同性の両方に向いている人										
T (トランスジェンダー)	体の性と心の性に違和感がある人										
Q (クエスチョニング)	性のあり方がはっきりしていない、はっきりさせないことにしている人										
SOGI (ソジ・ソギ)	<p>SOGI とは、恋愛感情や性的な関心がどの性に向いているかを示す「性的指向 (Sexual Orientation) と、自分が認識している性別を示す「性自認 (Gender Identity)」の英語の頭文字をとった言葉。</p>										
アウティング	<p>カミングアウトした本人の許可なく、セクシュアリティを他の人に伝える事 (暴露すること、言いふらすこと) 相手が伝えてくれた事でも、他の人に (家族や親しい間柄でも) 知られたくないかもしれません。誰に伝えているか、きちんと本人に確認するようにしましょう。</p>										
パートナーシップ 宣誓証明制度 	<p>戸籍上の性別にとらわれず、同性カップルや事実婚の人などが、お互いが人生の大切なパートナーであることを宣誓し、市が公に証明する制度。また、横須賀市では、令和 6 年 1 月から、パートナー 2 人だけではなく、子どもや親等との家族関係を市が公に証明する「ファミリーシップ制度」を導入しました。</p>										
よこすか LGBTs 相談 	<p>同性または男女両方を好きになる人、性別に違和感がある人 (迷っている、はっきりしない人も含む) とその家族や支援者 (市内の学校・企業・支援施設など) のご相談に、専門の相談員が応じます。氏名や住所を伝える必要はなく、プライバシーは守られますので、どんな悩みでもご相談ください。</p>										

横須賀市男女共同参画と多様な性についての
市民アンケート調査結果報告書

発行年月日： 令和 8 年（2026 年） 4 月

編集・発行： 横須賀市市長室人権・ダイバーシティ推進課

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

電話：046-822-8228